

平成31年度

新入生の生活に関する調査報告書

令和2年3月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 23 年度から実施している「新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査」の平成 31 年度版です。

調査の目的は、学生本人および保護者の大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることであり、新入学生およびその保護者を調査対象として実施してきました。調査内容は、出身高校、家族、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（入学生調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（保護者調査）などであります。

この調査は、学生の保護者を対象とした学内で唯一の公的調査として位置づけられており、大学としてより充実した学生生活を支援する上での貴重な資料として活用させていただいております。

末筆となりますが、本調査にご協力してくださった本年度新入学生とその保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和 2 年 3 月 吉日

国立大学法人 お茶の水女子大学
理事
学生・キャリア支援センター長
三浦 徹

平成 31 年度新入生調査報告書のポイント

- 1. 新入生の 87.8%は「お茶大を第一志望」として入学しており、例年同様高い**
 - ・本学が第一志望の新入生は昨年度より 1.2 ポイント上昇、理学部は 81.3%で、平成 30 年度より 10.1 ポイント上昇
- 2. 「大学の授業」を頑張ろうとする割合は非常に高いが、「授業や単位」への不安もある**
 - ・この 1 年で頑張ろうと思う活動（複数回答）は「大学の授業」99.3%、「授業についていけるか」を心配する割合 68.0%。「留学」は 36.3%と昨年に続き上昇傾向
- 3. 卒業後の進路希望は、理学部では進学、文教育学部・生活科学部では民間企業就職が多い**
 - ・卒業後の進路希望（複数回答）は、「民間企業に就職する」52.7%、「大学院などに進学する（海外含む）」45.6%、「公務員」29.6%、「教師など専門職」25.1%
- 4. 実家から通学する学生は 57.5%、仕送りがない学生が増加の一方、10 万円以上の仕送り者は 36.6%と昨年並み**
 - ・賃貸アパートやマンション居住 27.7%、国際学生宿舍 15.0%、お茶大 SCC は 11.0%
 - ・「仕送りはない」と回答した学生は 8.6%（昨年度より 5 ポイント増）
- 5. 大学に期待する学生支援活動は「就職支援」**
 - ・大学の学生支援活動への期待（複数回答）は、「就職支援」に期待する人が 78.3.3%と最も多く、次いで「進路相談」66.6%。保護者調査でも「就職支援」への期待は 86.8%と高い

目次

調査の概要

第1章 「新入生調査」の結果

- (1) 出身高校
- (2) 家族構成
- (3) これまでの進路選択や学生生活
- (4) 大学入学後の生活の予定
- (5) 将来の進路

第2章 「新入生の保護者調査」の結果

- (1) 家庭の暮らし向き
- (2) 親の職業・学歴
- (3) 大学生活の不安・心配事

第3章 新入生および保護者調査の結果 ―奨学金・学生寮に関するクロス集計―

- (1) 問題・目的
- (2) 奨学金に関する結果
- (3) 学生寮に関する結果
- (4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

第4章 新入生「追加質問票」の結果

第5章 考察および今後の課題

- (1) 平成31年度新入生の特徴と考察
- (2) 奨学金と学生寮に関する考察
- (3) 学生・キャリア支援における課題

付表

1. 調査票（新入生調査）
2. 調査票（保護者調査）
3. 追加質問票（新入生調査）
4. 基礎集計表（新入生調査）
5. 基礎集計表（保護者調査）
6. 追加質問票自由記述集計（新入生調査）

執筆担当者

- | | |
|-------|--|
| 三浦 徹 | (理事、学生・キャリア支援センター センター長)
担当：はじめに |
| 大風 薫 | (学生・キャリア支援センター 准教授)
担当：1章、2章、5章(1)(3)、 |
| 新保 友恵 | (学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー)
担当：調査の概要、3章、4章、5章(2)、付表4、付表5、付表6 |

調査の概要

- **目的：**

入学を予定している学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とし、次の4点から構成される。

1. 新入生の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を、入学時から行うための情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定し、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭・進路などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

- **調査時期：**2019年3月

- **調査方法：**

質問紙調査票の郵送による送付・返送である。一般入試合格者および保護者に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査票返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。その他の選考による合格者および保護者には、別途、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

- **分析対象：**

回答をいただいたが、調査データの使用許可を得ることができなかった回答者を分析対象者から除いた。よって対象者は、平成31年度学部入学者419名、保護者410名である。但し、無回答・非該当の場合など、調査項目によって、サンプル数に多少の違いがある。各章を参照のこと。調査別の詳細は以下の通りである。

1. 「新入生を対象とした調査（新入生調査）」

平成31年度学部入学者485名。有効回答数419名（入学者のうち86.4%）。

学部別内訳	文教育学部	185名(入学者のうち85.6%)
	理学部	112名(同84.8%)
	生活科学部	120名(同87.6%)
	学部不明	2名

2. 「新入生の保護者を対象とした調査（新入生保護者調査）」

平成31年度学部入学生の保護者485名。有効回答数410名（入学者のうち84.5%）。

- **実施主体：**国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

- **個人情報について：**

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努め、学内の倫理審査も受けている。（詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html> 参照）

調査票は、大学で付けたID番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

参考文献

ベネッセ教育研究開発センター(2009)

「第1回 大学生の学習・生活実態調査報告書[2008年]」

<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3161>

日本学生支援機構 (2018)

「平成28年度 学生生活調査」

http://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/12.html

お茶の水女子大学 (2019)

「平成30 新入生の生活に関する調査報告書」

お茶の水女子大学 (2017)

「平成29年度 新入生の生活に関する調査報告書」

総務省統計局 (2011)

『平成22年国勢調査』

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センター (2008)

「全国大学生調査 第一次～第三次調査 基礎集計表」

http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/kiso2008_01.pdf

全国大学生生活協同組合連合会 (2019)

「第54回 学生生活実態調査の概要報告」

<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>

第1章 「新入生調査」の結果

第1章では、新入生419名に対する分析結果について報告する。学部別の内訳は、文教育学部185名、理学部112名、生活科学部120名である(学部無回答者2名)。

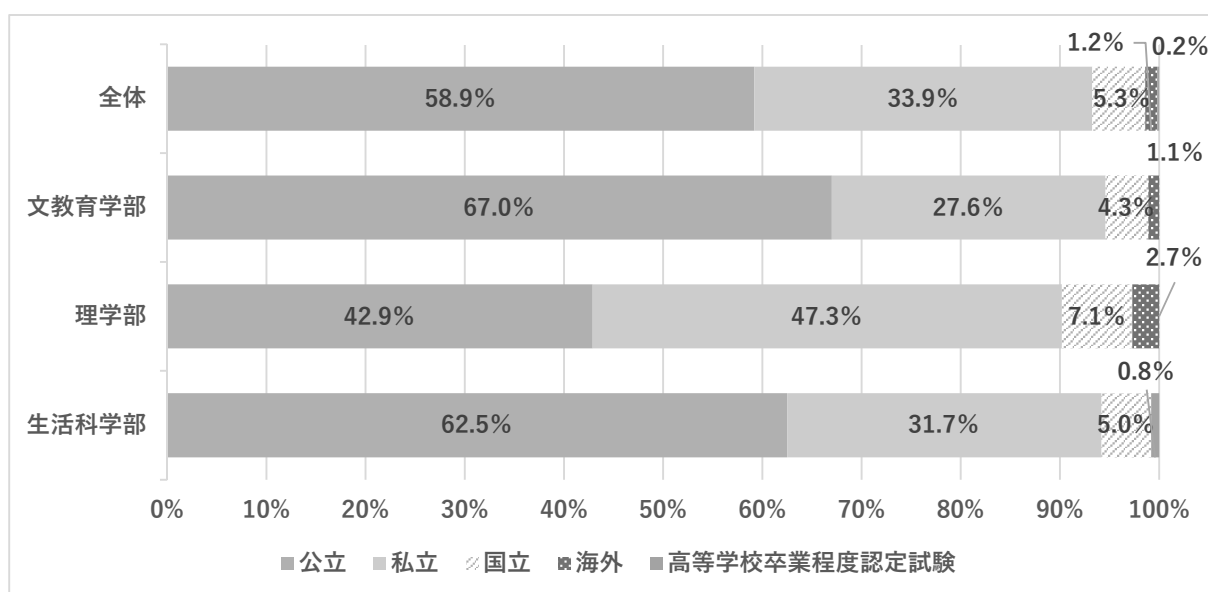
(1) 出身高校

はじめに出身高校について①設置者、②種類、③学科を示す。図表では新入生全体と学部別の内訳を示した。

① 設置者

図表1-1に出身高校の設置者についての結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験(高卒認定)」から選択してもらい回答を得た。

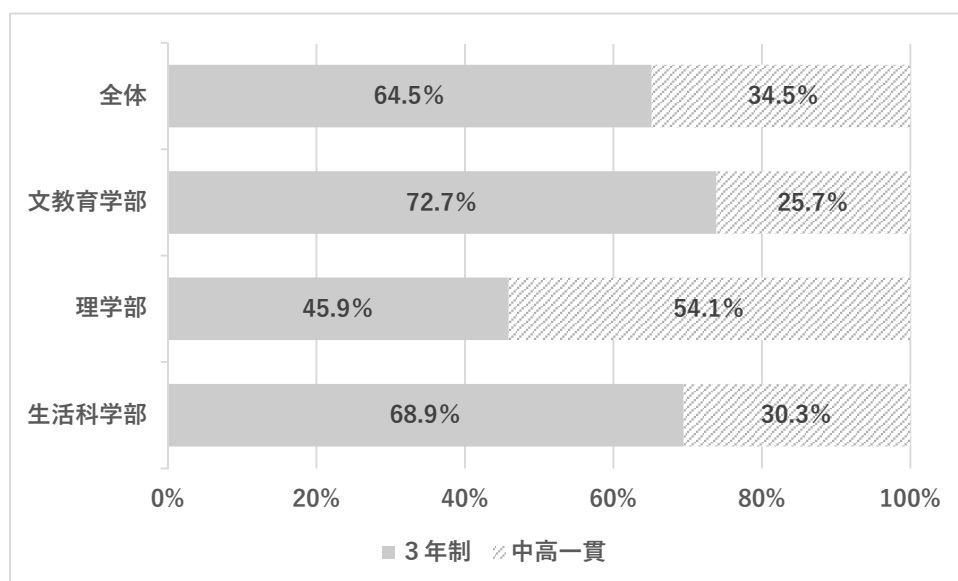
全体では、「公立」58.9%、「私立」33.9%、「国立」5.3%、「海外」1.2%であった。学部別では、文教育学部・生活科学部は「公立」の割合が高く(それぞれ67.0%、62.5%)、理学部は「私立」の割合が高い(47.3%)。このような学部における特徴は、過年度における結果でも同様であった。(お茶の水女子大学 2017; 2019)。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

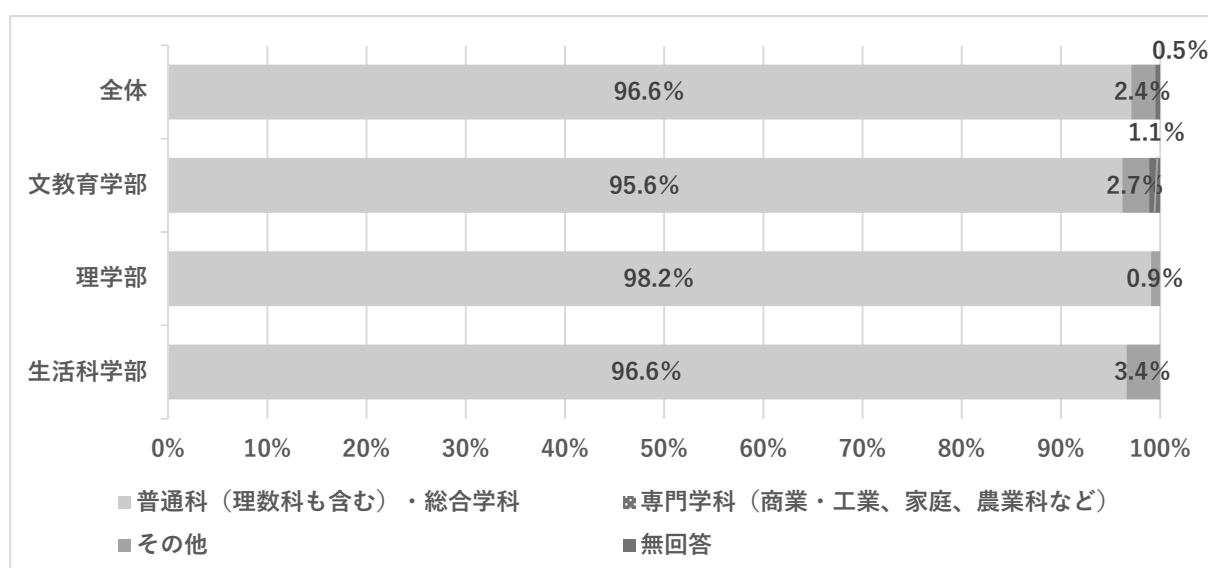
図表1-2に出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」の別に示す。全体では、「3年制」が64.5%、「中高一貫」34.5%であり、理学部では、平成30年度および平成29年度と比較し、「中高一貫」が増加する傾向がみられた(お茶の水女子大学 2017; 2019)。



図表 1-2 出身高校の種類

③ 学科

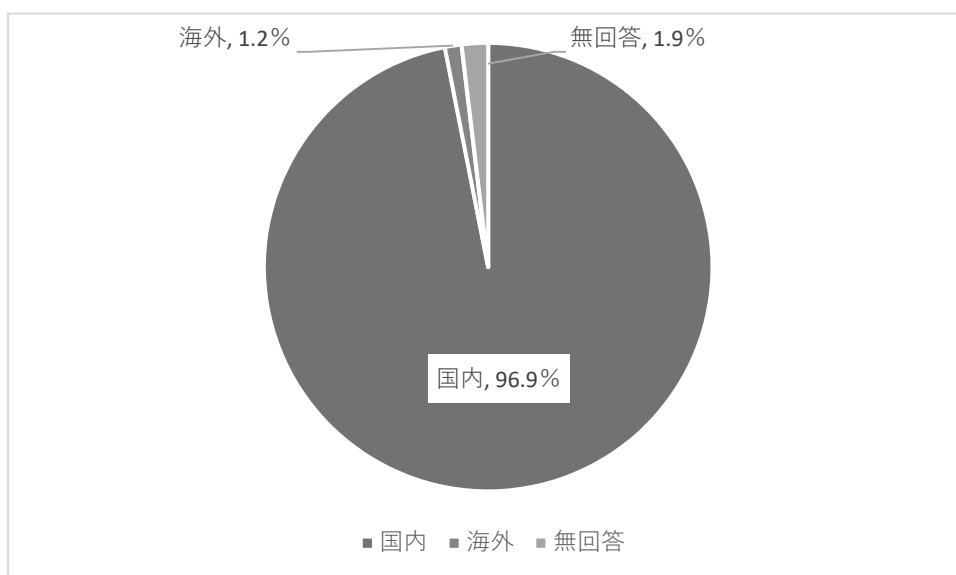
図表 1-3 に出身高校の学科を「普通科（理数科も含む）・総合学科」「専門学科（商業・工業、家庭、農業科など）」「その他」別に示す。全体の96.6%が「普通科・総合学科」であり、学部間の差異はない。この傾向は、過年度においても同様であった。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の96.9%が「国内」であり、1.2%が海外の高校を卒業している。これは、全学部で、また過年度とも同様の傾向であった。



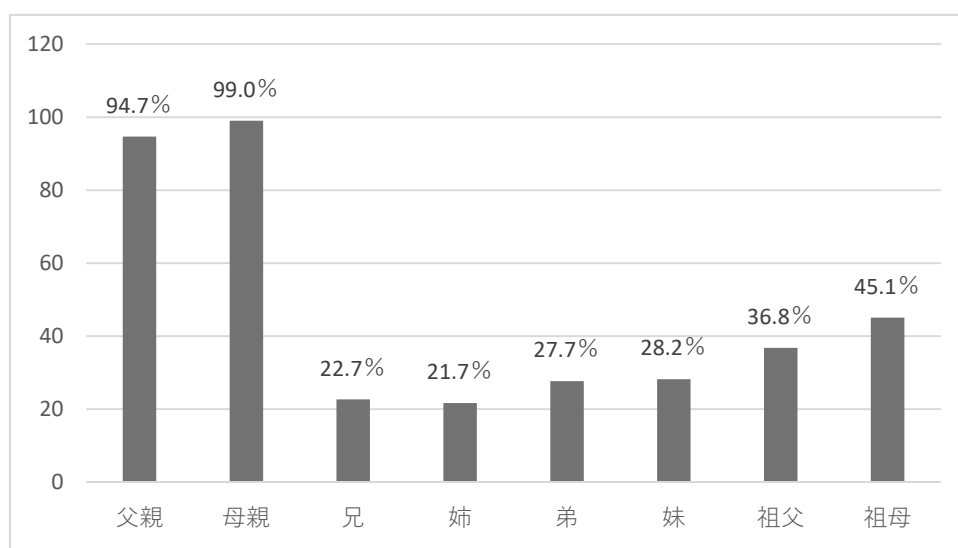
図表 1-4 出身高校の所在地

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②きょうだい数について示す。

① 家族の構成

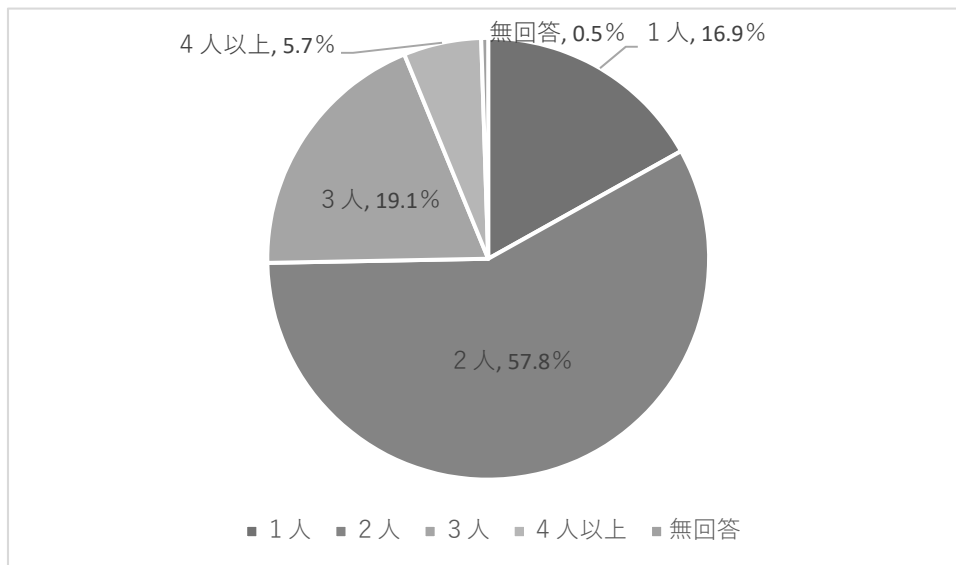
図表 2-1 に新入生の家族構成に関する結果を示す。同居を問わず家族構成について、複数選択可として回答を得た。家族の構成について、平成 30 年度や平成 29 年度からの変化は見られない。



図表 2-1 家族構成

② きょうだい数

図表 2-2 は自分を含めたきょうだい数を尋ねた結果である。2 人きょうだいの割合が最も高く (57.8%)、3 人きょうだいも 19.1%である。この傾向も例年と同様であった。



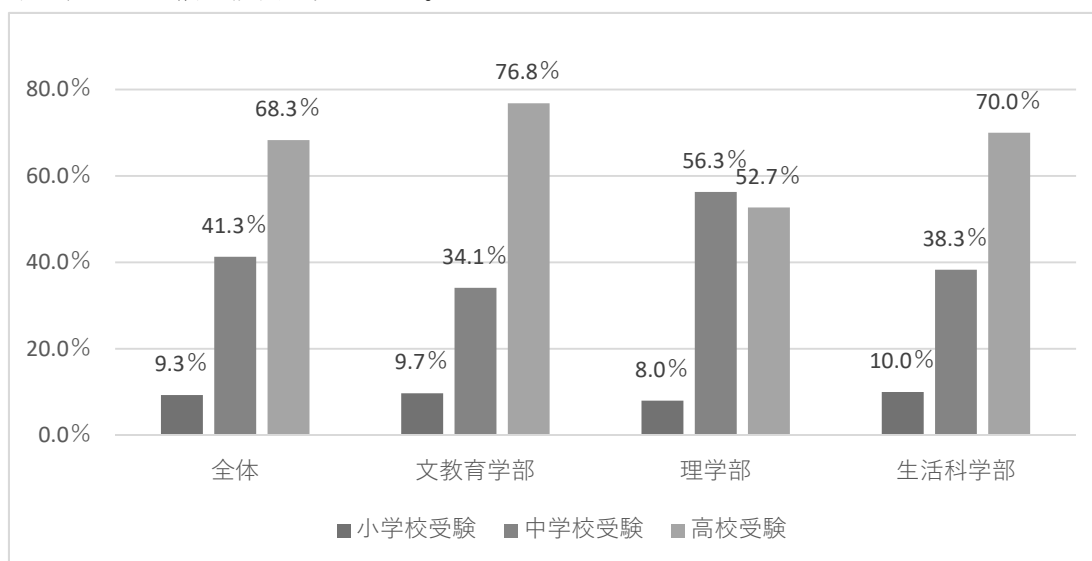
図表 2-2 自分を含めたきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

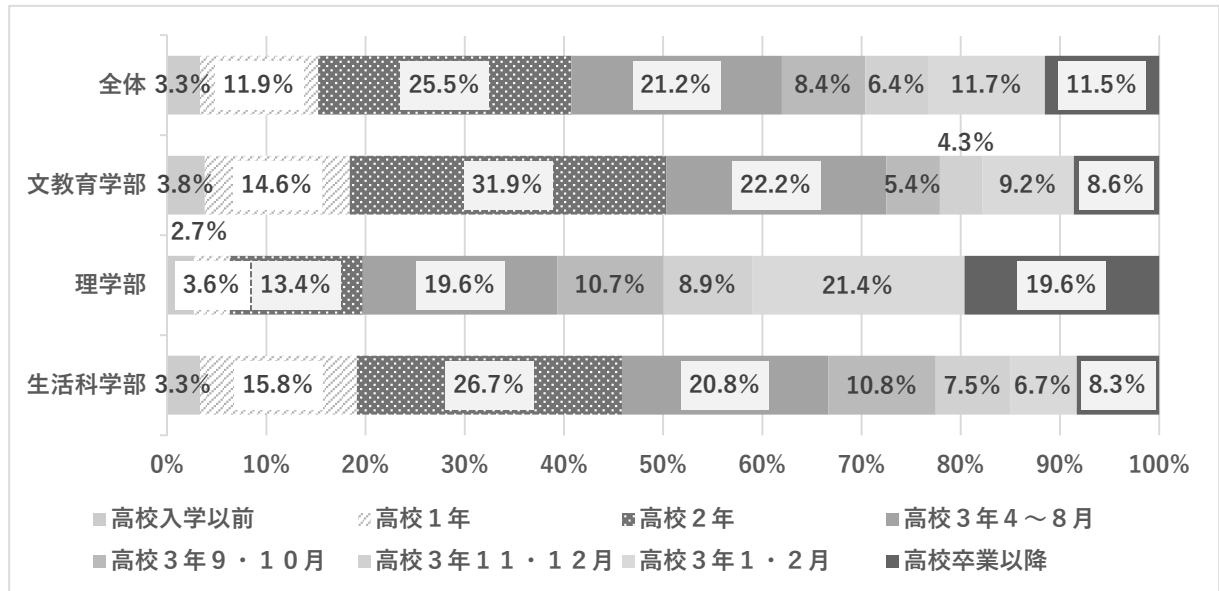
図表 3-1 は、これまでの受験経験について尋ねた結果である。全体の 9.3%が小学校受験を、41.3%が中学受験を、68.3%が高校受験を経験していた。この傾向は平成 30 年度および平成 29 年度においても同様であった(お茶の水女子大学 2017; 2019)。「第 1 回 大学生の学習・生活実態調査」における全国の大学生の中学受験経験率 18.8%、高校受験経験率 86.3% (ベネッセ教育研究開発センター 2009, p.41) との比較では、本学の新入生の中学受験経験率は高い方に、高校受験経験率は低い方に偏る傾向が見られる。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

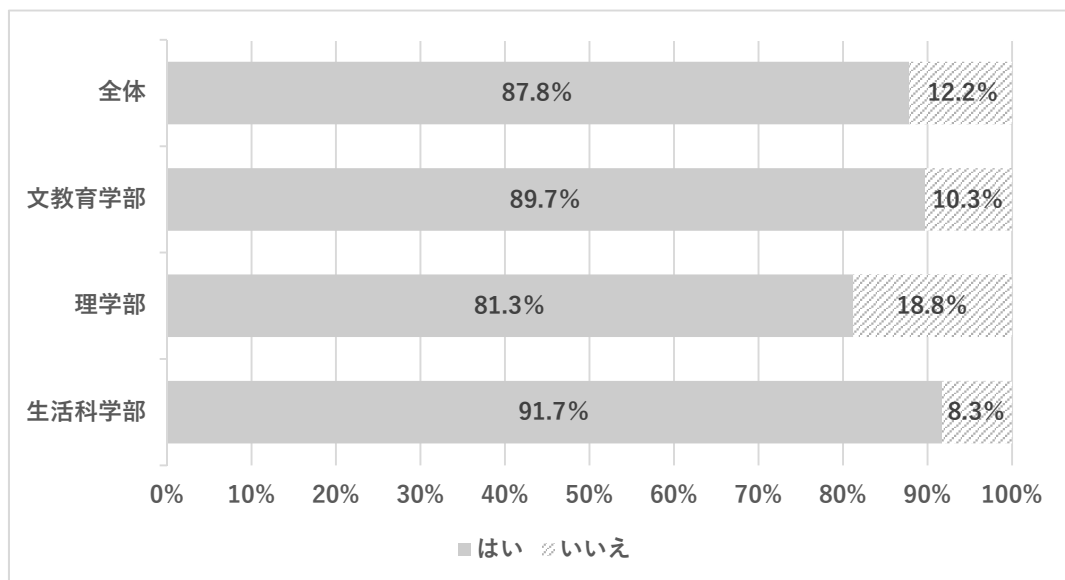
本学の受験を決めた時期について、その時期を尋ねた結果が図表 3-2 である。全体では「高校 2 年」25.5%および「高校 3 年 4～8 月」21.2%が高く、この傾向は過去 2 年とも同様である。理学部は、平成 30 年度に続いて高校 1 年の割合が 3.6%と低く、高校 3 年の 1・2 月および高校卒業以降の割合が高い傾向を示している(お茶の水女子大学 2019)。



図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 87.8%の新入生が本学を第一志望としており依然高く、平成 30 年度、平成 29 年度に比べてもやや高い傾向が見られる(お茶の水女子大学 2017; 2019)。学部別では、文教育学部、生活科学部は 9 割程度の新生が本学を第一志望と回答しており、例年と同様である。理学部の第一志望の割合は平成 30 年度 70.2%、平成 29 年度 77.4%であったが、今年度はやや上昇する傾向が見られた。

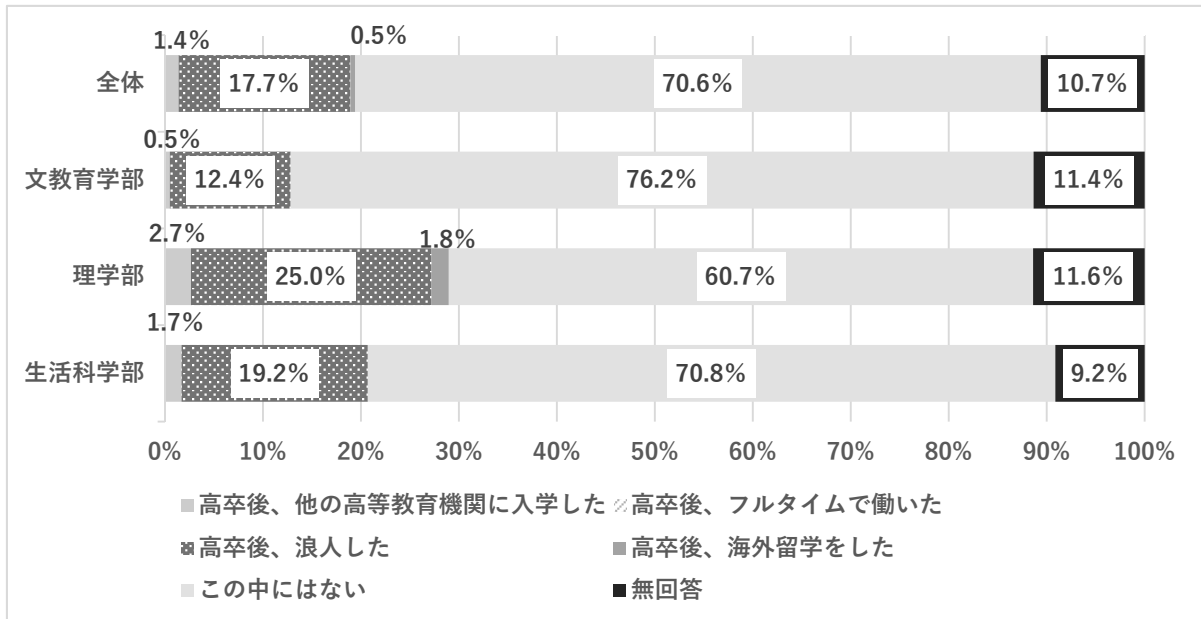


図表 3-3 本学の第一志望の度合い

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-4 である。

過年度と同様「この中にはない」が全体の 70.6%と最も高いが、「浪人」は全体 17.7%で、平成 30 年度・平成 29 年度にくらべて約 2~3 ポイント高い。各学部における浪人の割合は、文教育学部が相対的に低く、理学部および生活科学部が高いという傾向は平成 30 年度・平成 29 年度も同様である。今年度の新入生においても昨年度までと同様に、高校卒業から調査時点までの間に海外留学をしたものの割合は低かった。



図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

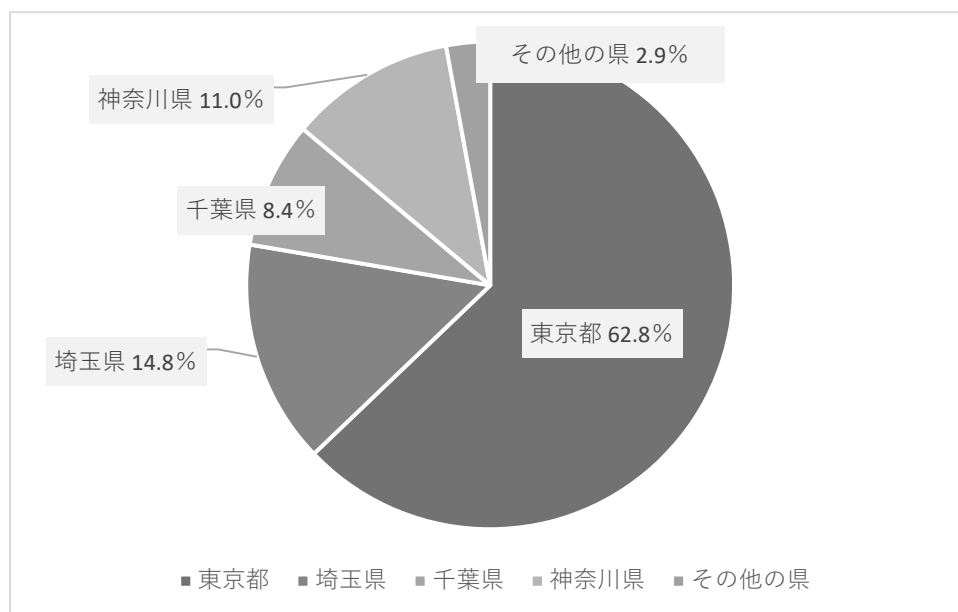
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定についての調査結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

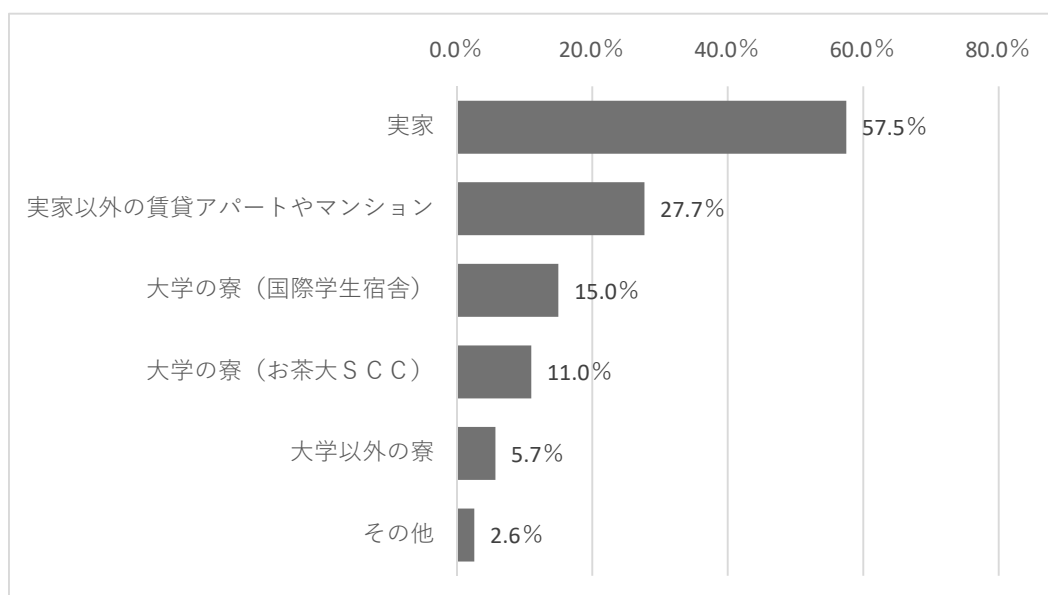
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について示す。全体では、東京都が 62.8%と最も高く、埼玉県、神奈川県、千葉県と続く。この傾向は例年と同様ある。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

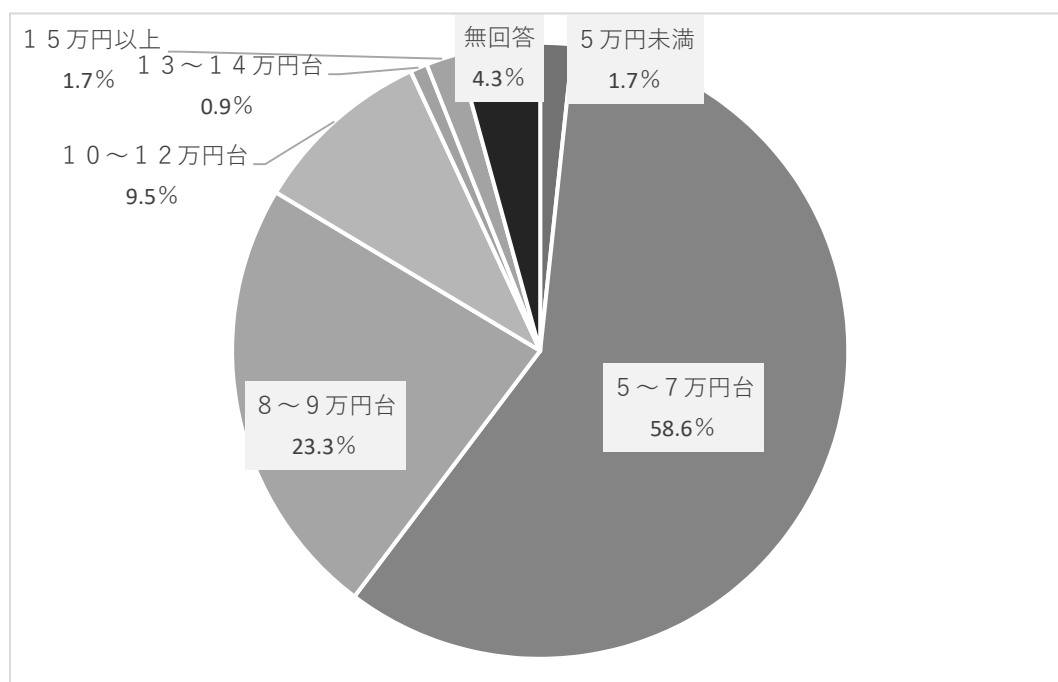
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「実家」が 57.5% を占め、次いで「賃貸アパートやマンション」27.7%、「国際学生宿舎」15.0%、「お茶大 SCC」11.0% といった学生寮が続き、過年度と同様である。理学部は実家の比率が 73.5% と文教育学部や生活科学部に比べて特に高い。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である¹。「5～7万円」が58.6%と最も多く、次いで「8～9万円」23.3%である。両者を合わせると8割超の学生が1か月の家賃として5～9万円を予定していることがわかる。平成30年度と比較すると「5万円未満」が1.7ポイント上昇、「5～7万円」の割合が5.5ポイント上昇しており、やや家賃予算が低下する傾向が見られた。



図表 4-3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

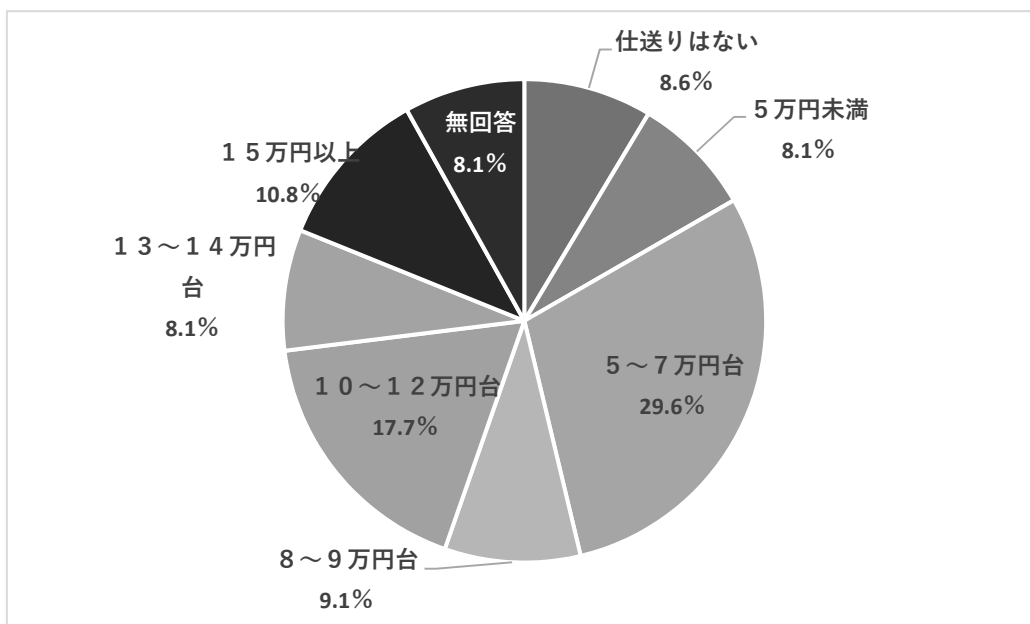
④ 1か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 は、1か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である²。「5～7万円台」が29.6%と最も多く、次に「10～12万円」17.7%となっており、例年と同様である。しかし、各カテゴリーの変化を詳細に見ると、「仕送りがない」新生入生は平成31年度8.6%と、平成30年度3.6%に比べて5ポイント上昇した。その一方で、平成30年度に比べて「5～7万円」は3ポイント低下したが「8～9万円」は3ポイント上昇し、10万円以上の仕送りがある割合は36.6%と例年と同様の傾向であった(お茶の水女子大学 2019; 2017)。

なお「第54回 学生生活実態調査の概要報告」(全国大学生生活協同組合連合会 2019)によれば、下宿生のうち、仕送り金額が5～10万円の学生の割合は33.5%、仕送り10万円以上は28.4%、仕送り0の割合は7.0%、5万円未満は16.0%となっており、仕送り0が緩やかに上昇している。この調査との比較において、本学学生の仕送り金額は、全国の大学生の平均的な水準よりもやや多いといえる。

¹ 本分析の対象者数は116名である。

² 本分析の対象者数は186名である。

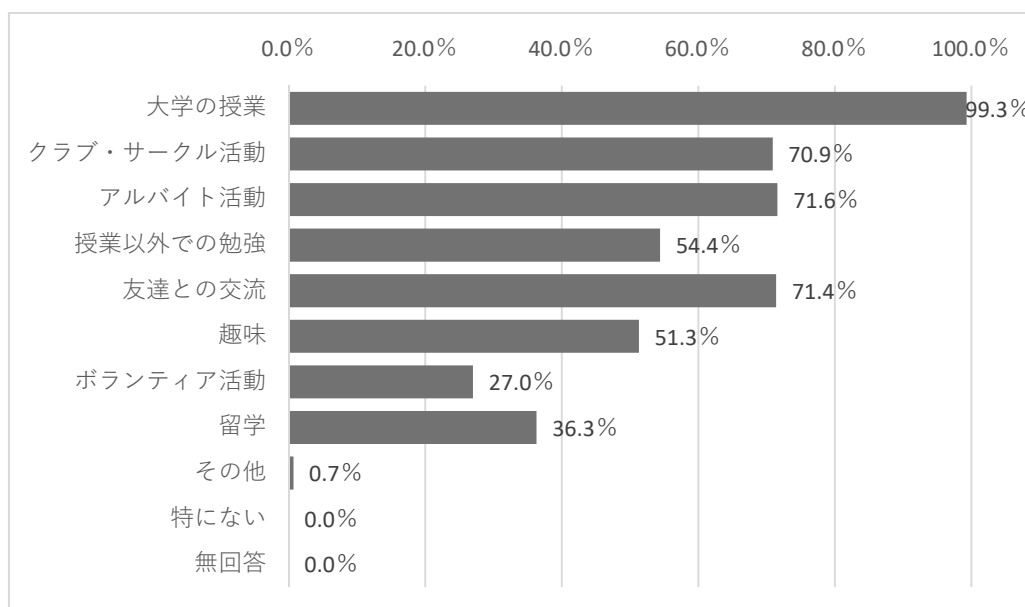


図表 4-4 1か月あたりの仕送り予定額

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が 99.3%と例年通り最も高い。続いて、「クラブ・サークル活動」70.9%、「友達との交流」71.4%「アルバイト活動」が 71.6%であり、これらの傾向も過年度と同様である。

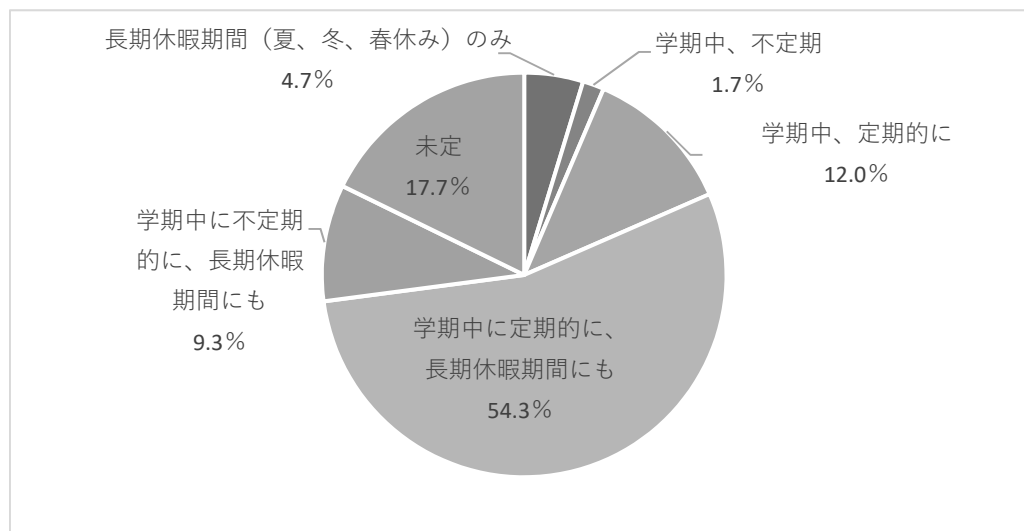
一方、平成 29 年度の調査から加えた「留学」は、平成 29 年度が 25.2%、平成 30 年度は 35.4%、平成 31 年度も 36.3%と上昇傾向にある。また、ボランティア活動も平成 30 年度に続いて約 3 割になった(お茶の水女子大学 2019)。



図表 4-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

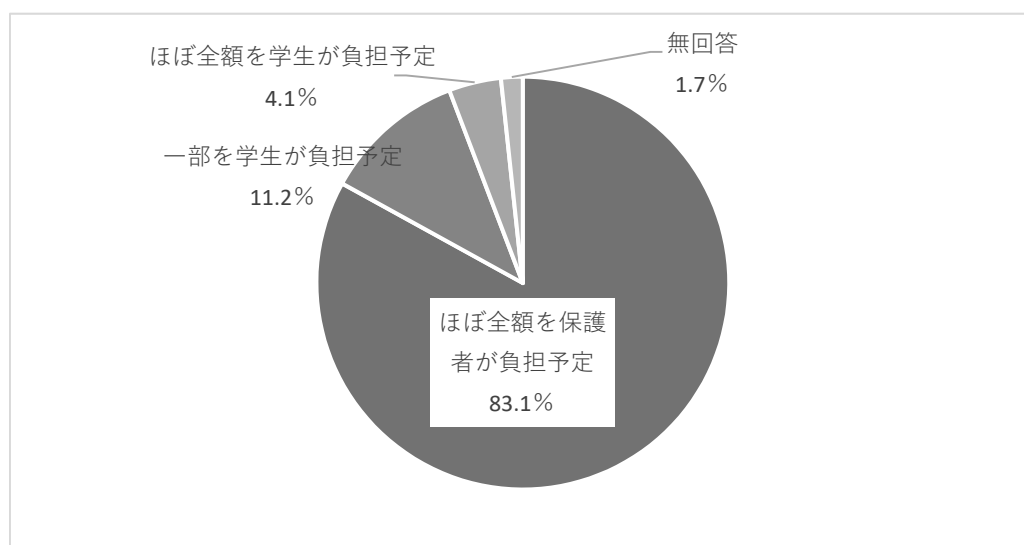
図表 4-6 は、入学後にアルバイト活動を予定している者に対して、具体的な活動時期や仕方を尋ねた結果である³。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」54.3%であり、「学期中に定期的に」12.0%と合わせると 66.5%になった。この傾向は平成 30 年度・平成 29 年度も同様であった。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 83.1%と高く、平成 30 年度に比べて約 4 ポイント低下した(お茶の水女子大学 2019)。同時に、「ほぼ全額を学生が負担予定」の割合が 4.1%と、平成 30 年度・平成 29 年度に比べて微増していた。



図表 4-7 授業料の負担予定

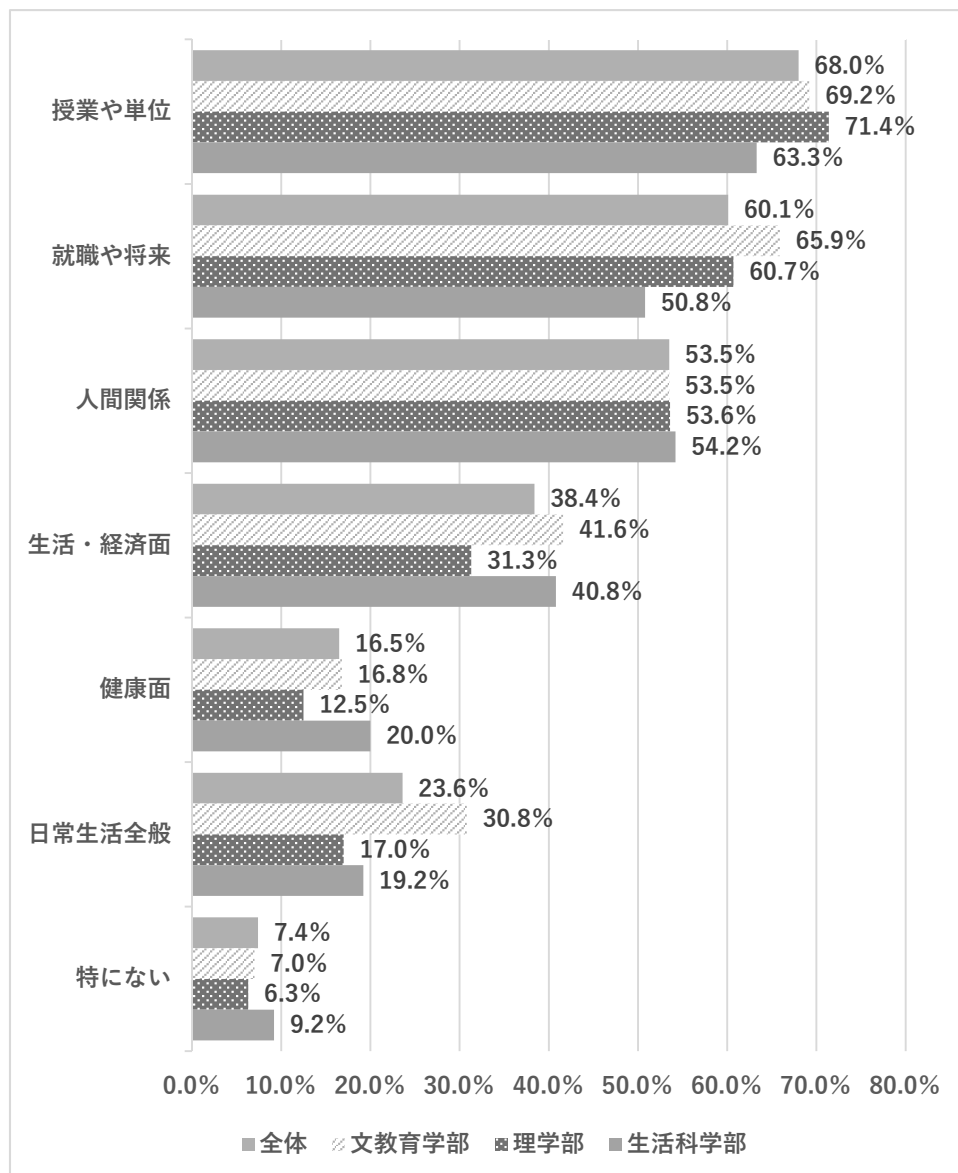
³ 本分析の対象者数は 300 名である。

⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果である。

最も高い割合を示したのは「授業や単位」(68.0%)で、「就職や将来」(60.1%)、「人間関係」53.5%が続く。これら上位3項目の割合は平成30年度にくらべていずれも微増しており、逆に「特にない」の回答割合は7.4%と昨年度にくらべて4ポイント低い。

学部別では、「授業や単位」について理学部の割合がやや高く、文教育学部は「就職や将来」「生活・経済面」「日常生活全般」についての回答割合が他学部より高い。生活科学部では「健康面」の割合がやや高い傾向が見られた。



図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

さらに図表 4-9 から図表 4-15 に大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて4件法で尋ねた結果を示す。図 4-9 「友達ができるか」について心配事として「あてはまる」「ある程度あてはまる」と回答した新入生は、全体の7割近くであった。同様に、「大学になじめるか」を不

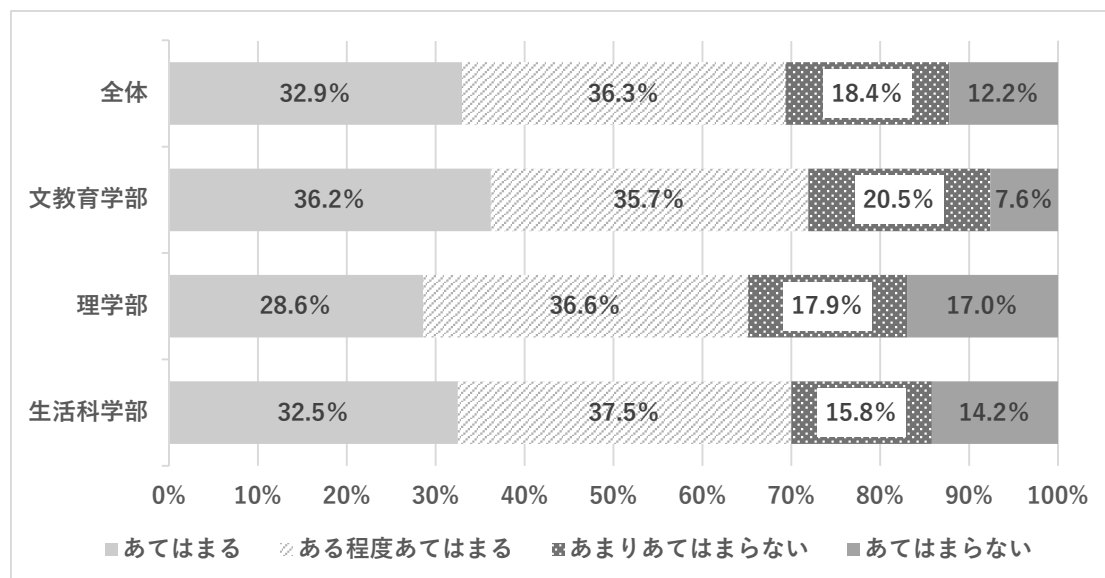
安に思う割合は、全体で6割超であり(図表4-10)、昨年度と同じ傾向である。

図表4-11「金銭面で負担がかからないか」は、全体で「あてはまる」22.2%、「ある程度あてはまる」33.4%で、この割合は理学部で低い傾向が見られた。この傾向も昨年度と同様である。

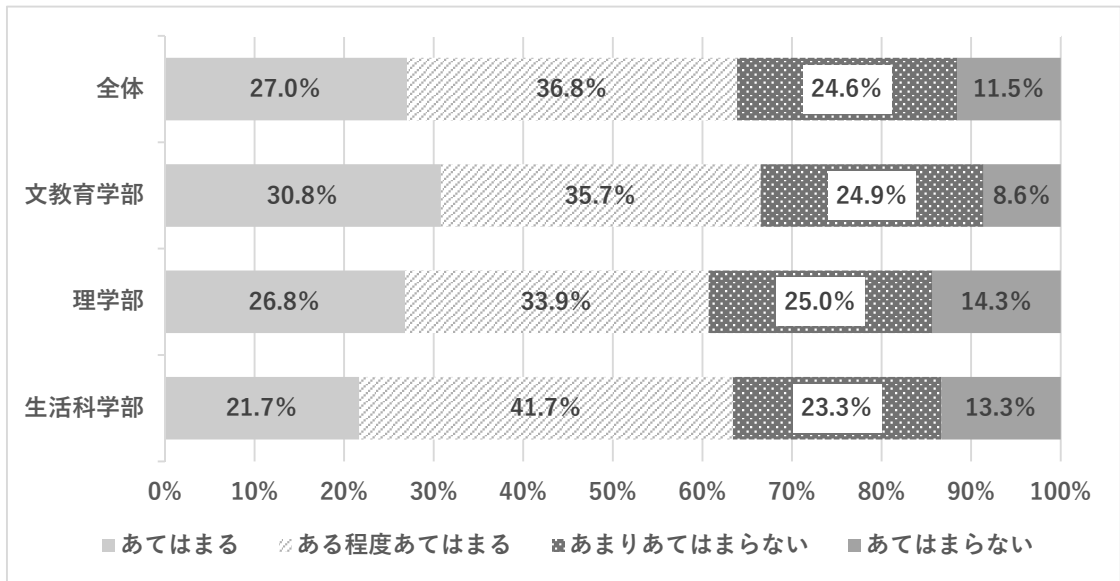
図表4-12「授業についていけるか」については、「あてはまる」34.8%、「ある程度あてはまる」41.1%で合計75.9%と、調査したすべての項目の中で昨年と同様に最も高かった。特に、文教育学部は「あてはまる」「ある程度あてはまる」の合計は82.1%と高い。図表4-13「進級や卒業ができるか」について「あてはまる」「あてはまらない」と回答した割合は52.0%で、理学部が58.1%と昨年度より高い様子が見られた。

図表4-14「将来の目標が見つかるか」は、「あてはまる」「ある程度あてはまる」合計で約6割と、昨年度より上昇している。特に理学部は昨年度に比べて16ポイント高い。「卒業後ちゃんと就職できるか」は「あてはまる」31.7%、「ややあてはまる」40.8%と合計で7割を超え、これも昨年度よりやや高くなっていった。

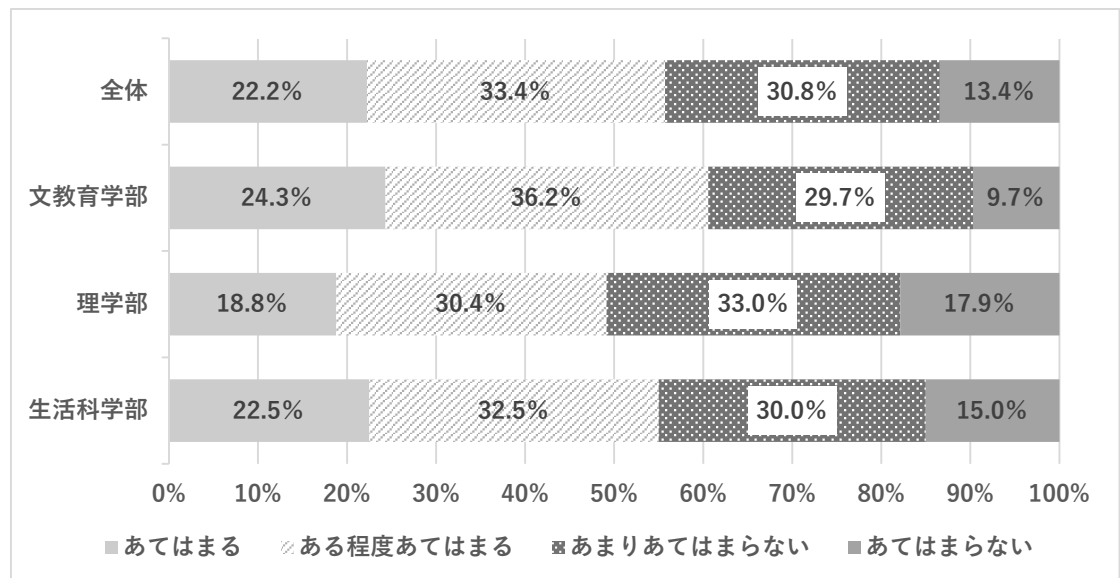
いずれの項目についても、新入生の半数以上は各項目に不安を抱えており、特に、友達、授業、就職に対する不安がより大きい傾向が見て取れる。また、学部別には、文教育学部は金銭面、授業への不安を、理学部は進級や卒業、将来の目標面の不安を示す傾向が見られた。



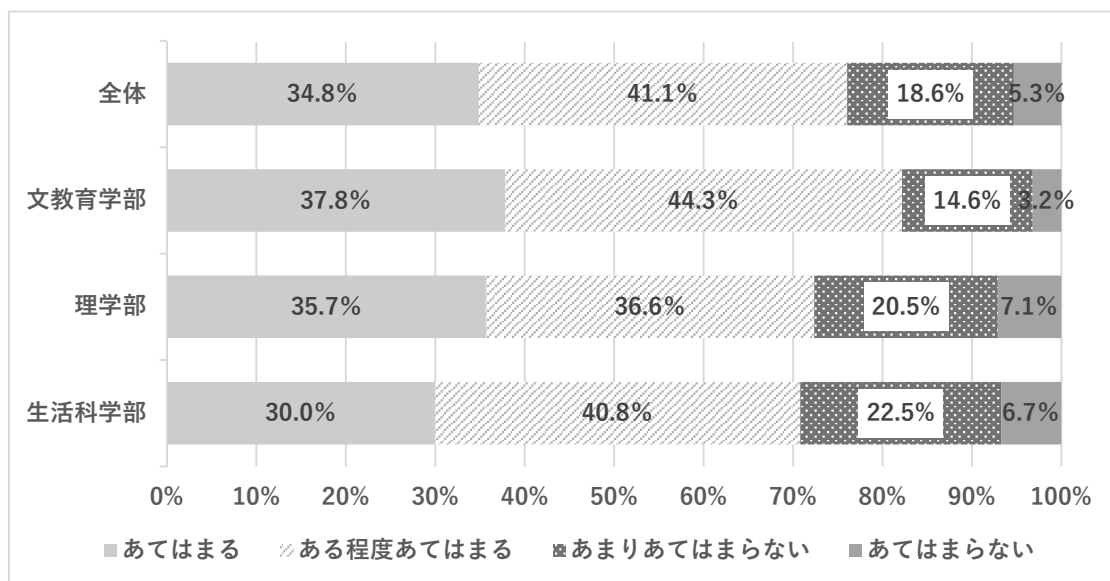
図表4-9 友達ができるか



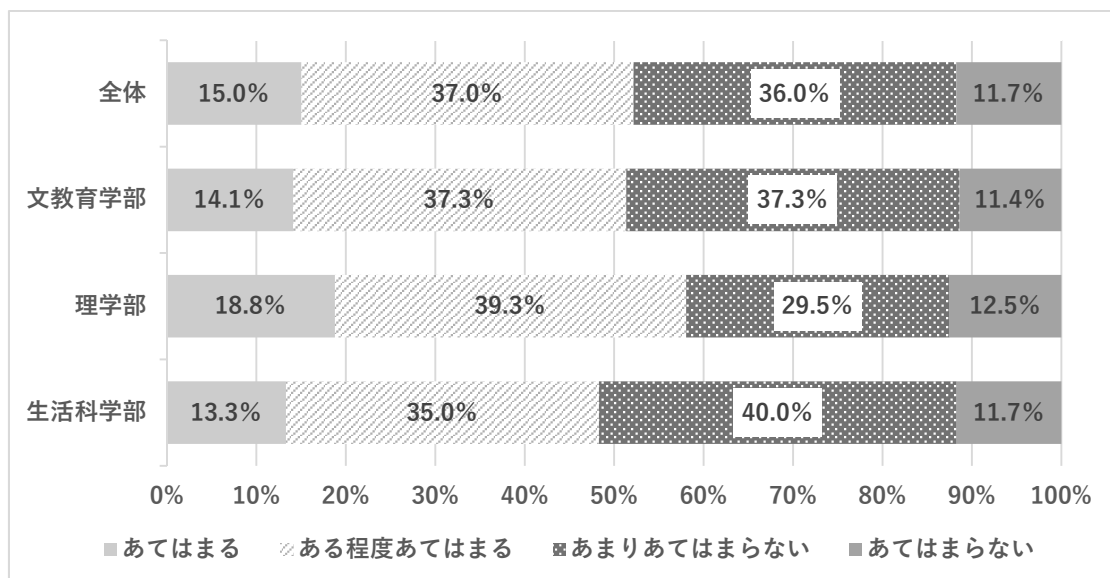
図表 4-10 大学になじめるか



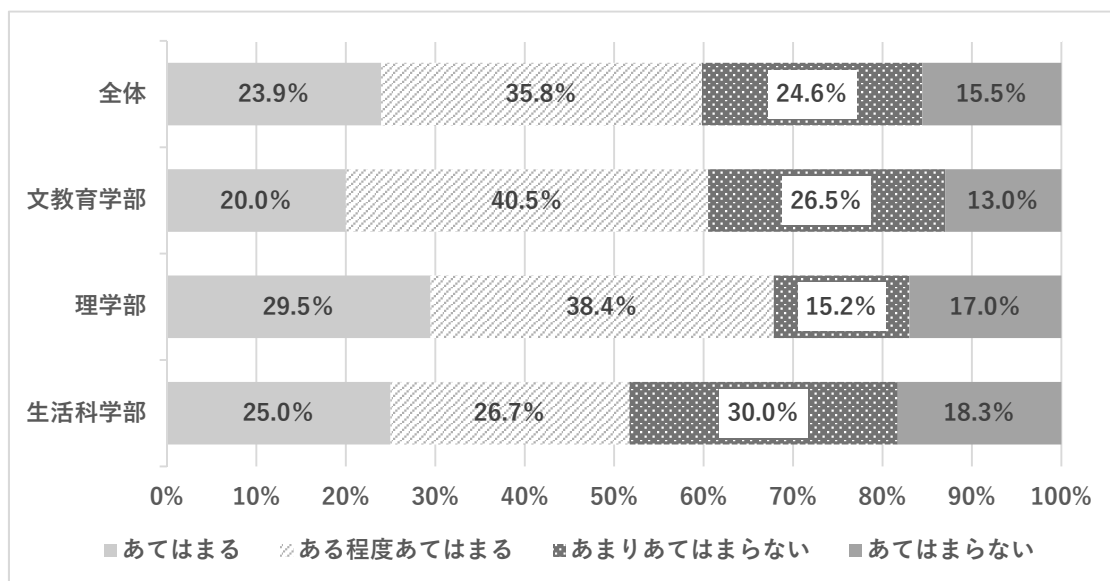
図表 4-11 金銭面で負担がかからないか



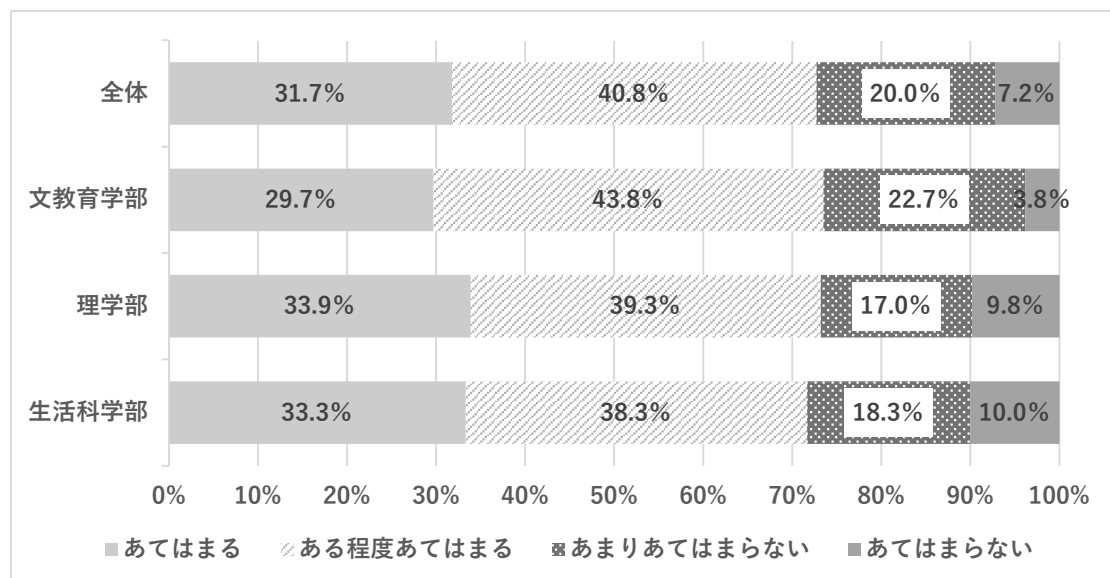
図表 4-12 授業についていけるか



図表 4-13 進級や卒業ができるか



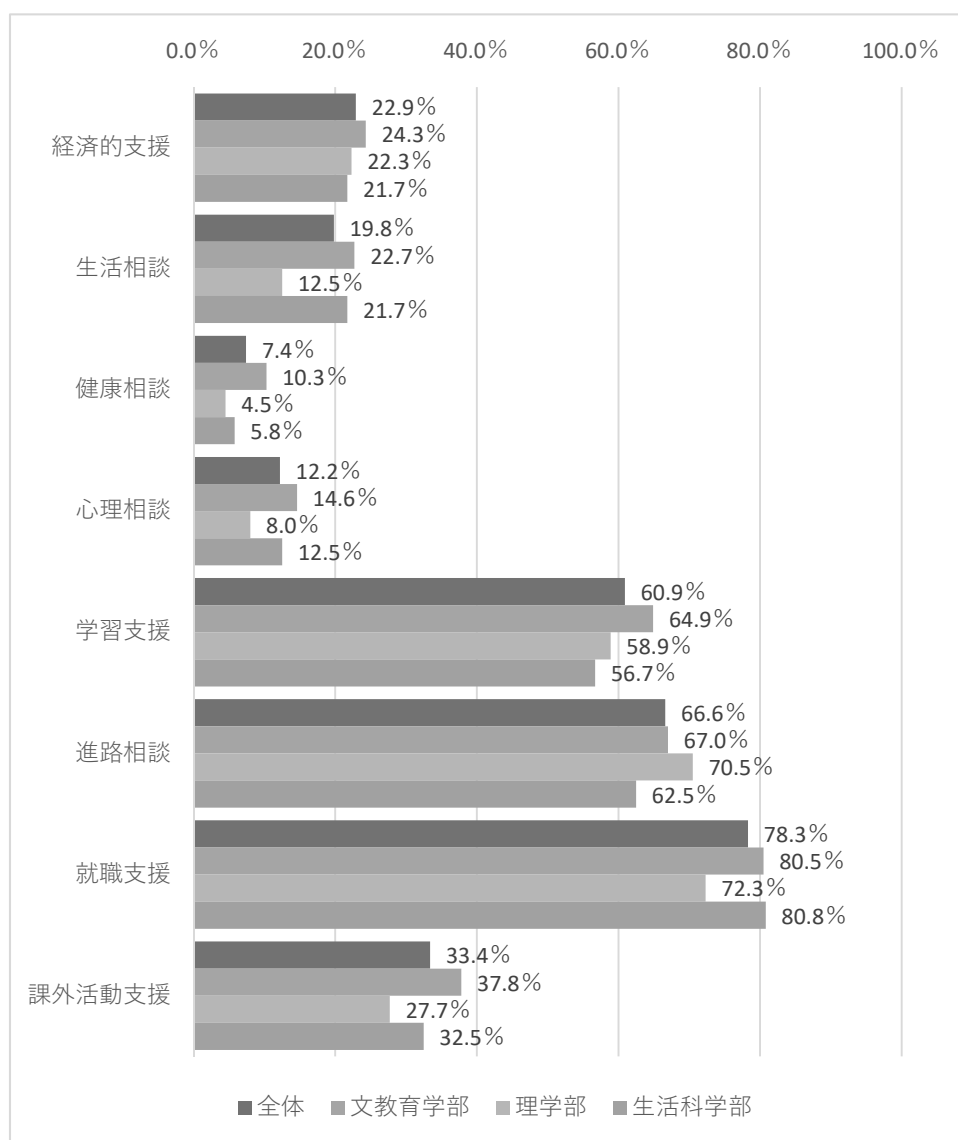
図表 4-14 将来の目標が見つかるか



図表 4-15 卒業後ちゃんと就職できるか

⑪ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-16 は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「就職支援」が 78.3%と最も高く、次いで「進路相談」66.6%、「学習支援」60.9%となっている。この傾向は平成 30 年度、平成 29 年度も同様である。学部別では、理学部が「進路相談」の割合が高く、文教育学部と生活科学部は「就職支援」が高い傾向も例年と同じ傾向であった。



図表 4-16 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

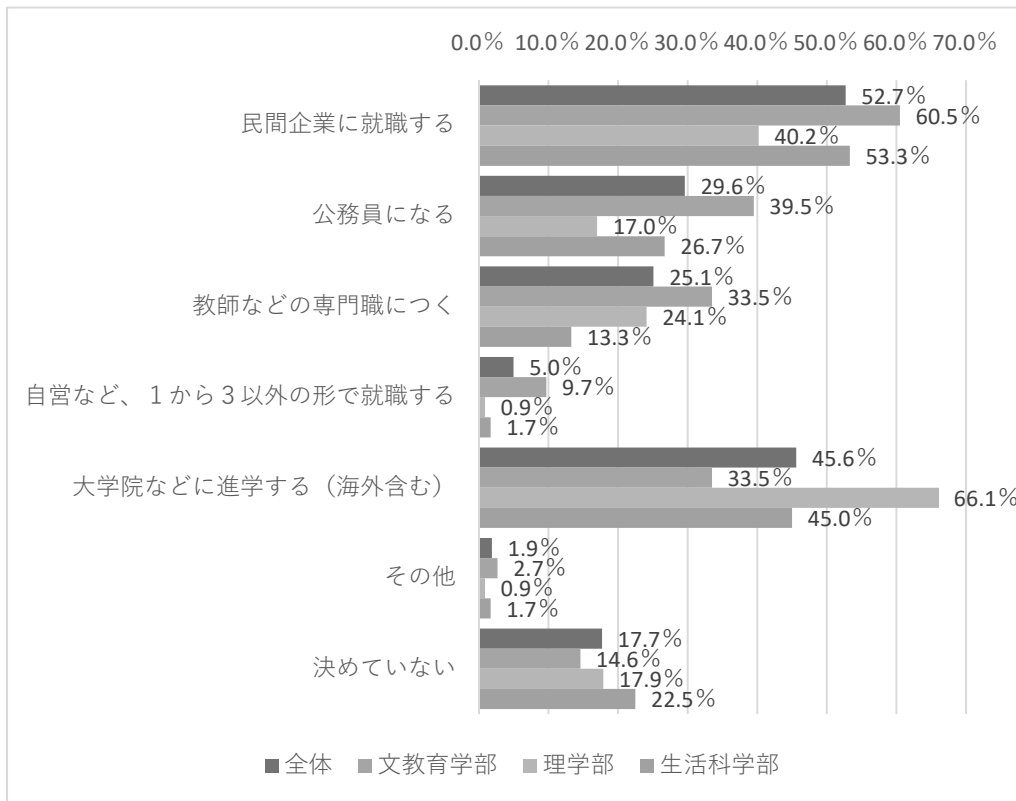
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、複数回答可として尋ねたものである。

全体で見ると、「民間企業」が最も高く 52.7%、「大学院など（海外含む）」がそれに続いて 45.6%であった。学部別では、昨年度の生活科学部は「民間企業」70.2%と高かったが今年度は 53.3%と低下し、「決めていない」割合が 9 ポイント上昇した。「大学院など（海外含む）」は理学部が 66.1%と例年通り高い。

「公務員」を志望する新入生は全体の 29.6%で、文教育学部が 39.5%と特に高い。「教師など専門職」を志望する新入生は全体の 25.1%で、文教育学部が高い傾向が見られた。

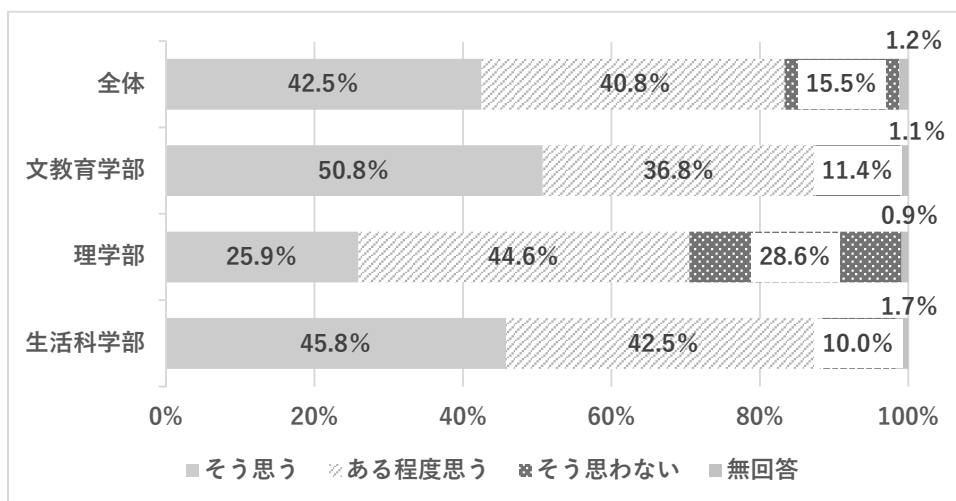


図表 5-1 大学卒業後の進路希望

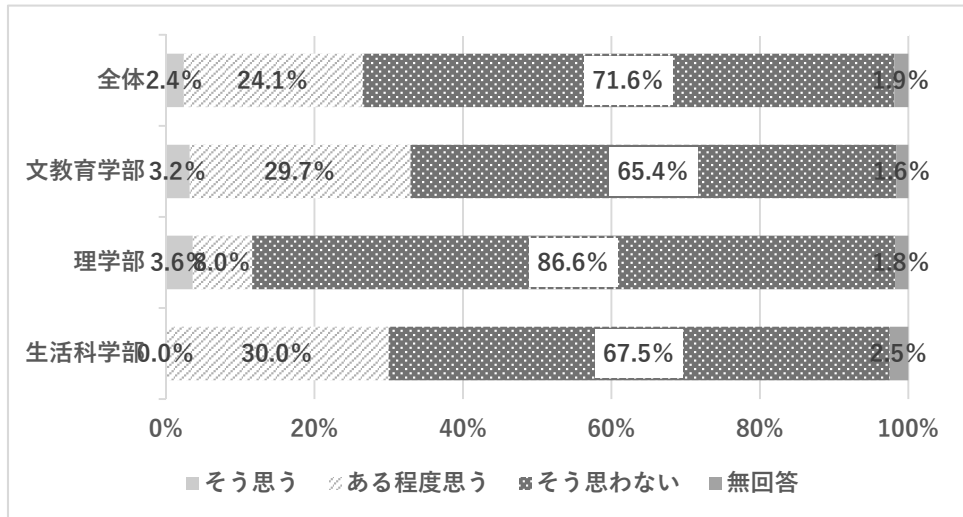
③ 大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが2007年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ねた結果を図表5-2から図表5-10に示す。

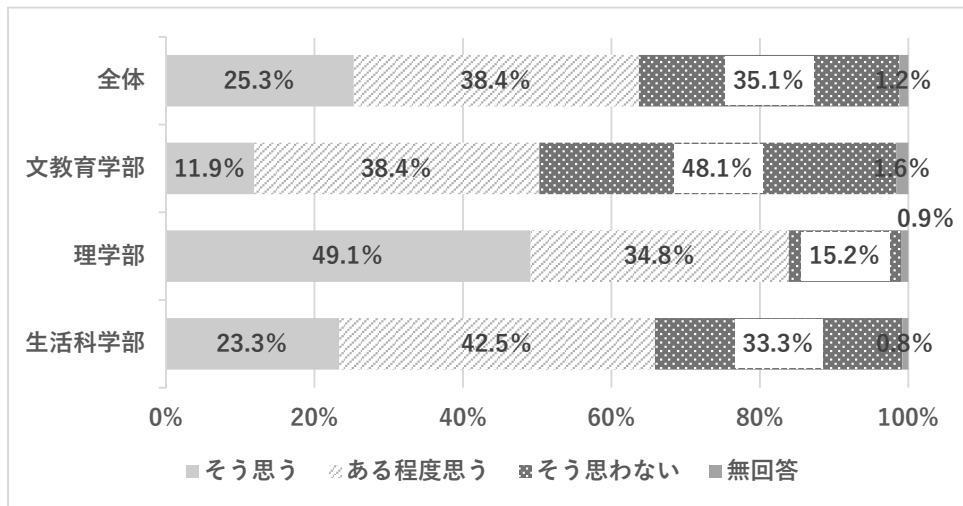
図表5-2から図表5-7は、「卒業後の進路」について尋ねた結果である。「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」について、全体で「そう思う」「ある程度思う」と回答した人（該当率）は83.3%で(図表5-2)、「すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない」は26.5%である(図表5-3)。この結果は、これまでの新入生と同様の傾向であり、新入生が大学卒業後すぐに正規雇用を志向していることがうかがえる。



図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



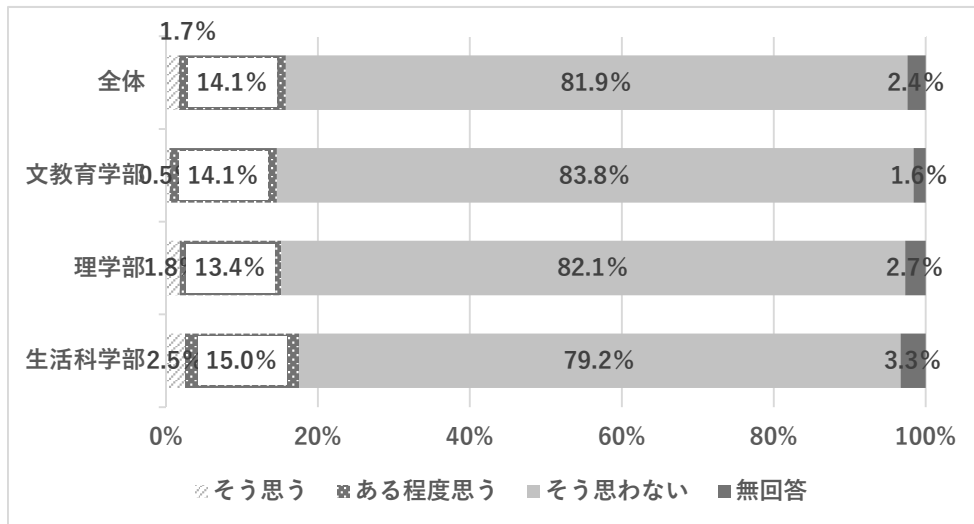
図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない



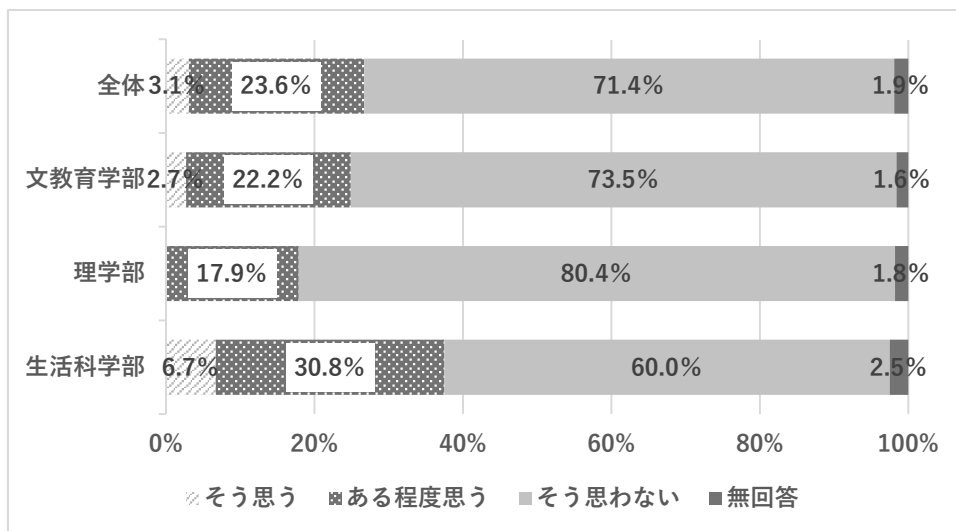
図表 5-4 すぐに大学院などに進学する

一方で、卒業直後の進学についても全体で 63.7%が検討しており、その割合は理学部で 83.9%と特に高く(図表 5-4)、例年と同様の傾向が見られる。一方、就職後の大学院進学は2割弱にとどまった(図表 5-5)。

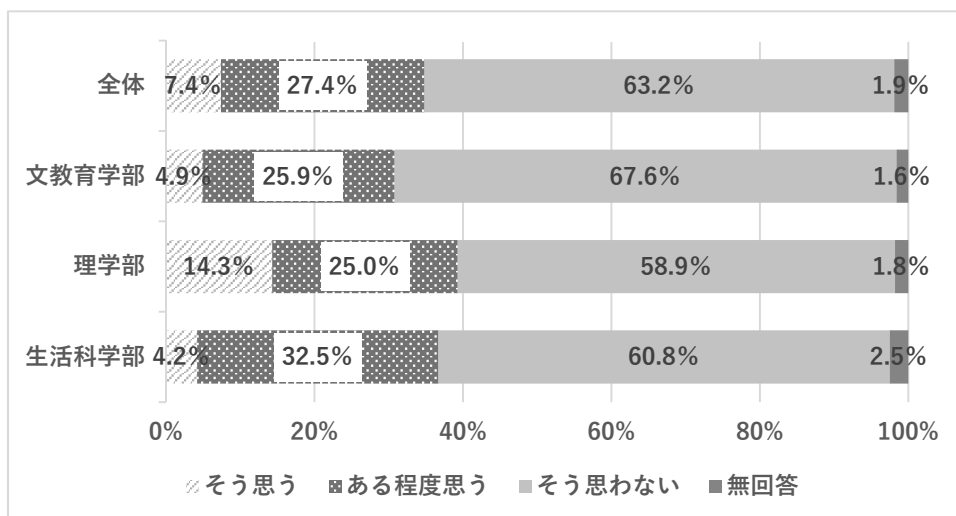
また、昨年と同様に「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」と考える新入生の割合は2割を超え(図表 5-6)、「卒業後すぐに就職をしなくてもよい」と考える人の割合も3割を超えた(図表 5-7)。「卒業後すぐには就職しなくてもよい」と考える割合は理学部で 39.3%と高かった。



図表 5-5 就職してから大学院への進学を考える

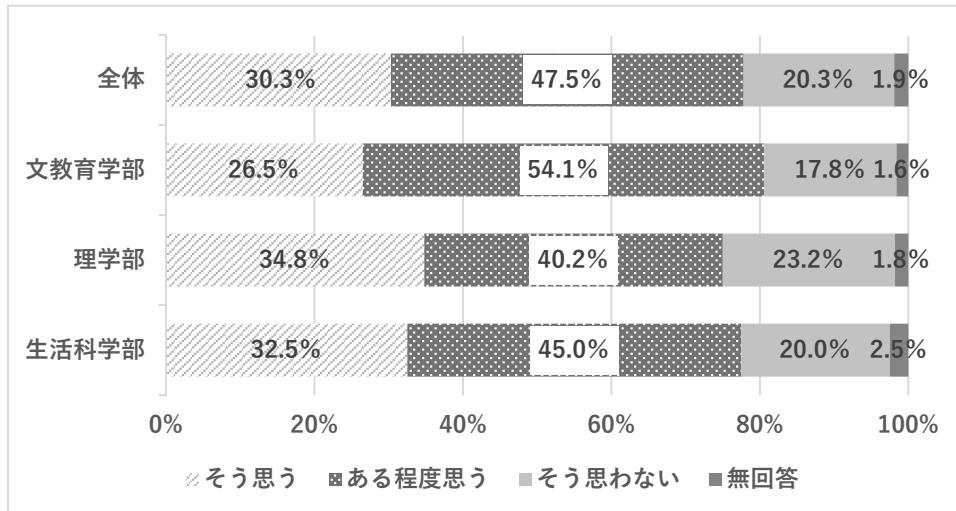


図表 5-6 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない

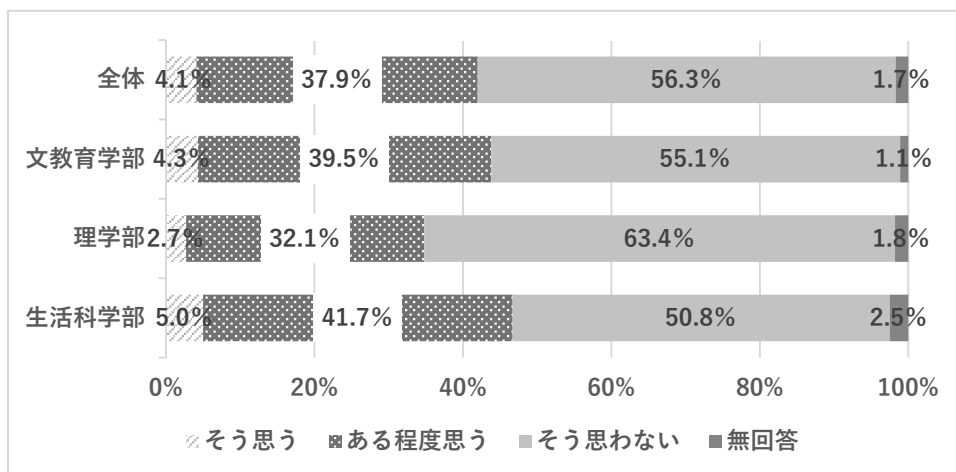


図表 5-7 卒業後すぐには就職しなくてもよい

図表 5-8 と図表 5-9 は、「就職後の勤務や退職」について尋ねた結果である。「最初の就職先にできるだけ長く勤める」と考える人は全体の 77.8%と初職の継続意識は高いが、平成 29 年度からは 8.5 ポイント、平成 30 年からは 1.5 ポイントと低下する傾向がみられる(お茶の水女子大学 2017; 2019)。その一方で、転職や独立の意識を持つ人は全体の約 4 割にのぼり、やや上昇する傾向にあった。

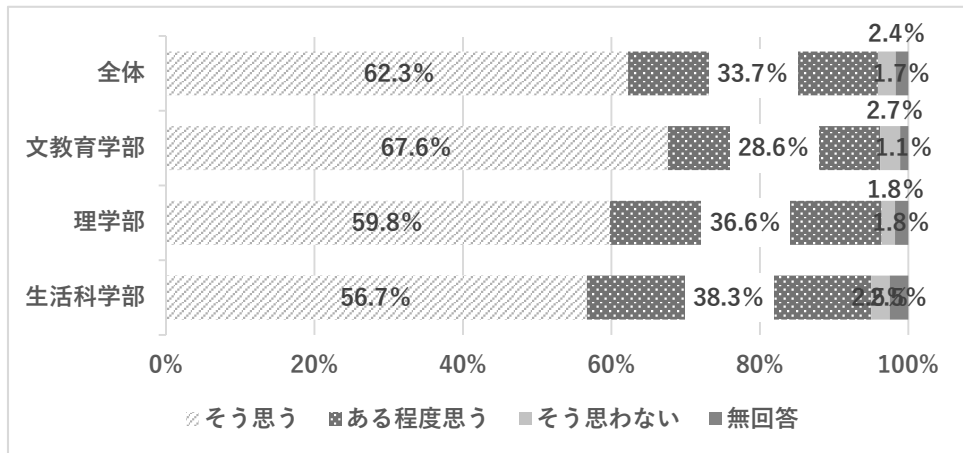


図表 5-8 最初の就職先にできる限り長く勤める



図表 5-9 何年かして転職や独立をする

図表 5-10 「結婚・出産しても仕事を続ける」の該当率は全体で 94.0%と非常に高く、この傾向は継続している。

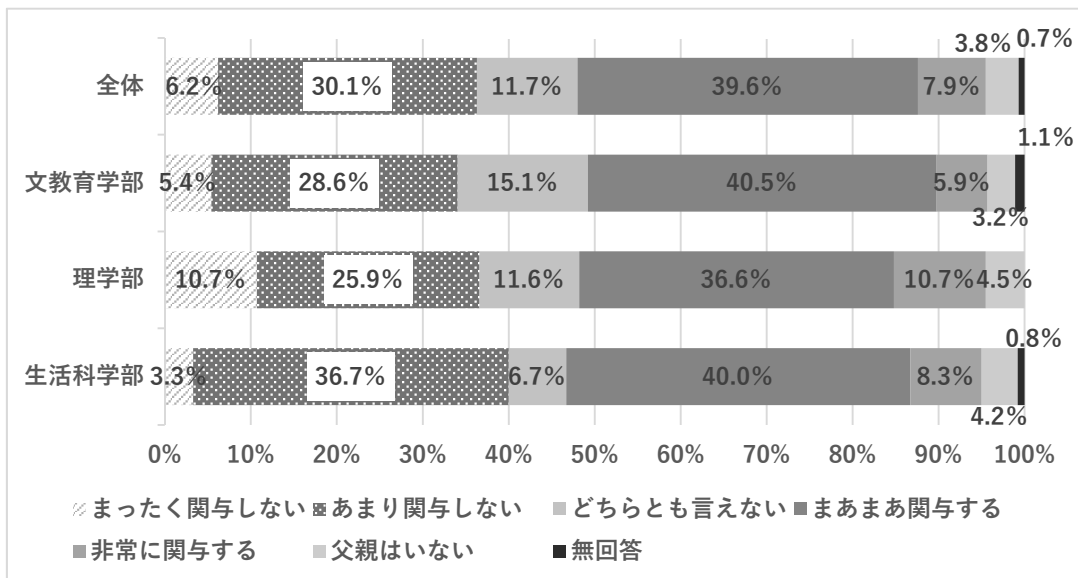


図表 5-10 結婚・出産後も仕事を続ける

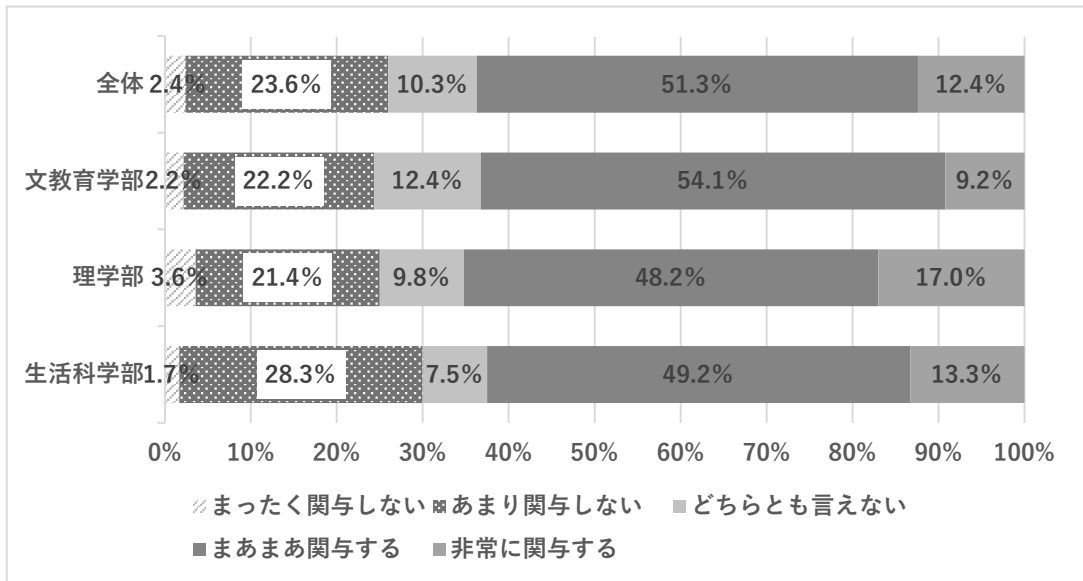
③ 就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに関して、どれくらい関与しますか。」として5件法で尋ねた。図表 5-11 に父親の関与についての結果を、図表 5-12 に母親の関与についての結果を示す。

はじめに父親の関与について、平成 31 年度新入生は、就職や将来のことに関して全体の 47.5% に父親の関与がある（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」）と回答している。同様に母親に関しては、全体の 63.7% に母親の関与があると回答した。この傾向は平成 29 年度から変わらない。学部別では、理学部は父親・母親ともに「非常に関与する」の割合が他学部より高めである。



図表 5-11 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-12 就職や将来のことに関する母親の関与

第2章「新入生の保護者調査」の結果

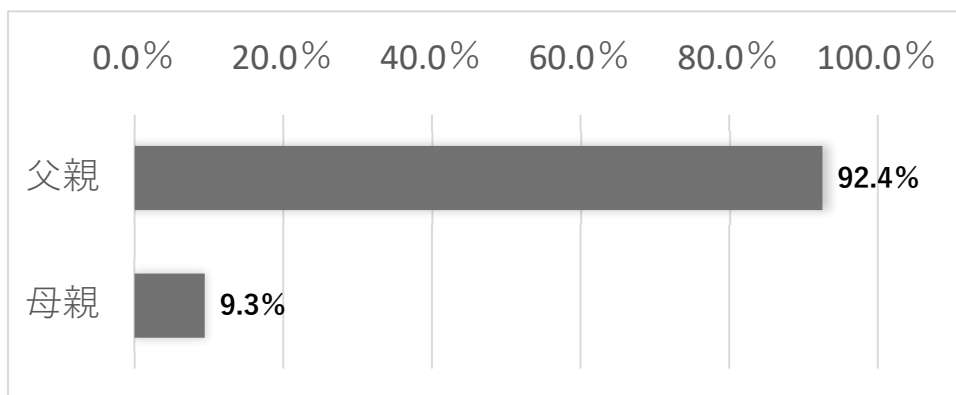
第2章では、新入生の保護者410名に対する調査結果について報告する。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者の年収、④世帯年収、⑤大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

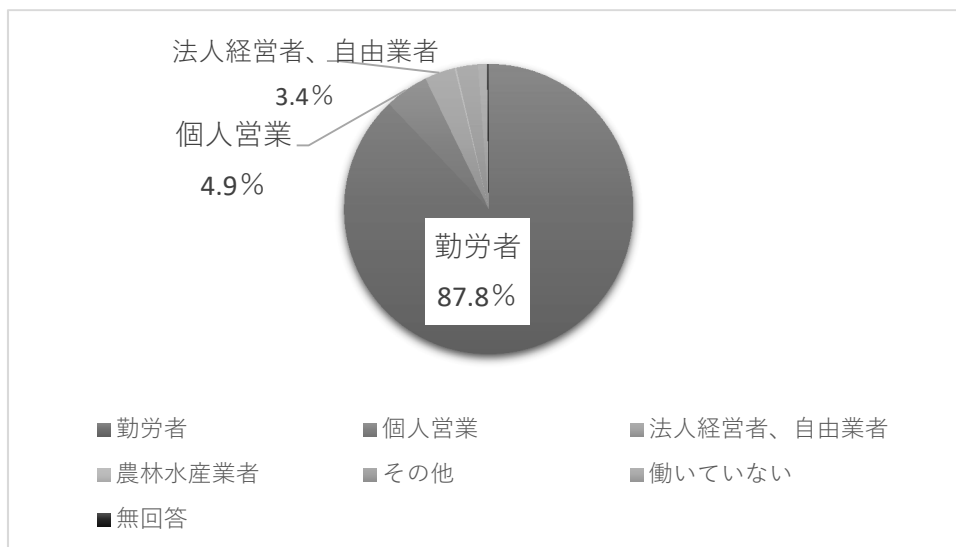
図表 1-1 は、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果である。主な家計支持者は、全体の92.4%が「父親」、9.3%が「母親」である。複数回答を含むため、父親と母親と両方を回答した場合が含まれている。この傾向は例年と同様である。



図表 1-1 家計支持者

② 家計支持者の職業

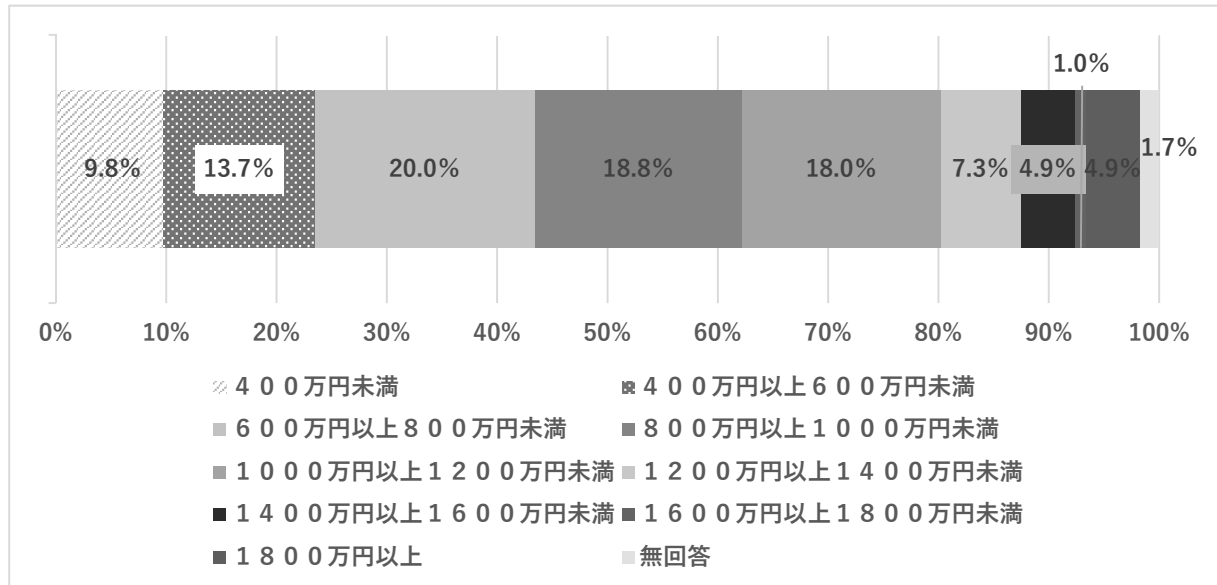
図表 1-2 に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の87.8%を占め、次いで「個人営業」4.9%、「法人経営者、自由業者」が3.4%である。この傾向は例年と変わらない。



図表 1-2 家計支持者の職業

③ 家計支持者の年収

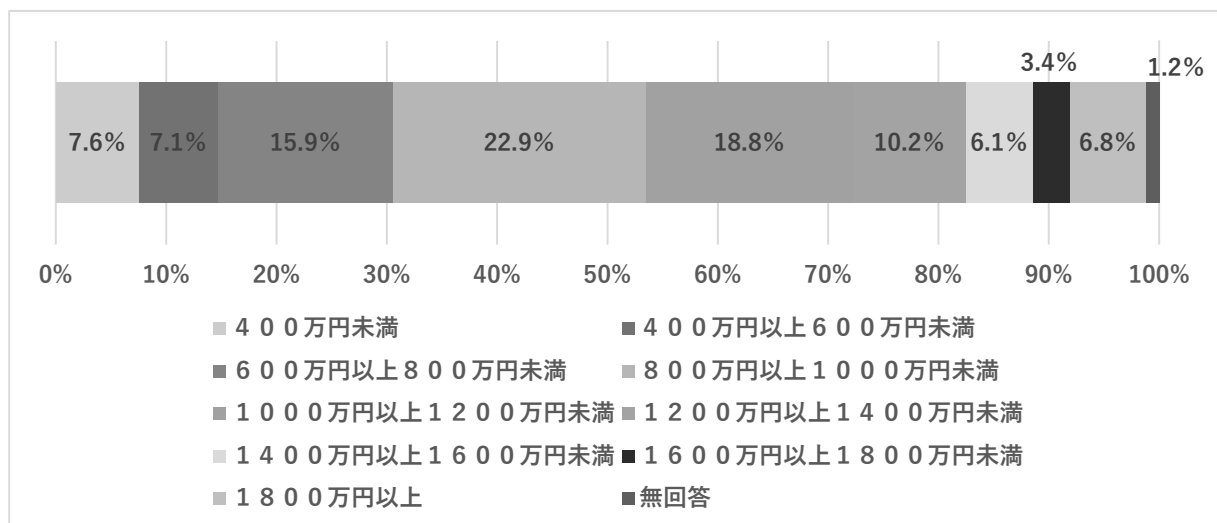
図表 1-3 に新入生の家計支持者の年収について示す。「600 万円以上 800 万円未満」20.0%が最も多く、次いで「800 万円以上 1000 万円未満」18.8%、「1000 万円以上 1200 万円未満」18.0%と続く。例年と同様の傾向である。



図表 1-3 家計支持者の年収

④ 世帯年収

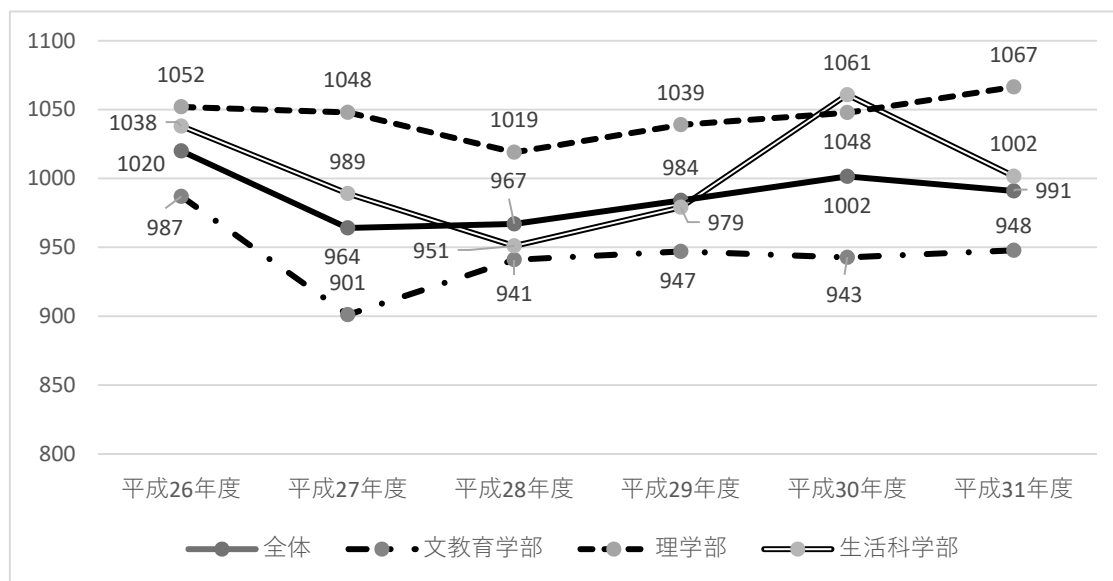
新入生の家庭の世帯年収について、家計支持者同様に尋ねた結果が図表 1-4 である。全体で見ると、「800 万円以上 1000 万円未満」が 22.9%と最も高く、「1000 万円以上 1200 万円未満」18.8%、「600 万円以上 800 万円未満」15.9%がそれに続く。1000 万円以上の世帯収入の割合は 45.3%で、平成 30 年度より約 3 ポイント減少したが、平成 29 年度に類似する傾向であった(お茶の水女子大学 2017; 2019)。



図表 1-4 世帯年収

『平成 28 年度学生生活調査』（日本学生支援機構 2018）によると、家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）について、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 26.1%、国立大学・女子では 28.7%である。それに対し図表 1-4 に示すように、本学新入生の家庭のうち、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭は全体の 45.3%を占めており、家庭の世帯年収は全国水準に比べて、高い方に偏っている。これも例年の新入生と同様の傾向である。

参考として、図表 1-5 に、各カテゴリーの中央値に基づき、平成 26 年度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示す。年度による差異はあるが、この 5 年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっており、学部別には理学部が高い傾向が見られた。



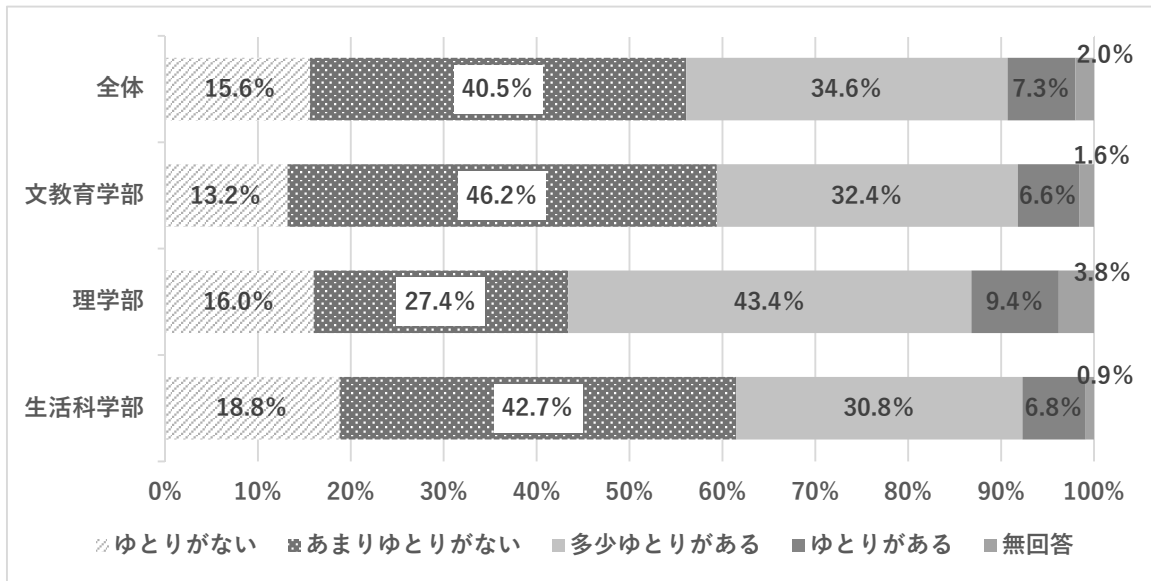
図表 1-5 世帯年収平均（推計）

⑤ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-6 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体で見ると「あまりゆとりがない」が 40.5%と最も高く、「ゆとりがない」15.6%と合わせると全体の 56.1%の家庭が「ゆとりがない」と回答している。この結果は例年においても同様であった。

学部別では理学部において相対的に「ゆとりがある」と回答する割合が高く、図表 1-5 で示した学部別の世帯年収平均の結果と整合的である。



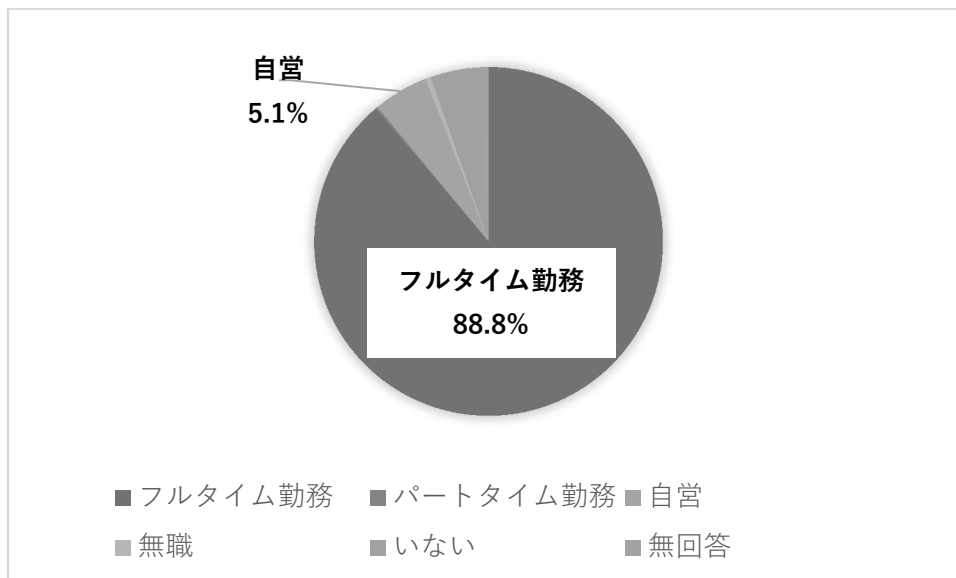
図表 1-6 入学した後の家庭の暮らし向き

(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

① 親の勤務形態および職種

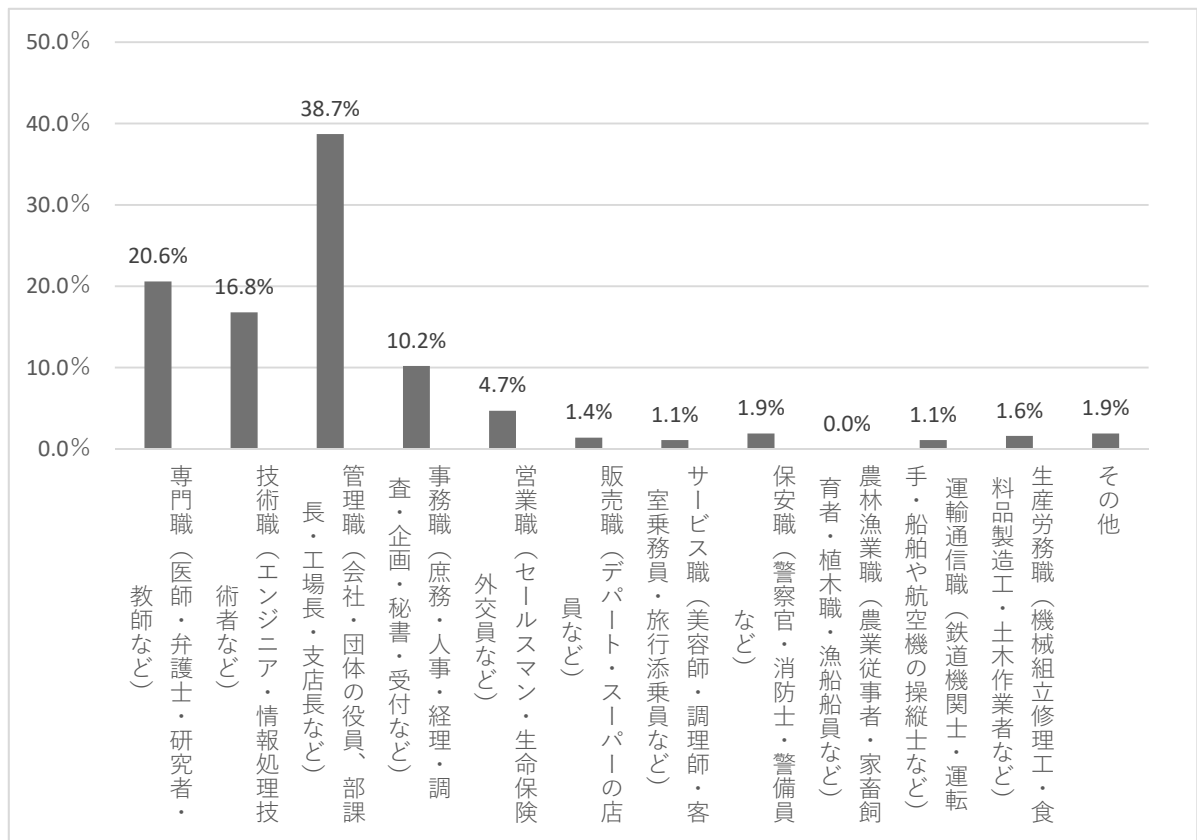
図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」別に尋ねた結果である。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 88.8% と約 9 割を占め、次いで「自営」が 5.1% である。これらの勤務形態の割合は例年と同様である。



図表 2-1 父親の勤務形態

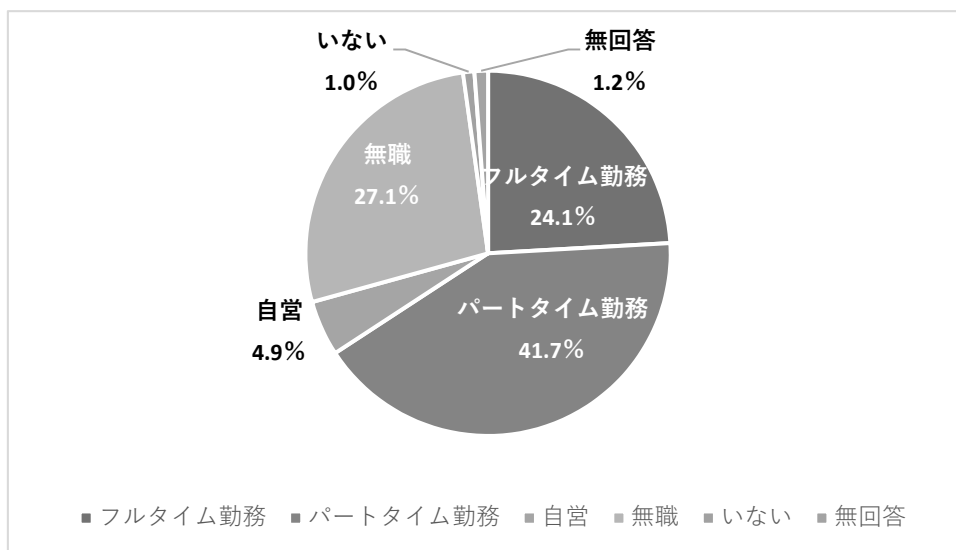
次にフルタイムで勤務する父親だけに職種を尋ねた結果を図表 2-2 に示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）38.7% である。次いで、専門職（医

師・弁護士・研究者・教師など)が20.6%、技術職(エンジニア・情報処理技術者など)16.8%である。この傾向も平成30年度と同様である。



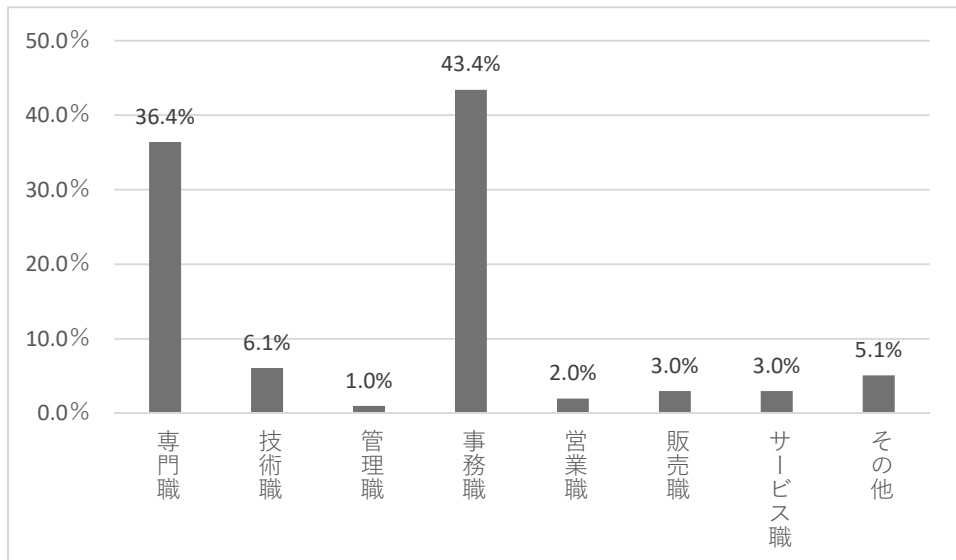
図表 2-2 父親の職種

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。「パートタイム勤務」が全体の41.7%で最も多く、「無職」27.1%、「フルタイム勤務」24.1%と続く。この結果は平成30年度の新入生と同様の傾向であり、新入生の約7割の母親が就業していることが示された。



図表 2-3 母親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する母親だけに職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）43.4%、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）36.4%がそれに続く。管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）は1.0%にとどまった。過去2年間と比較し、事務職の割合が上昇し、専門職および管理職の割合が低下する傾向が見られる。

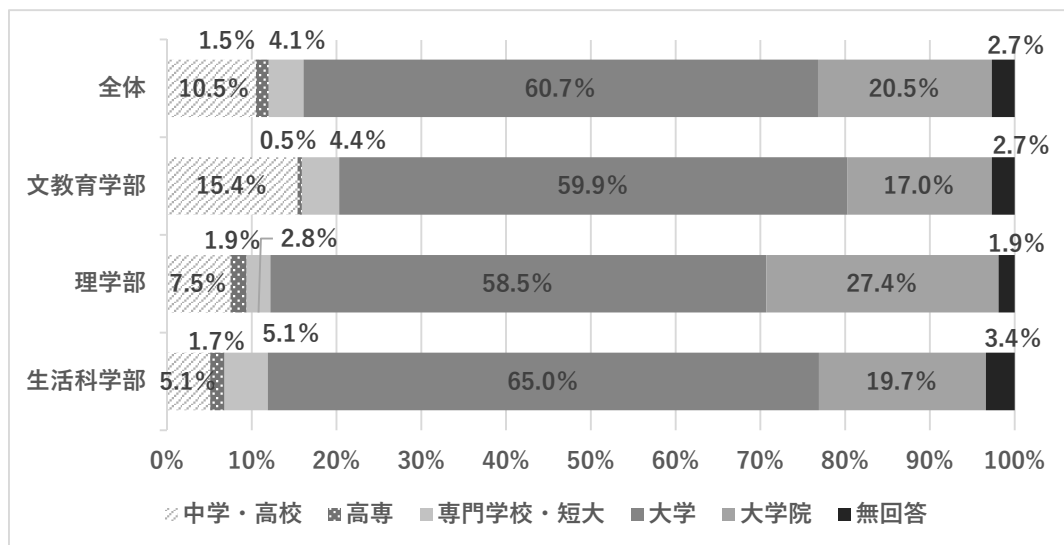


図表 2-4 母親の職種

② 親の学歴

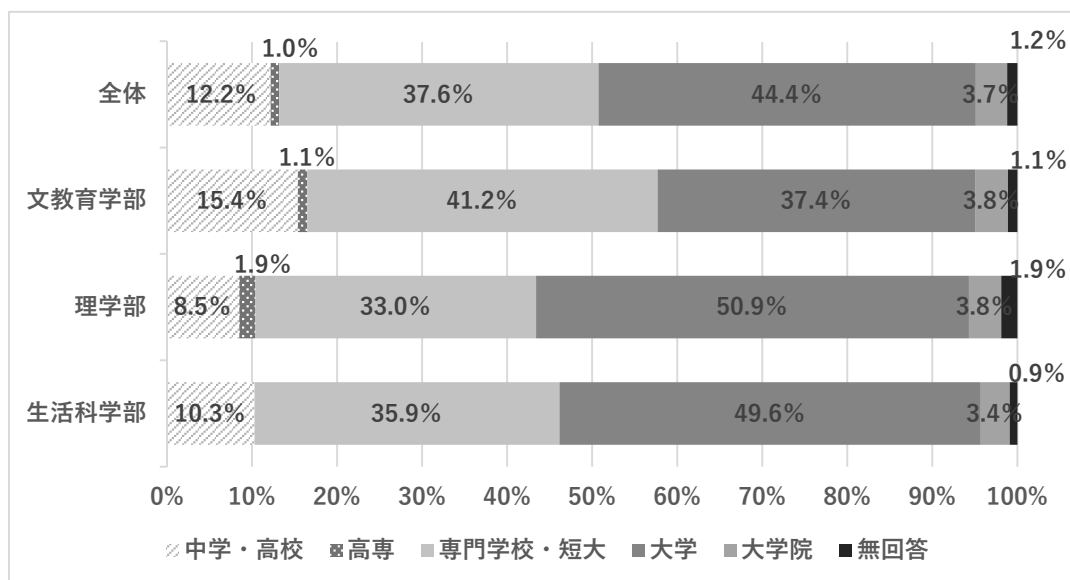
図表 2-5 は、新入生の父親の最終学歴を「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に集計した結果である。全体でみると、「大学」が60.7%と最も高く、続いて「大学院」20.5%、「中学・高校」10.5%であり、例年同様の傾向が示された。

学部別では、「大学院」の割合が理学部27.4%と高い。『平成22年度国勢調査』（総務省統計局2011）によると、最終学歴が大学・大学院である男性は28.7%であり、例年通り、平成31年度新入生の父親の学歴もかなり高いほうに偏っている。



図表 2-5 父親の最終学歴

同様に、新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表 2-6 である。全体で「大学」44.4%、「専門学校・短大」37.6%、「中学・高校」が 12.1%である。学部別では、生活科学部と理学部では「大学」がそれぞれ 49.6%、50.9%と高い。『平成 22 年度国勢調査』（総務省統計局 2011）によると、最終学歴が大学・大学院である女性は 11.9%であり、これと比較すると父親と同様に平成 31 年度新入生の母親の学歴も高いほうに偏っている。



図表 2-6 母親の最終学歴

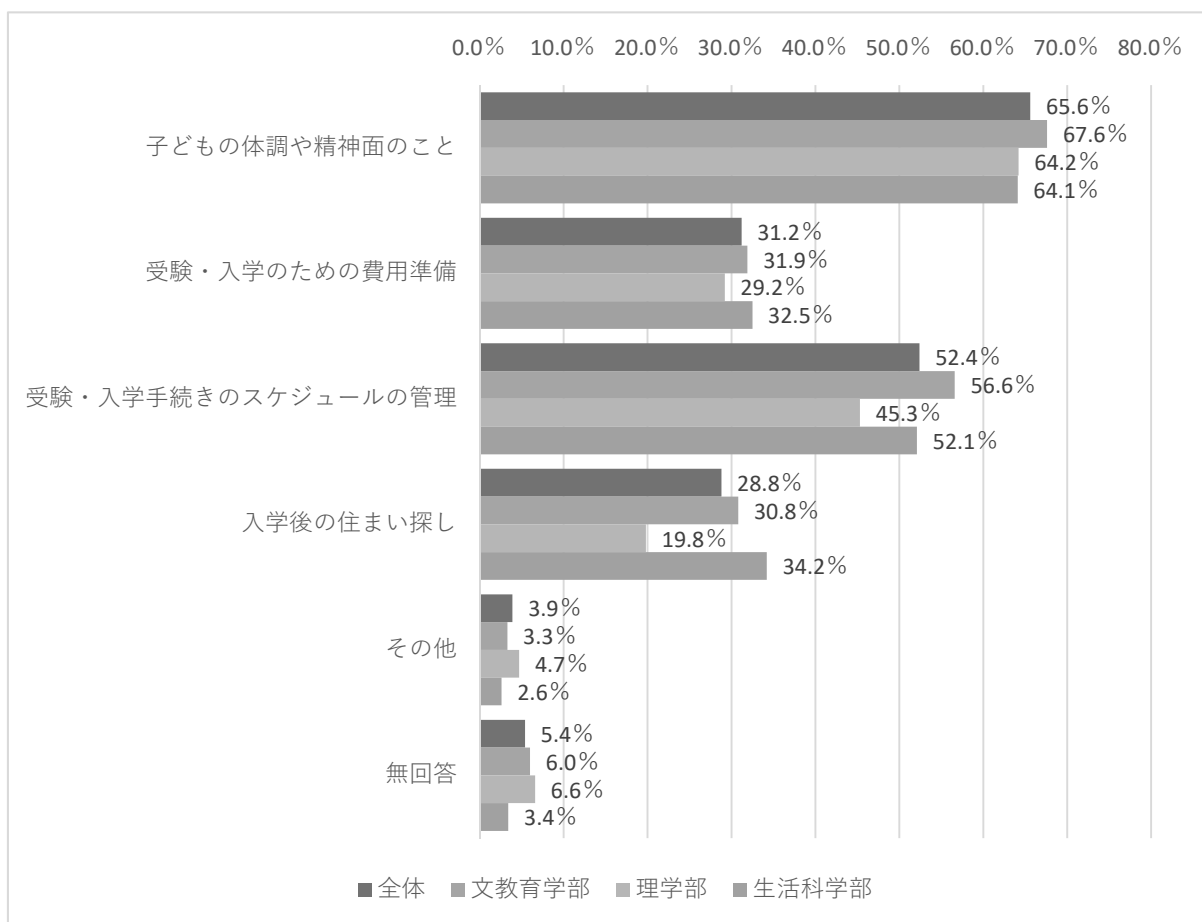
(3) 大学生生活の不安・心配事

本節では保護者から見たご子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 は、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。

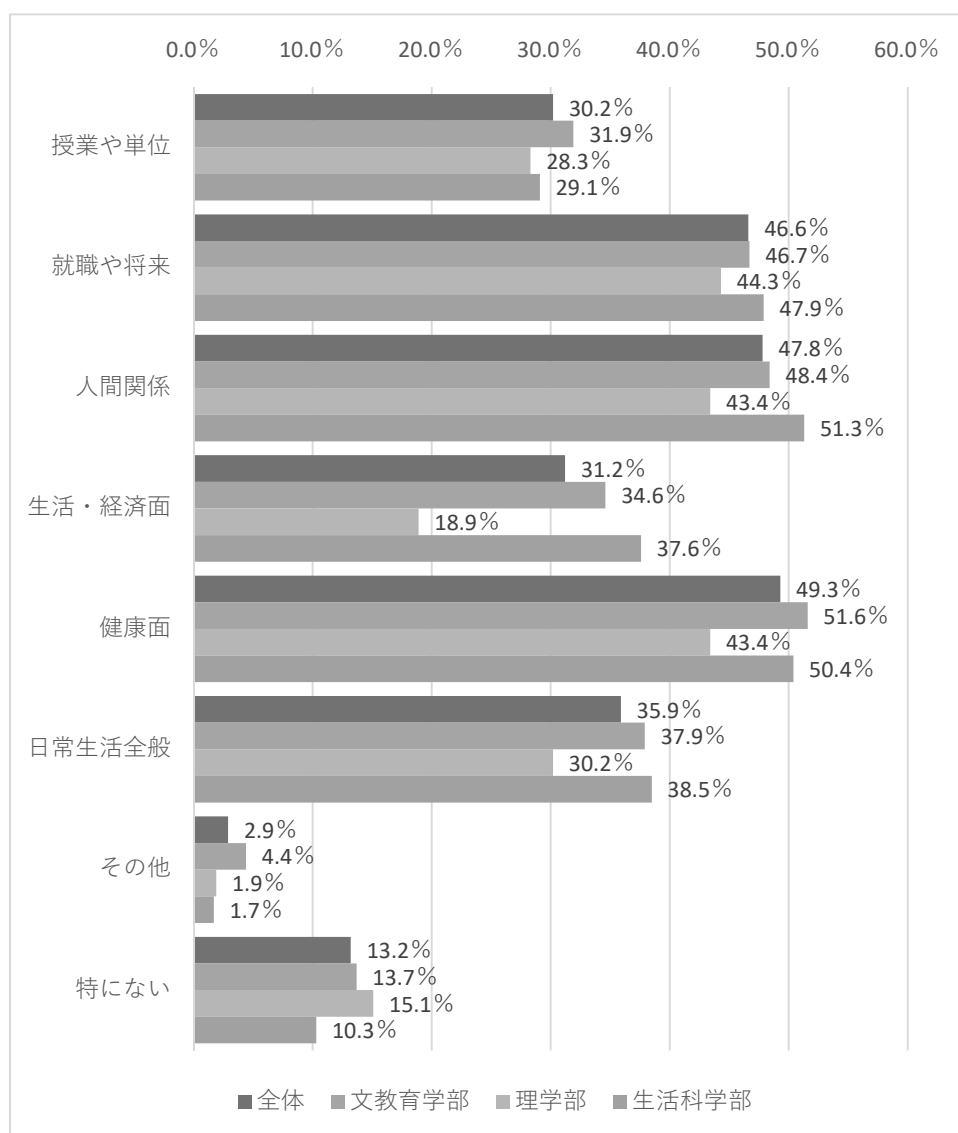
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 65.6%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 52.4%と続いており、例年と同様である。学部別では、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」および「入学後の住まい探し」において、文教育学部・生活科学部の回答割合がやや高い傾向が見られた。



図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 は、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。心配なこととして、全体で「健康」49.3%、「人間関係」47.8%、「就職や将来」46.6%が例年通り高かった。学部別では、昨年度とは異なり、いずれの項目についても理学部が他学部より低い傾向が見られた。

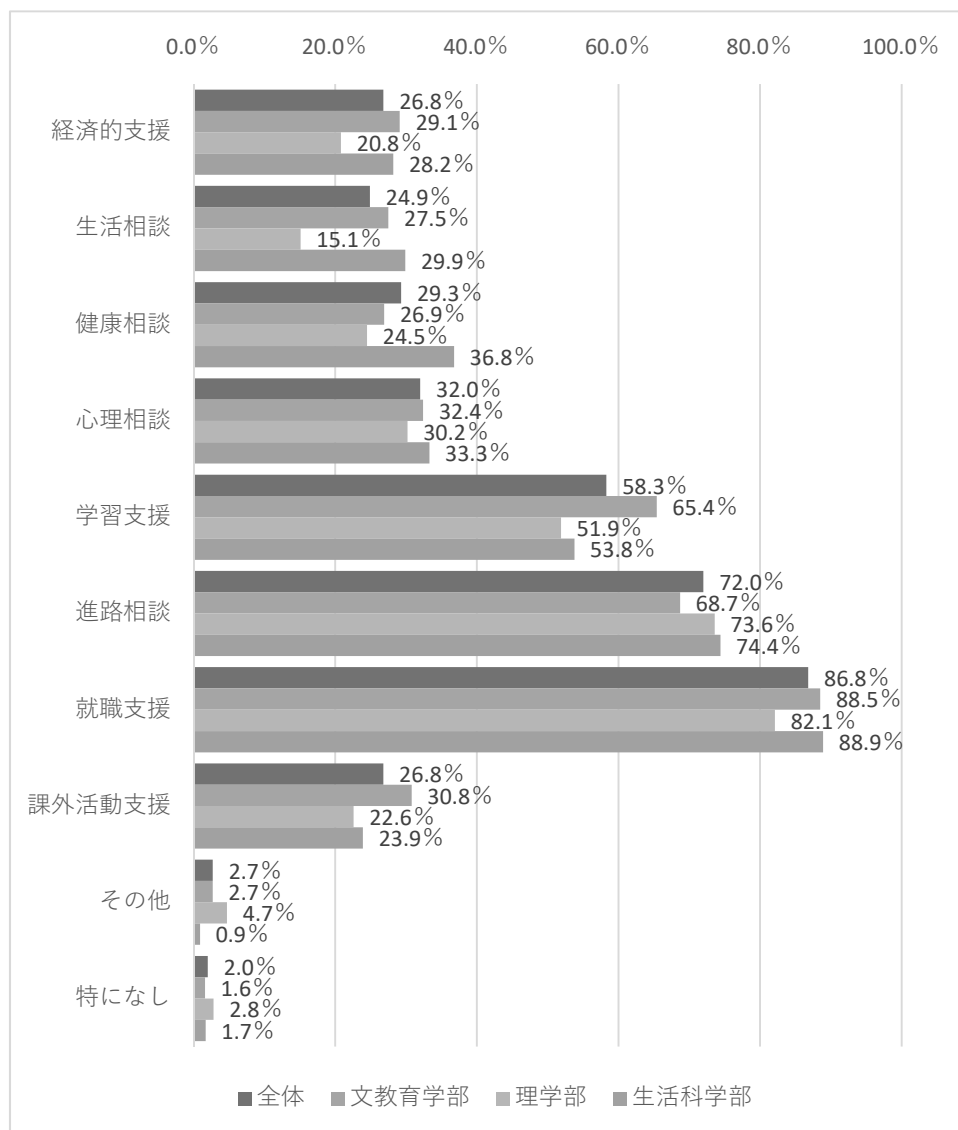


図表 3-2 大学生生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

「就職支援」が全体の 86.8% で最も高く、「進路相談」72.0% と続く。例年同様、保護者が学生へのキャリア支援を期待する様子が見て取れる。次に高い「学習支援」(58.3%) では、文教育学部が 65.4% とやや高い傾向を示した。



図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの

第3章 新入生および保護者対象調査の結果報告

—奨学金に関する集計結果—

第3章では、新入生419名、新入生の保護者410名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を取り上げ、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較して、今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点について明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

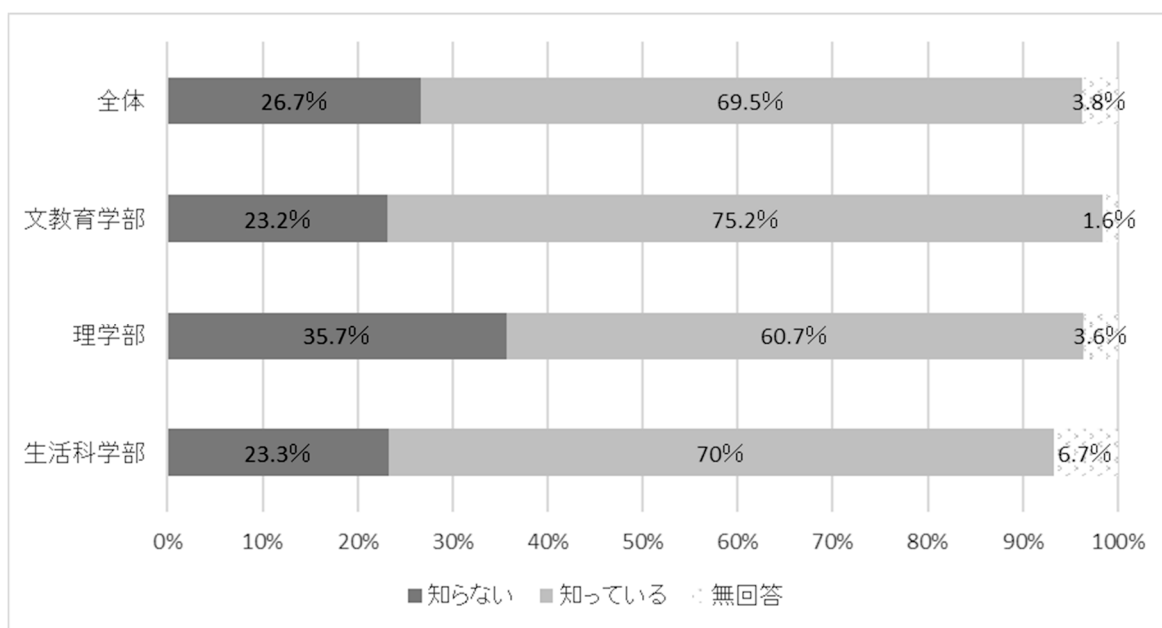
①新入生の結果

<奨学金等制度の認知と受給経験>

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

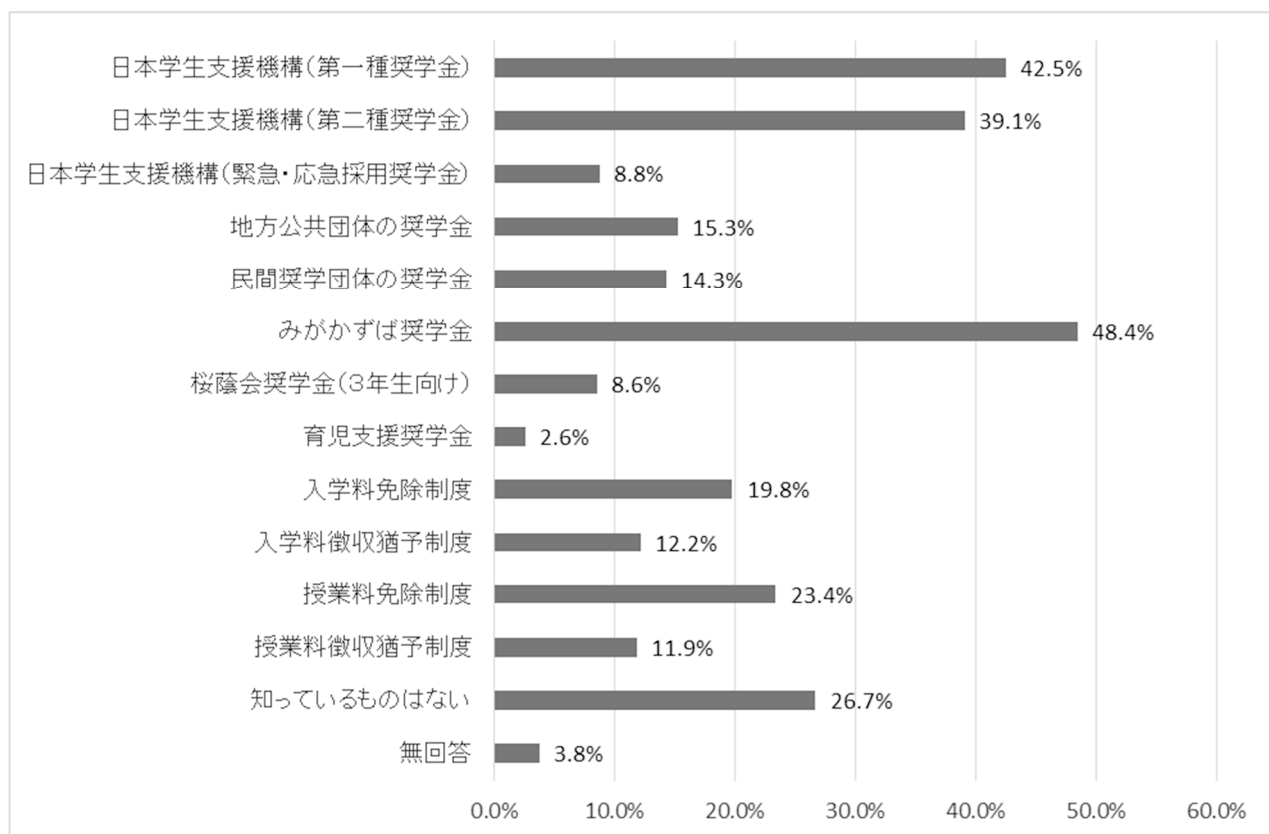
図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

全体では69.5%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く、60.7%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。最も認知度が高いものは本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」で48.4%である。それに次いで日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種が42.5%、39.1%と続いている。また、「知っているものはない」が26.7%であり、これは昨年度の31.8%と比べて5.1ポイント低い結果となった。



図表1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が4.1%と最も多く、次いで「日本学生支援機構」が3.1%であった。ほかの奨学金等制度の受給経験は1~3%程度と低い割合を示している。

図表1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金等 制度名称	日本学生 支援機構	地方公共 団体	学校独自 の奨学金	民間奨学 団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けた ことがある	3.1%	1.9%	2.4%	1.7%	0.0%	0.7%	1.7%	4.1%

<奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成した。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4～1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知について有意な関連はみられなかった。

図表1-4 きょうだい数 と 奨学金認知 のクロス表

		奨学金認知		合計	
		知っている	知らない		
きょうだい数	1人っ子	度数	47	20	67
		%	70.1%	29.9%	100.0%
	2人きょうだい	度数	171	62	233
		%	73.4%	26.6%	100.0%
	3人以上	度数	73	29	102
		%	71.6%	28.4%	100.0%
合計		度数	291	111	402
		%	72.4%	27.6%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。ただし出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られなかった。

図表1-5 出身高校設置者 と 奨学金認知 のクロス表

		奨学金認知		合計		
		知っている	知らない			
出身高校設置者	公立	度数	181	56	237	
		%	76.4%	23.6%	100.0%	
	私立	度数	95	44	139	
		%	68.3%	31.7%	100.0%	
	国立	度数	10	10	20	
		%	50.0%	50.0%	100.0%	
	海外	度数	4	1	5	
		%	80.0%	20.0%	100.0%	
	合計		度数	290	111	401
			%	72.3%	27.7%	100%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが明らかとなった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-6 奨学金受給経験 と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	241	107	348
		%	69.3%	30.7%	100.0%
	経験あり	度数	50	5	55
		%	90.9%	9.1%	100.0%
合計		度数	291	112	403
		%	72.2%	27.8%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生が、奨学金等制度について認知している割合が高く有意な関連が見られた。

図表1-7 入学後の予定住居 と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家以外	度数	135	34	169
		%	79.9%	20.1%	100.0%
	実家	度数	156	78	234
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	291	112	403
		%	72.2%	27.8%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額が高いほど奨学金の認知率が下がり有意な関連がみられた。

図表1-8 仕送り額 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	14	1	15
		%	93.3%	6.7%	100.0%
	5万円未満	度数	13	2	15
		%	86.7%	13.3%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	60	9	69
		%	87.0%	13.0%	100.0%
	10万円以上	度数	40	23	63
		%	63.5%	36.5%	100.0%
合計		度数	127	35	162
		%	78.4%	21.6%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高く、これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-9 学生寮認知 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	218	35	253
		%	86.2%	13.8%	100.0%
	知らない	度数	72	77	149
		%	48.3%	51.7%	100.0%
合計		度数	290	112	402
		%	72.1%	27.9%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

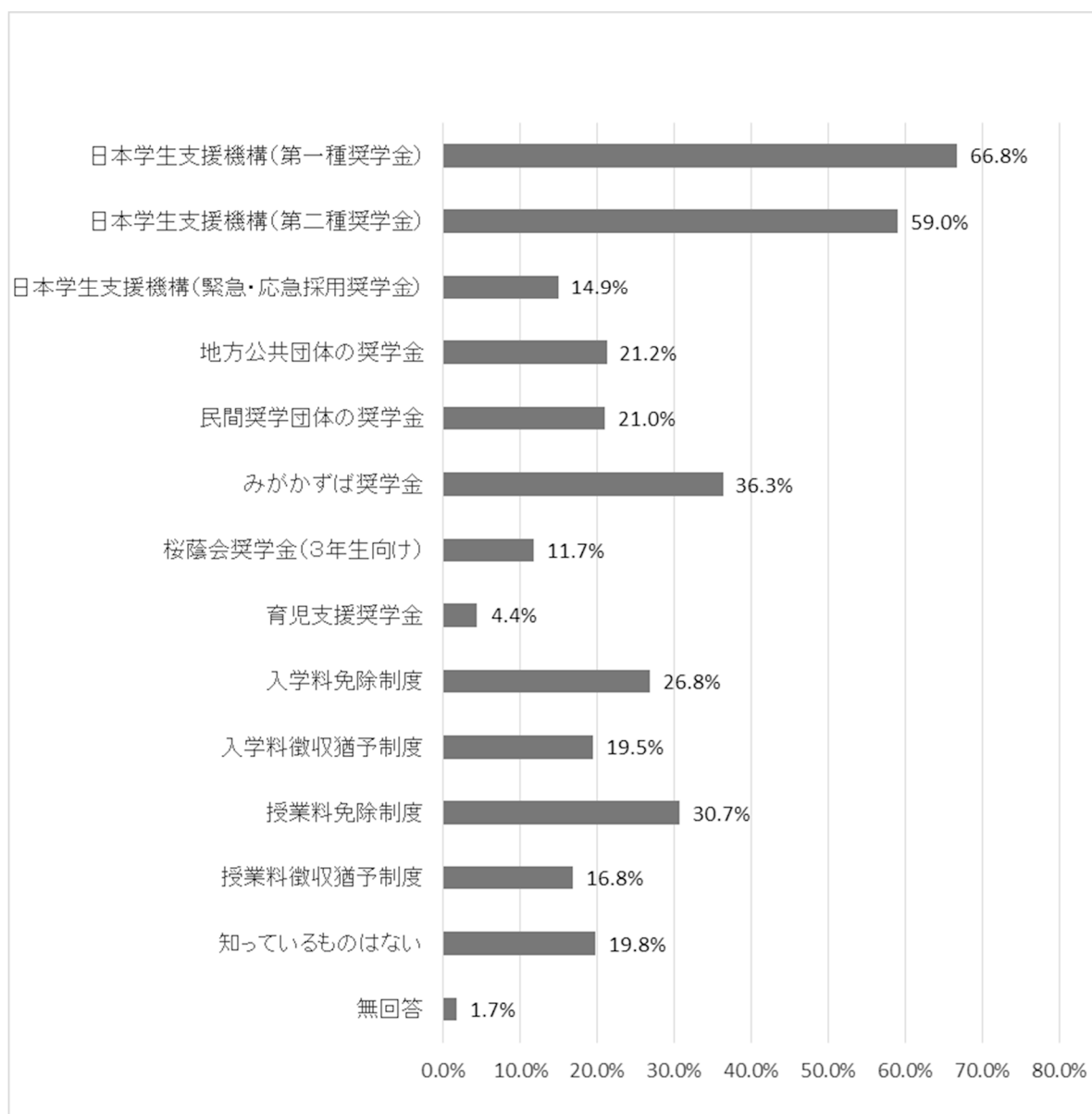
②保護者の結果

<奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者の票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

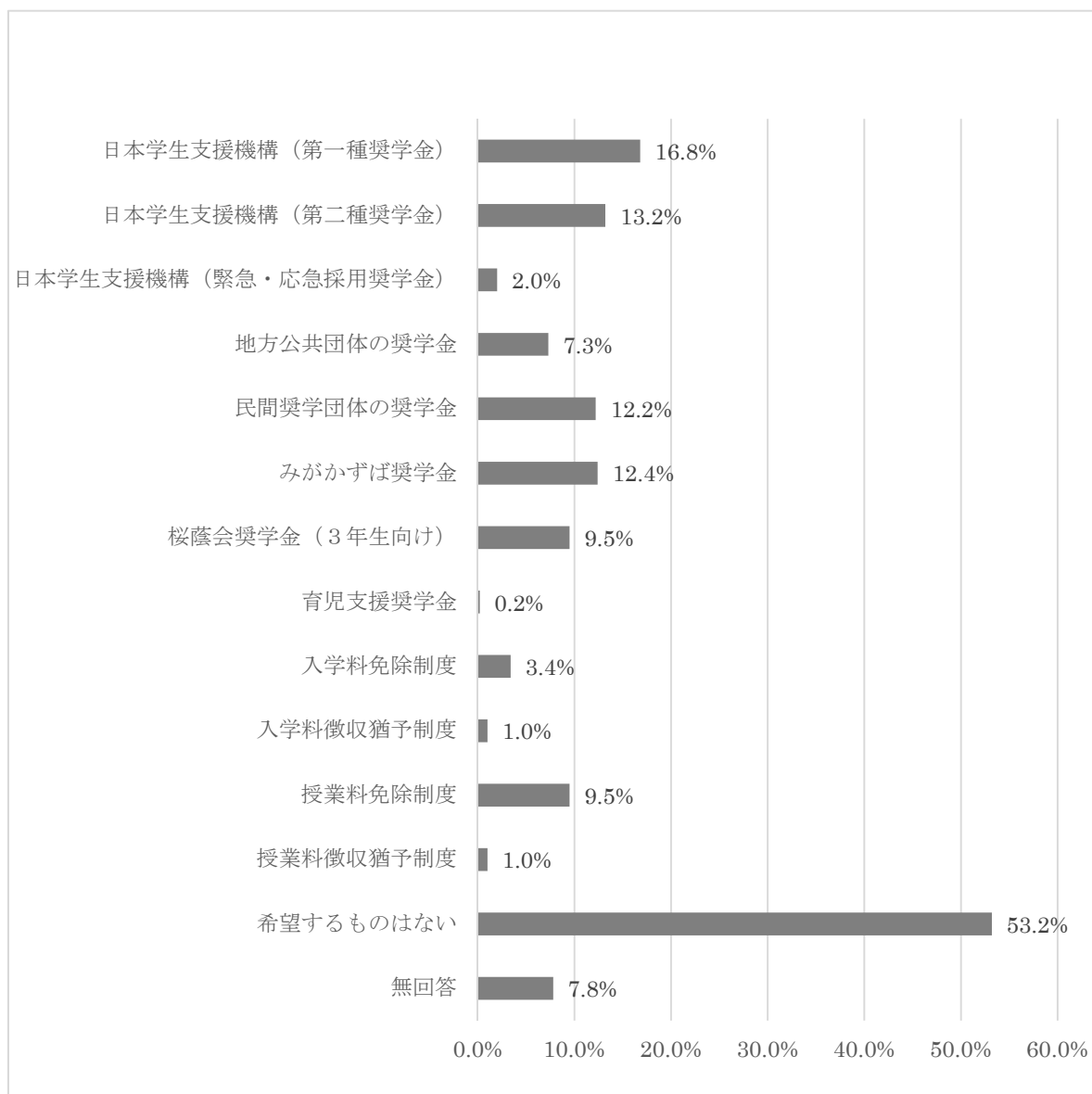
奨学金制度に関しては、日本学生支援機構第一種が66.8%と最も高い認知率であり、第二種が59.0%と続く。平成30年度の「新入生の生活に関する調査報告書」保護者回答と比較すると、「日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)」以外はいずれの制度も認知率は下がっており、「知っているものはない」という回答は、昨年度よりも4.9ポイント高い結果となっている。



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。もっとも利用希望率が高かったものは、日本学生支援機構（第一種奨学金）であり、次いで日本学生支援機構（第二種奨学金）であった。昨年度の調査においては、本学独自の奨学金である「桜蔭会奨学金(3年生向け)」と「みがかずば奨学金」の2つが最も高い利用希望率であったが、一昨年以前の「新入生の生活に関する調査報告書」では、いずれの年度においても、日本学生支援機構（第一種奨学金）が最も高い利用希望率であり、本年と同じ結果となっている。

また、「希望するものはない」と回答した割合が 53.2%であり、これは過去8年の調査と比べて最も高い割合である。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

<奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、昨年度と同様に統計的に奨学金を希望する割合が高いという傾向がみられた。ただし、母親が家計支持者であるものは 36 名と少なく、家計支持者と奨学金希望について、統計的に有意な関連はみられなかった。

図表2-3 家計支持者 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	137	212	349
		%	39.0%	61.0%	100.0%
	母	度数	25	11	36
		%	69.0%	31.0%	100.0%
合計		度数	162	223	385
		%	42.0%	58.0%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「いない」と奨学金を希望する割合が統計的に高い傾向がみられた。ただし、父親がいないものは 17 名、父親がいた場合もフルタイム勤務以外のパートタイム勤務、自営、無職は合計して 23 名と少なく、奨学金希望と父親の就労形態には、統計的に有意な関連はみられなかった。

図表2-4 父親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	133	202	335	
		%	39.7%	60.3%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	1	0	1	
		%	100.0%	0.0%	100.0%	
	自営	度数	8	12	20	
		%	40.0%	60.0%	100.0%	
	無職	度数	1	1	2	
		%	50.0%	50.0%	100.0%	
	いない	度数	15	2	17	
		%	88.2%	11.8%	100.0%	
	合計		度数	158	217	375
			%	42.1%	57.9%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。「母親の就労形態」を「自営」もしくは「いない」と回答した場合、奨学金を希望する割合が高く、それ以外の場合は奨学金を希望する割合が低い傾向がみられた。ただし、母親の就労形態が自営の者は 16 名、いないものは 4 名と少なく、「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表2-5 母親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	40	53	93
		%	43.0%	57.0%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	71	87	158
		%	44.9%	55.1%	100.0%
	自営	度数	10	6	16
		%	62.5%	37.5%	100.0%
	無職	度数	34	69	103
		%	33.0%	67.0%	100.0%
	いない	度数	3	1	4
		%	75.0%	25.0%	100.0%
合計		度数	158	216	374
		%	42.2%	57.8%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-6 入学後の暮らし向き と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	141	77	218
		%	64.7%	35.3%	100.0%
	ゆとりがある	度数	19	136	155
		%	12.3%	87.7%	100.0%
合計		度数	160	213	373
		%	42.9%	57.1%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。世帯年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低下する傾向が見られた。昨年度、一昨年度は1000万円以上から奨学金を希望する割合が低下する傾向が見られた。

図表2-7 世帯年収 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
世帯年収	400万円未満	度数	27	4	31	
		%	87.1%	12.9%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	21	6	27	
		%	77.8%	22.2%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	40	21	61	
		%	65.6%	34.4%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	32	57	89	
		%	36.0%	64.0%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	22	50	72	
		%	30.6%	69.4%	100%	
	1200万円以上	度数	18	78	96	
		%	18.8%	81.3%	100.0%	
	合計		度数	160	216	376
			%	42.6%	57.4%	100.0%

*** 注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低下する傾向が見られた。これは、昨年度と同様の結果である。

図表2-8 家計支持者年収 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
家計支持者年収	400万円未満	度数	35	4	39	
		%	89.7%	10.3%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	30	23	53	
		%	56.6%	43.4%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	47	32	79	
		%	59.5%	40.5%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	24	47	71	
		%	33.8%	66.2%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	15	50	65	
		%	23.1%	76.9%	100.0%	
	1200万円以上	度数	8	59	67	
		%	11.9%	88.1%	100.0%	
	合計		度数	159	215	374
			%	42.5%	57.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-9は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-9 奨学金受給経験 と 奨学金希望 のクロス表					
			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金 受給経験	経験なし	度数	115	206	321
		%	35.8%	64.2%	100.0%
	経験あり	度数	42	10	52
		%	80.8%	19.2%	100.0%
合計		度数	157	216	373
		%	42.1%	57.9%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-10 は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-10 学生寮認知 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	106	99	205
		%	51.7%	48.3%	100.0%
	知らない	度数	53	119	172
		%	30.8%	69.2%	100.0%
合計		度数	159	218	377
		%	42.2%	57.8%	100.0%

*** 注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

図表2-11は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度の結果と同様の結果であった。

図表2-11 学生寮希望 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	65	22	87
		%	74.7%	25.3%	100.0%
	希望しない	度数	87	195	282
		%	30.9%	69.1%	100.0%
合計		度数	152	217	369
		%	41.2%	58.8%	100.0%

*** 注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

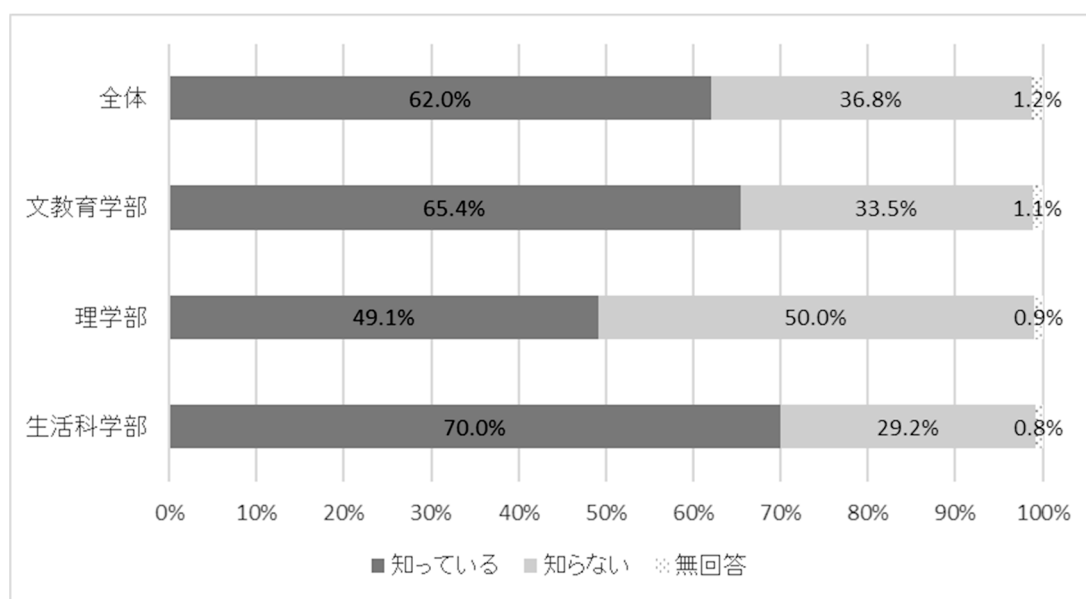
(3) 学生寮に関する結果

①新入生の結果

<学生寮の認知>

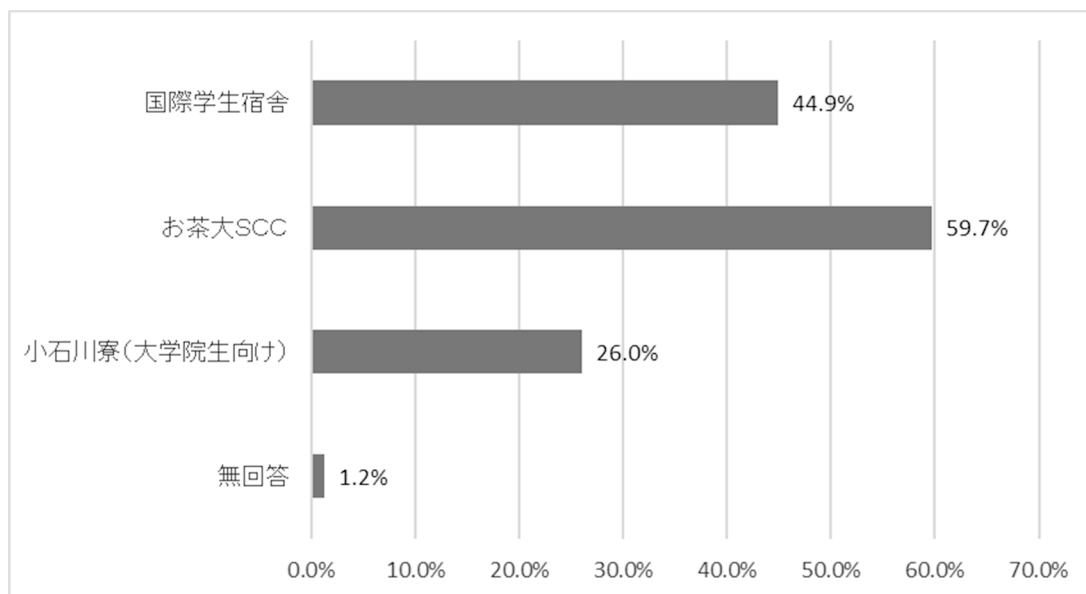
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では62.0%の新入生が学生寮について認知している。

学部別にみると、理学部が他学部に比べて低い結果となっており、これは昨年度、一昨年度の調査でも同様の結果であった。



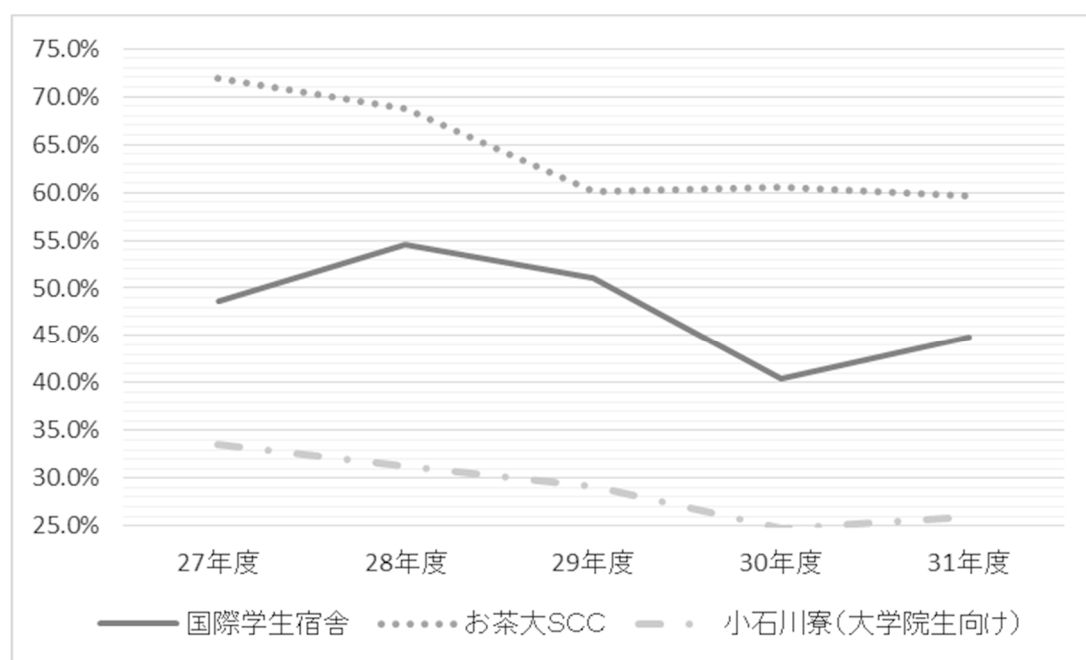
図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には自治寮である国際学生宿舎（学部生対象）、小石川寮（大学院生対象）、教育寮であるお茶大 SCC（学部 1・2 年生対象）の 3 つの学生寮がある。認知率は、お茶大 SCC が 59.7% と最も高く、次いで国際学生宿舎 44.9%、小石川寮 26.0% であった。



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

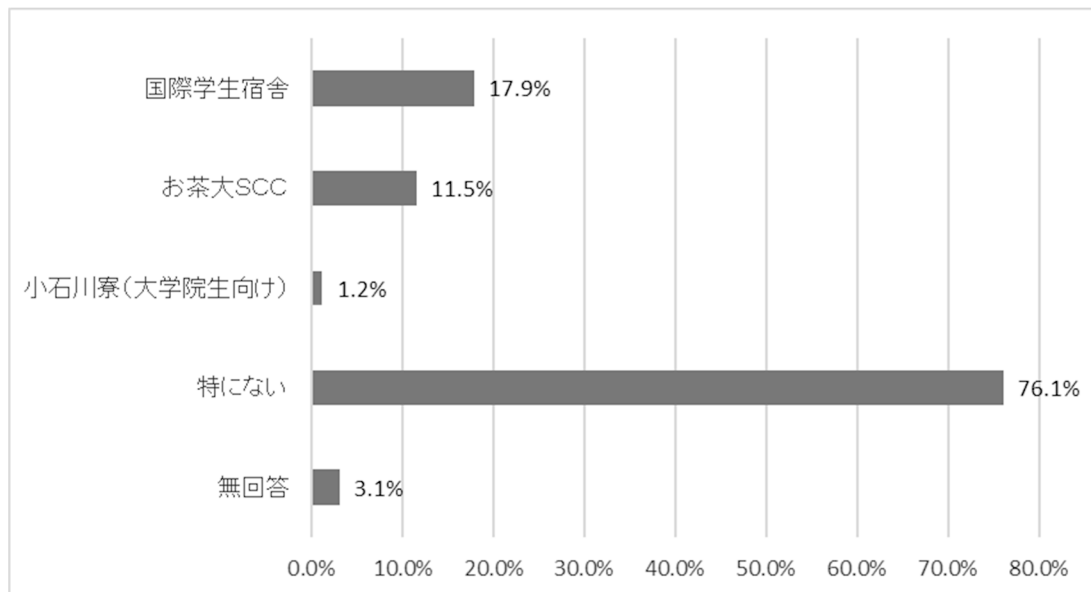
認知率の経年の変化を見ると、平成 30 年度の調査では、お茶大 SCC 60.5%、国際学生宿舎の 40.5%、小石川寮 24.8%、平成 29 年度の調査では、お茶大 SCC 60.1%、国際学生宿舎 51.0%、小石川寮 29.2%、平成 28 年度の調査では、お茶大 SCC 68.8%、国際学生宿舎 54.5%、小石川寮 31.3% であった、平成 27 年度の調査では、お茶大 SCC 71.9%、国際学生宿舎 48.7%、小石川寮 33.5% であり、お茶大 SCC は、他 2 寮と比べて認知率の減少が顕著であった。



図表 3-3 本学の学生寮に対する認知率の推移（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特にない」と回答した新入生が最も多く 76.1%であった。国際学生宿舎を希望する学生は 17.9%で、お茶大 SCC を希望する学生は 11.5%、小石川寮は 1.2%であった。

希望率の経年の変化を見ると、平成 30 年度の調査では、「特にない」と回答した新入生は 76.5%、国際学生宿舎 18.6%、お茶大 SCC 12.9%、小石川寮は 0.3%であった。平成 29 年度の調査では、「特にない」とした新入生は 77.7%であり、国際学生宿舎を希望する学生は 18.5%、お茶大 SCC 9.4%、小石川寮 0.9%であり、経年での希望率の変化は見られなかった。平成 28 年度以前の調査では、新入生自身への入寮を希望する学生寮についての調査はおこなわれていない。



図表 3-4 本学の学生寮への入寮希望（寮別）

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4～3-8 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知との間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表3-4 きょうだい数 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	48	21	69
		%	69.6%	30.4%	100.0%
	2人きょうだい	度数	154	87	241
		%	63.9%	36.1%	100.0%
	3人以上	度数	58	45	103
		%	56.3%	43.7%	100.0%
合計		度数	260	153	413
		%	63.0%	37.0%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には有意な関連は見られなかった。

図表3-5 出身高校設置者 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	160	84	244
		%	65.6%	34.4%	100.0%
	私立	度数	84	57	141
		%	59.6%	40.4%	100.0%
	国立	度数	12	10	22
		%	54.5%	45.5%	100.0%
	海外	度数	3	2	5
		%	60.0%	40.0%	100.0%
合計		度数	259	153	412
		%	62.9%	37.1%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-6は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には有意な関連はみられなかった。

図表3-6 奨学金受給経験 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	37	18	55
		%	67.3%	32.7%	100.0%
	経験あり	度数	223	136	359
		%	62.1%	37.9%	100.0%
合計		度数	260	154	414
		%	62.8%	37.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表3-7 居住予定の住居 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
居住予定の住居	実家以外	度数	141	36	177
		%	79.7%	20.3%	100.0%
	実家	度数	119	118	237
		%	50.2%	49.8%	100.0%
合計		度数	260	154	414
		%	62.8%	37.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表3-8 仕送り額 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	12	4	16
		%	75.0%	25.0%	100.0%
	5万円未満	度数	11	4	15
		%	73.3%	26.7%	100.0%
	5万円以上 10万円未満	度数	63	9	72
		%	87.5%	12.5%	100.0%
	10万円以上	度数	51	16	67
		%	76.1%	23.9%	100.0%
合計		度数	137	33	170
		%	80.6%	19.4%	100.0%

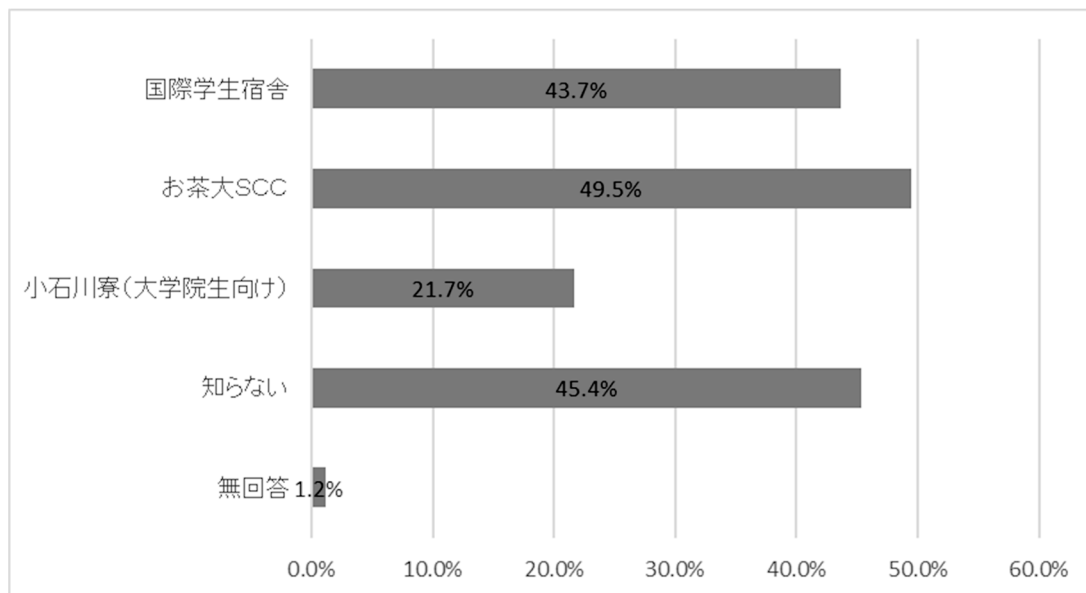
n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

②保護者の結果

<学生寮の認知と利用希望>

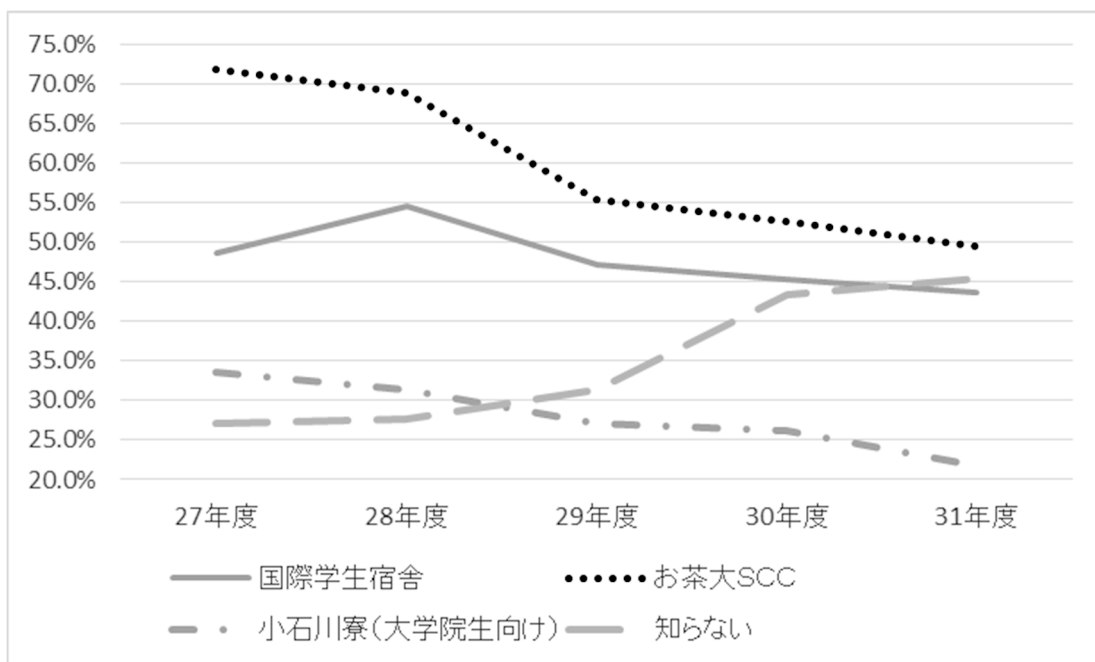
図表 4-1 では、新入生の保護者に本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

認知率が最も高かったのは、お茶大 SCC で 49.5%と最も高く、次いで国際学生宿舎が 43.7%、小石川寮は 21.7%であった。「知らない」と回答した割合は 45.4%であった。



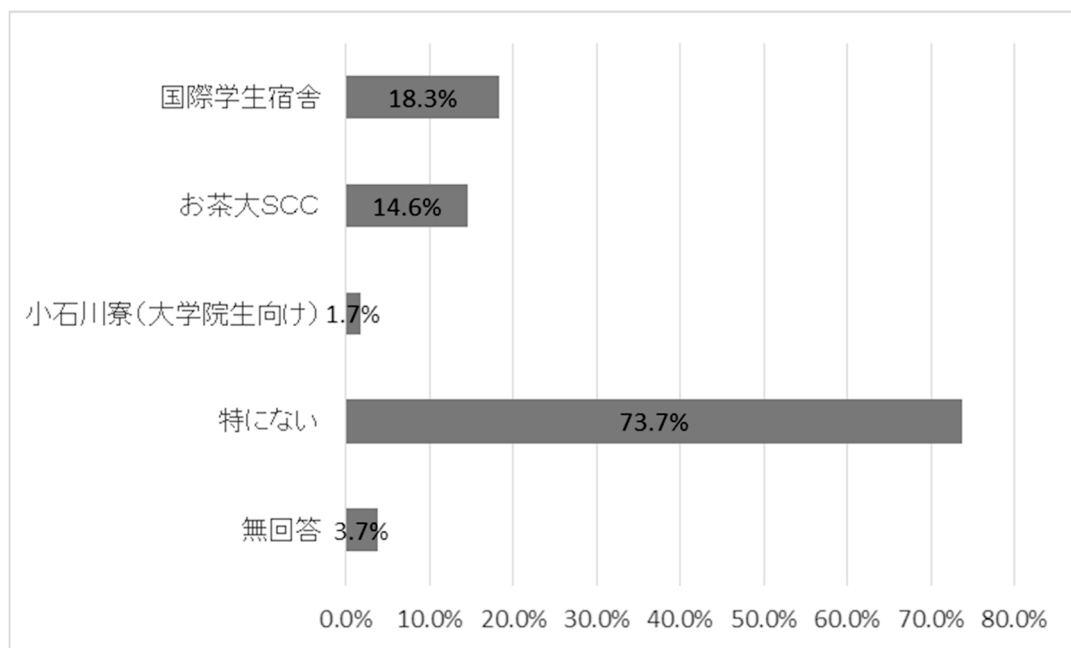
図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、保護者の学生寮に関する認知率の経年の変化を示している。平成 30 年度の調査では、お茶大 SCC が 52.7%、国際学生宿舎が 45.4%、小石川寮が 26.1%、「知らない」と回答した割合は 43.3%、平成 29 年度の調査では、お茶大 SCC が 55.4%、国際学生宿舎が 47.1%、小石川寮が 27.2%、「知らない」と回答した割合は 39.5%、平成 28 年度の調査では、お茶大 SCC が 68.8%、国際学生宿舎が 54.5%、小石川寮が 31.3%、「知らない」と回答した割合は 27.6%、平成 27 年度の調査では、お茶大 SCC が 71.9%、国際学生宿舎が 48.7%、小石川寮が 33.5%、「知らない」と回答した割合は 27.1%という結果であり、お茶大 SCC の認知率は低下している傾向が見られ、一方、学生寮を「知らない」と回答するものは増加傾向であり、認知率の低下が認められる。



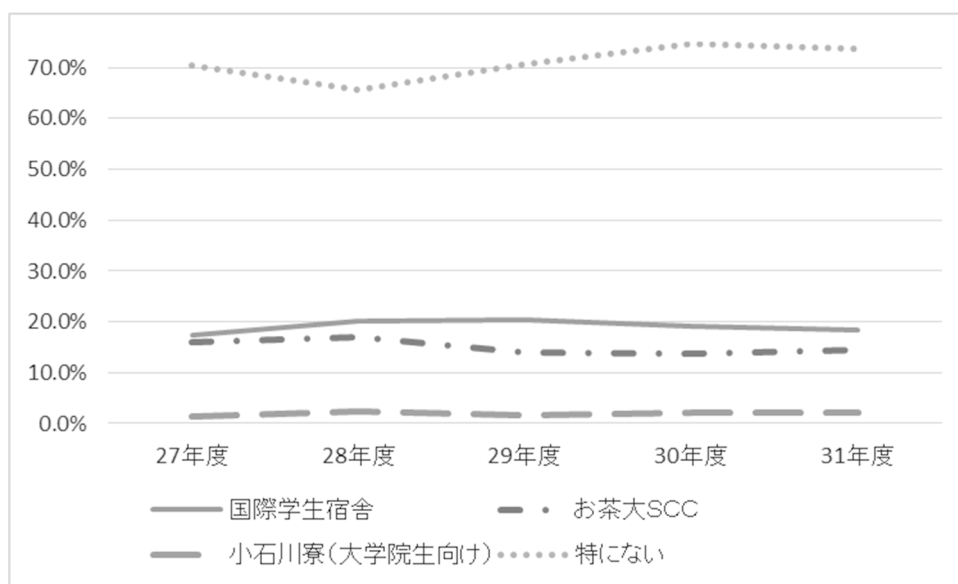
図表 4-2 保護者の学生寮認知率の推移

図表 4-3 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。国際学生宿舎への入寮希望が 18.3%、次いでお茶大 SCC が 14.6%、小石川寮が 2.1%であり、入寮希望について「特にない」が 73.7%であった。



図表 4-3 本学の学生寮への入寮希望

保護者の学生寮への入寮希望の割合の経年の変化を見ると、平成 30 年度の調査では、国際学生宿舎が 19.1%、お茶大 SCC が 13.8%、小石川寮が 2.1%、「特にない」と回答した割合は 74.7%、平成 29 年度の調査では、国際学生宿舎が 20.3%、お茶大 SCC が 14.0%、小石川寮が 1.7%、「特にない」と回答した割合は 70.6%、平成 28 年度の調査では、国際学生宿舎が 20.1%、お茶大 SCC が 16.9%、小石川寮が 2.3%、「特にない」と回答した割合は 65.6%、平成 27 年度の調査では、国際学生宿舎が 17.4%、お茶大 SCC が 16.0%、小石川寮が 1.4%、「特にない」と回答した割合は 70.5%という結果であり、経年での回答の割合に関する大きな変化は認められなかった。



図表 4-4 本学の学生寮への入寮希望率の推移

<学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合には学生寮を希望する割合が高いという関連が見られた。

図表 4-3 家計支持者 と 入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	77	291	368
		%	20.9%	79.1%	100.0%
	母	度数	16	18	34
		%	47.1%	52.9%	100.0%
合計		度数	93	309	402
		%	23.1%	76.9%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」や「自営」の場合は入寮を希望する割合が統計的に低い傾向がみられ、その他の「パートタイム勤務」や「無職」、そして父親が「いない」場合は高い傾向がみられた。

図表 4-4 父親の就労形態 と入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	73	279	352
		%	20.7%	79.3%	100.0%
	自営	度数	6	15	21
		%	28.6%	71.4%	100.0%
	その他	度数	13	5	18
		%	72.2%	27.8%	100.0%
合計		度数	92	299	391
		%	23.5%	76.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表4-5は「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親が「自営業」の場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし「母親の就労形態」と「入寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-5 母親の就労形態 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	25	72	97
		%	25.8%	74.2%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	35	131	166
		%	21.1%	78.9%	100.0%
	自営	度数	7	11	18
		%	38.9%	61.1%	100.0%
	無職	度数	26	80	106
		%	24.5%	75.5%	100.0%
合計		度数	93	294	387
		%	24.0%	76.0%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 4-6 入学後の暮らし向き と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
暮らし向き	ゆとりがない	度数	81	141	222
		%	36.5%	63.5%	100.0%
	ゆとりがある	度数	11	158	169
		%	6.5%	93.5%	100.0%
合計		度数	92	299	391
		%	23.5%	76.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-7 は「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、世帯年収に対して、400万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。もっとも入寮希望が高かったのは「400 万円以上 600 万円未満」の世帯年収のものであり 57.7%であり、ついで「400 万円未満」の 46.7%であった。世帯年収が上がると、入寮希望の割合が低くなる傾向がみられた。

図表 4-7 世帯年収 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	14	16	30	
		%	46.7%	53.3%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	15	11	26	
		%	57.7%	42.3%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	20	44	64	
		%	31.3%	68.8%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	22	70	92	
		%	23.9%	76.1%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	11	62	73	
		%	15.1%	84.9%	100%	
	1200万円以上	度数	11	97	108	
		%	10.2%	89.8%	100.0%	
	合計		度数	93	300	393
			%	23.7%	76.3%	100.0%

*** 注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、家計支持者の年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が高くなるほど、学生寮を希望する割合が低くなる傾向が見られ、有意な関連がみられた。これは昨年度と同じ結果であった。

図表4-8 家計支持者年収 と 入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	18	20	38
		%	47.4%	52.6%	100.0%
	400万円以上 600万円未満	度数	19	33	52
		%	36.5%	63.5%	100.0%
	600万円以上 800万円未満	度数	22	59	81
		%	27.2%	72.8%	100.0%
	800万円以上 1000万円未満	度数	16	58	74
		%	21.6%	78.4%	100.0%
	1000万円以上 1200万円未満	度数	11	61	72
		%	15.3%	84.7%	100.0%
1200万円以上	度数	6	68	74	
	%	8.1%	91.9%	100.0%	
合計		度数	92	299	391
		%	23.5%	76.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表4-9は「奨学金受給経験」と「入寮の希望」のクロス表である。年度の調査では統計上は有意な結果が得られなかったが、今年度の調査では過去に奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高く有意な関連が示された。

図表4-9 奨学金受給経験 と入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
奨学金受給経験	経験なし	度数	72	268	340
		%	21.2%	78.8%	100.0%
	経験あり	度数	20	29	49
		%	40.8%	59.2%	100.0%
合計		度数	92	297	389
		%	23.7%	76.3%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-10 は「学生寮認知」と「入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高く有意な関連がみられた。

図表4-10 学生寮認知 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	91	120	211
		%	43.1%	56.9%	100.0%
	知らない	度数	2	180	182
		%	1.1%	98.9%	100.0%
合計		度数	93	300	393
		%	23.7%	76.3%	100.0%

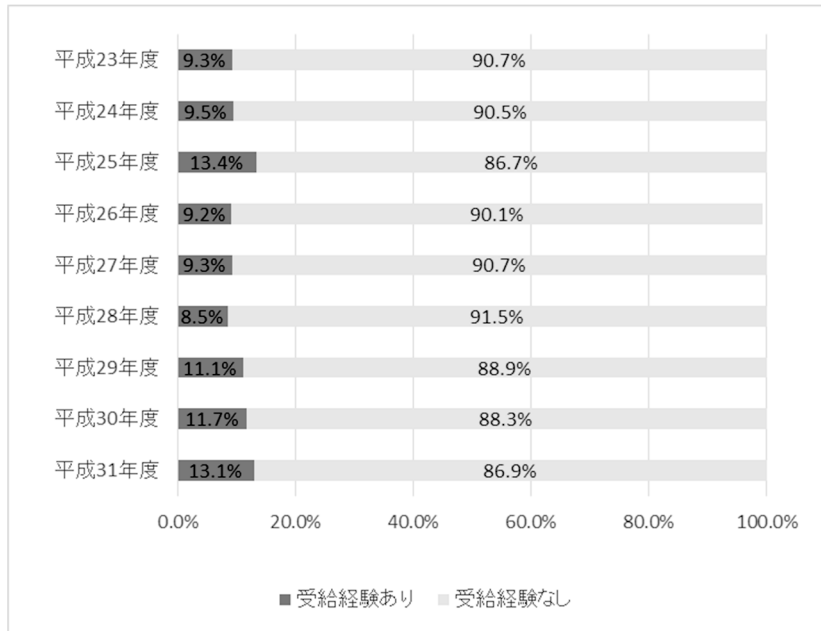
*** 注 *** $p < .000$, ** $p < .01$, * $p < .05$, n.s. (not significant)

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

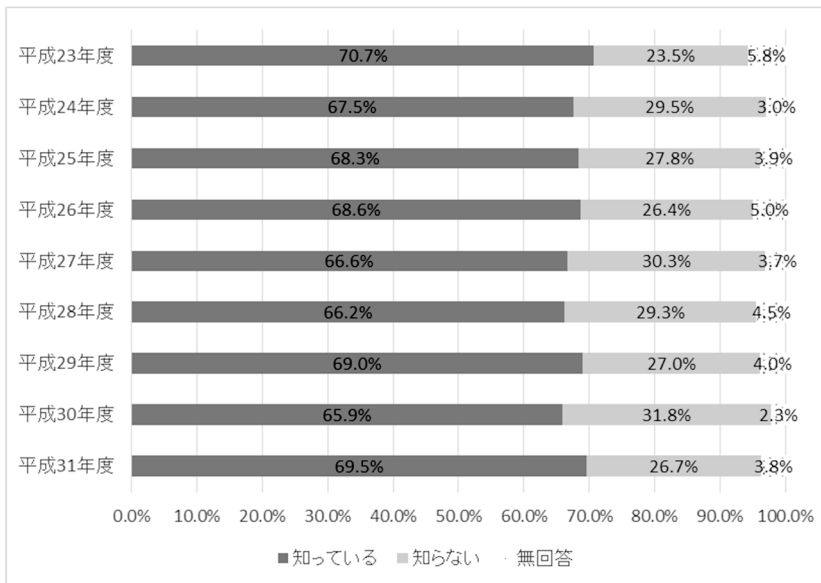
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去8年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表5-1～5-3に示す。

図表5-1は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去8年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が13.1%であり、これは平成25年度の13.4%に次いで2番目に高い割合である。



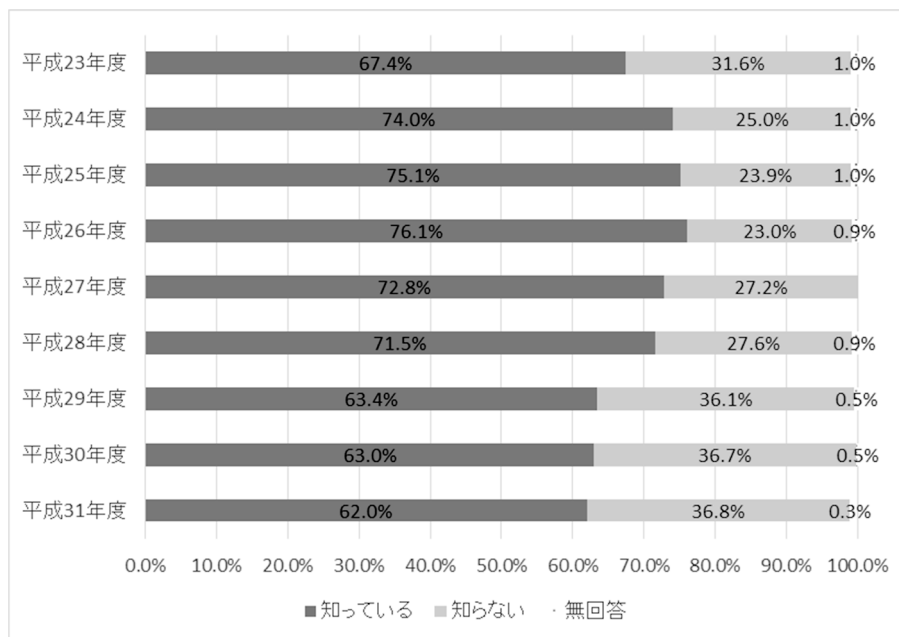
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表5-2は新入生の奨学金等制度の認知について過去8年間の結果と比較したものである。今年度の調査において、奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が69.5%という結果であった。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 8 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率については、平成 26 年度以降認知率が低下しており、今年度調査では、「知っている」が 62.0%と最も低い割合を示している。

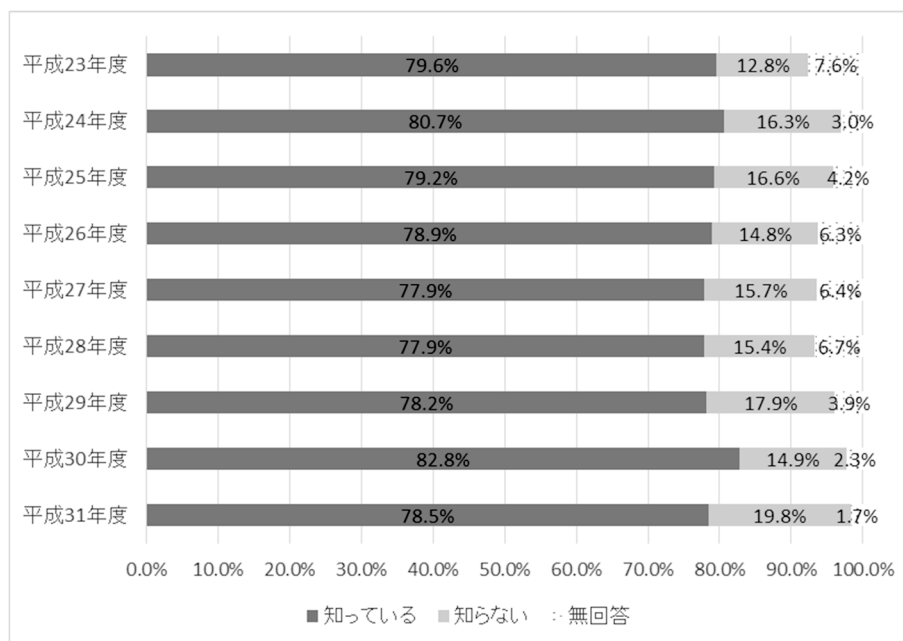


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

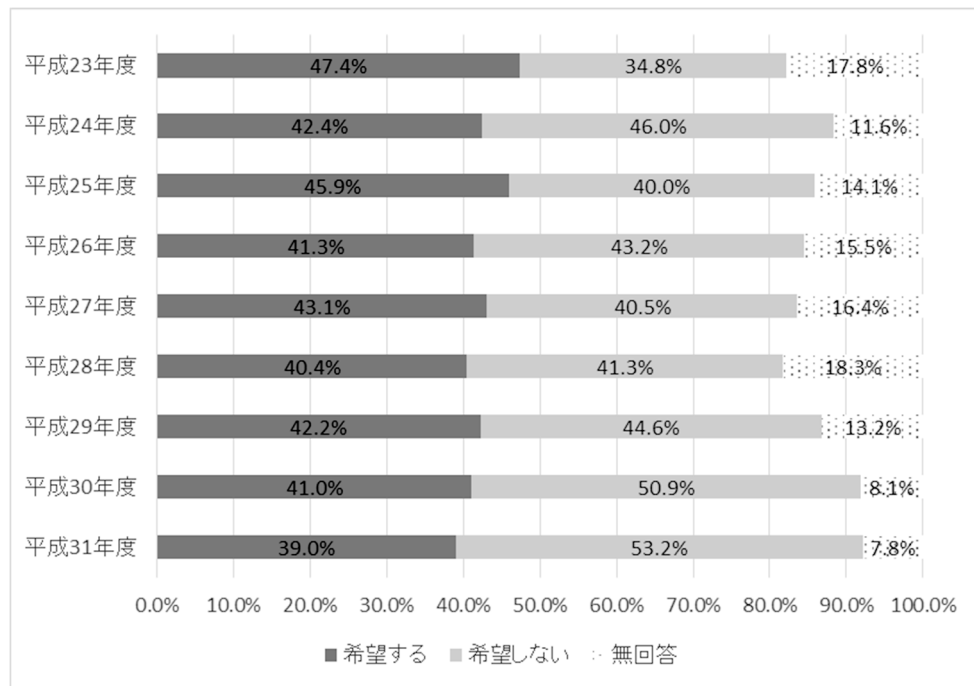
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 8 年間の結果と比較したものを図表 6-1~6-4 に示す。

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 8 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 78.5%、「知らない」が 19.8%であった。保護者の奨学金制度の認知率が過去の新入生調査の中で最も高かった昨年度の調査からは、4.3 ポイント下がった結果であった。



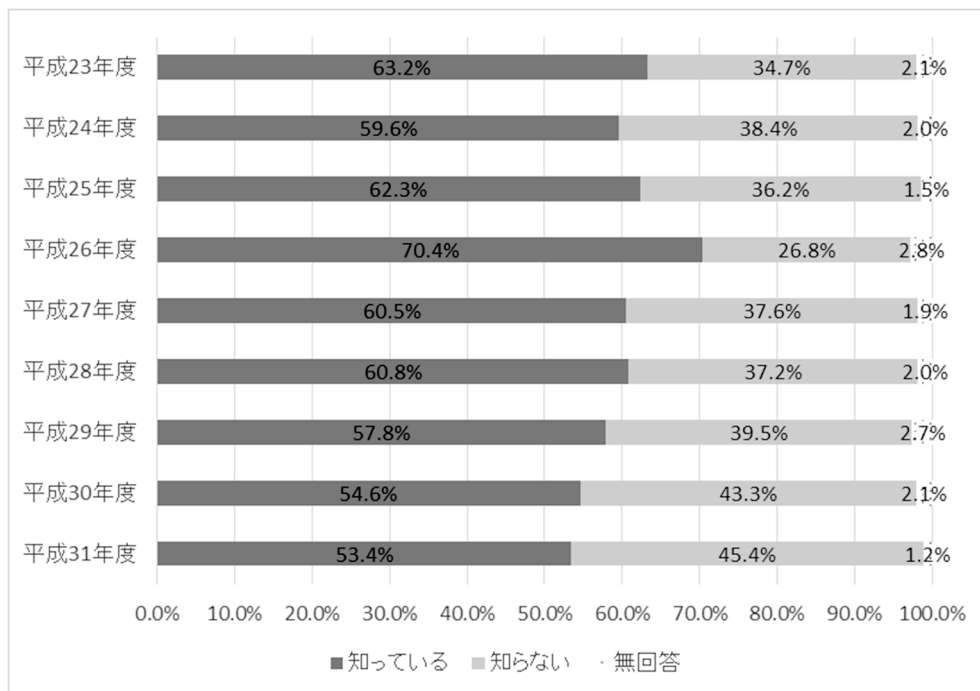
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 8 年間の結果と比較したものである。今年度調査では「希望しない」が 53.2%であり、「奨学金を希望しない」と回答した割合が過去 8 年間の調査と比べて最も高い結果となった。



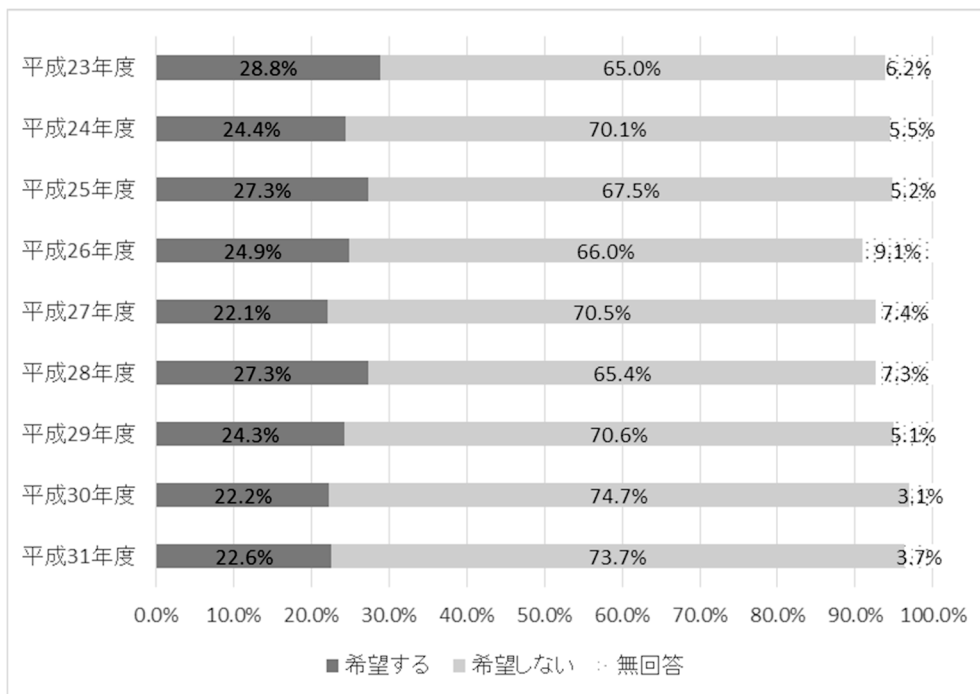
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 8 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 53.4%と、過去の調査の中で最も低い認知率を示している。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 8 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合は 22.6%、「希望しない」と回答した割合は 73.7%である。今年度調査では、「希望しない」と回答した割合が過去調査の中で平成 30 年度に次いで高い割合であった。



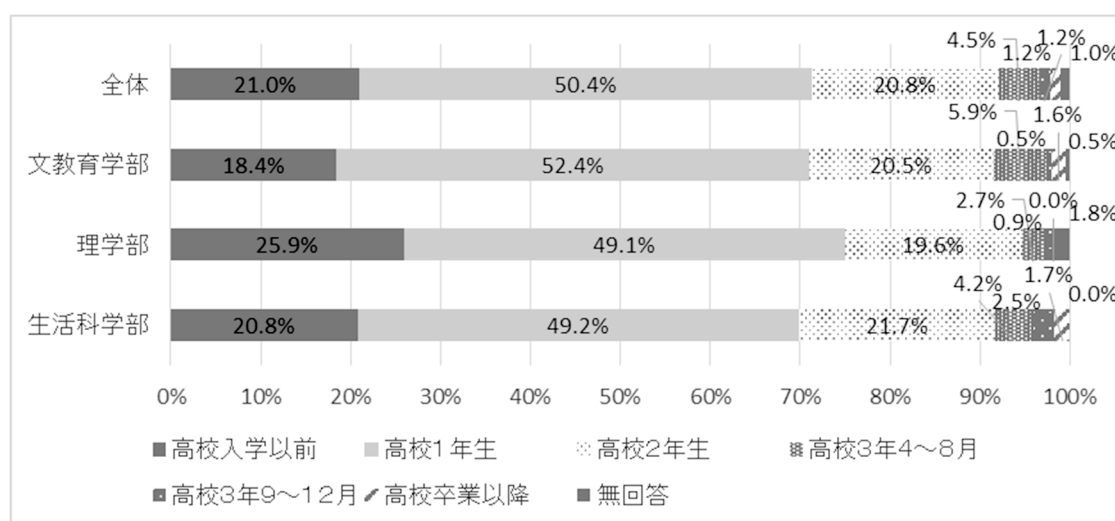
図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較

第4章 新入生「追加質問票」高校時代の進路選択の結果

本章では、新入生419名に対して配布した追加質問票の結果を報告する。追加質問票では、これまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねている。

図表1-1は、高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、尋ねたものである。全体では「高校1年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が50.4%と最も多い割合を示しており、次いで「高校入学以前」が21.0%、「高校2年生」が20.8%と続く。全体の90%以上が、高校3年生になる前に文理の選択が終了している。

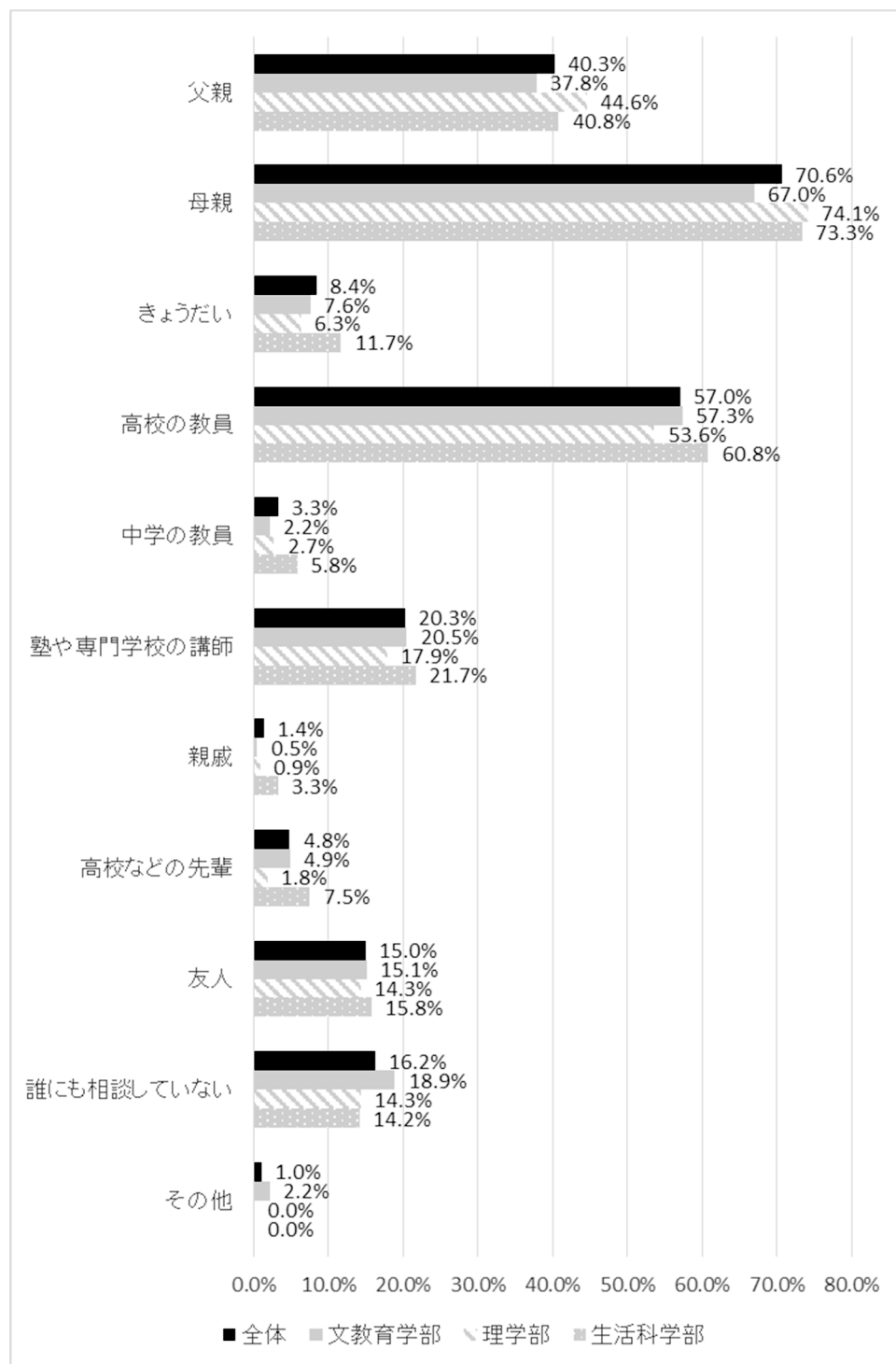
学部別に見ると、高校入学前に進路選択がおこなわれている割合が最も高いのは、理学部で25.9%、生活科学部20.8%であった。昨年度の調査においても、高校入学前に進路選択がおこなわれている割合が最も高い学部は理学部であり30.7%であった。



図表 1-1 文理選択の時期

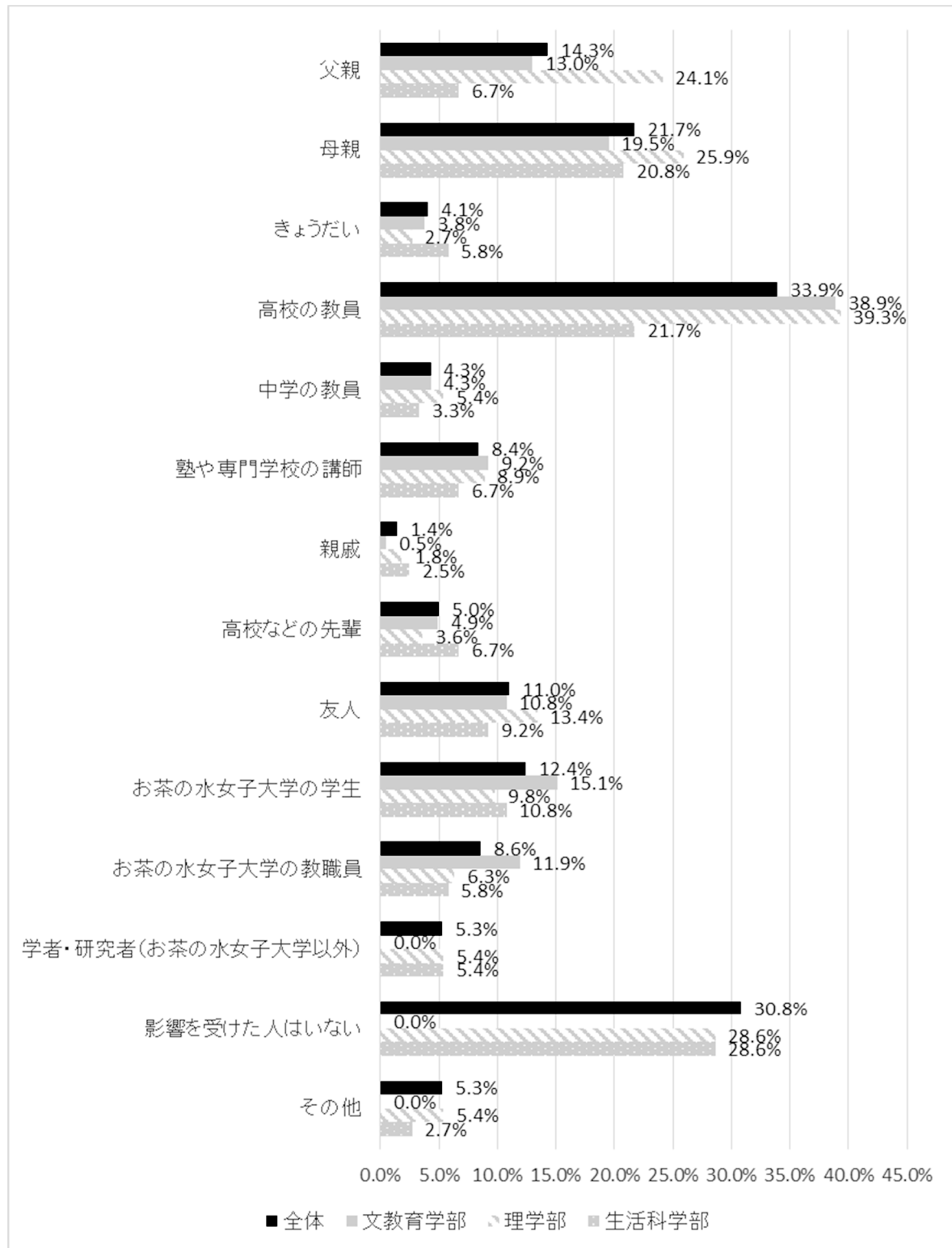
図表 1-2 では、専門（学科）を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の 70.6%であり、次に「高校の教員」57.0%、「父親」40.3%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も 16.2%と一定数あることが示された。

学部別に見ても、どの学部においても、相談した人の最も高い割合を示したのは「母親」であり、次いで「高校の教員」、「父親」という結果であった。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

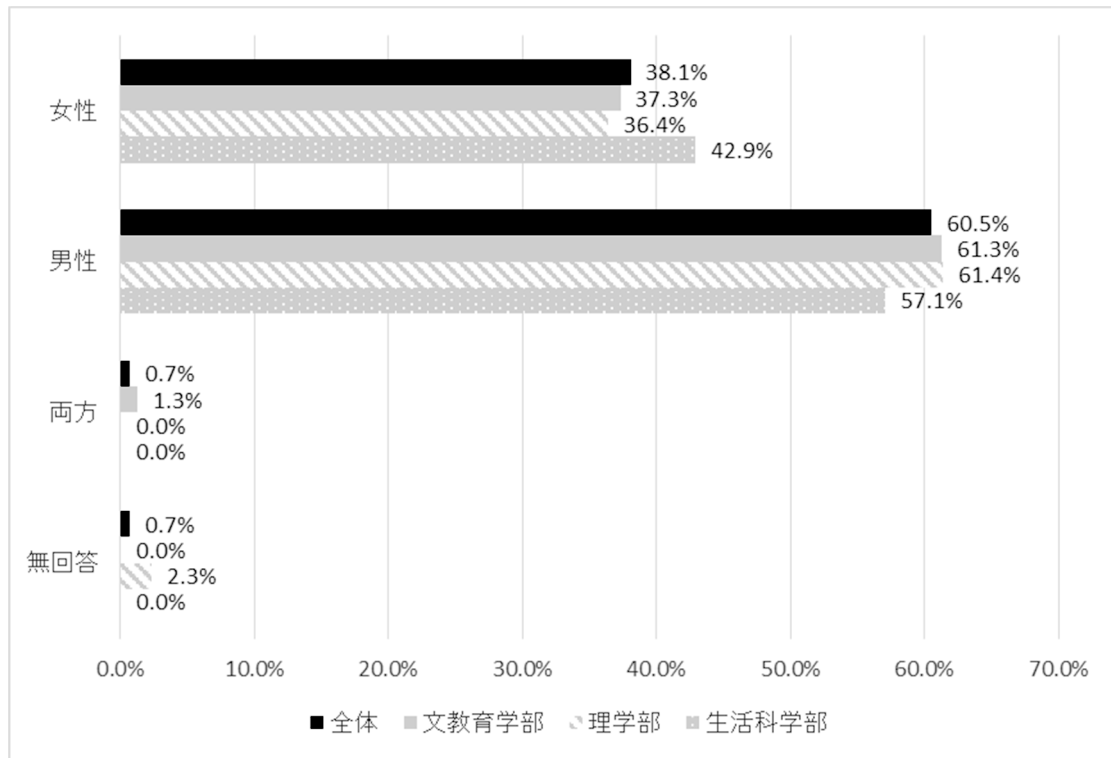
図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 30.8%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 33.9%、次に「母親」が 21.7%、「父親」が 14.3%であった。学部別にみると、文教育学部では「学者・研究者（お茶の水女子大学以外）」から影響を受けたと「影響を受けた人はいない」とした回答がなかった。生活科学部では「父親」と回答した割合が 6.7%と他 2 学部と比べて低い結果を示していた。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新入生 147 名に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6・1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

図表 1-4 では、どの学部においても女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高く、昨年度の「影響を受けた教員の性別に違いが見られなかった」という結果とは異なっている。



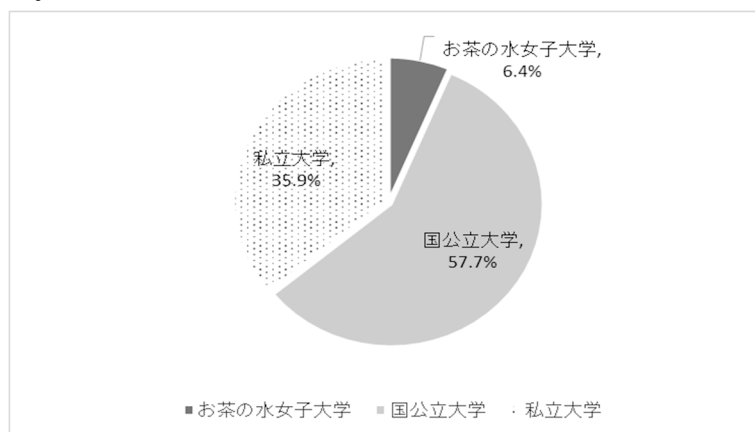
図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。これは、昨年度の新入生調査でも同じ結果であった。

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文学科	国語/古文(1)、英語(2)、近世文学(1)、現代文(2)、数学(1)、地学(1)、社会(2)、地理(4)、地理歴史(1)、近現代史(1)、古代～中世日本史(1)、世界史(4)、日本史(3)、日本史/古典(1)、歴史(2)
	言語文化学科	国語(5)、国語科(古典)(1)、英語(4)、古代中国文学(1)、古典(1)、古典(上代)(1)、中国古典(1)、日本文学(1)、日本文学(近現代)(1)、数学(3)、世界史(3)、日本史(1)、体育(1)
	人間社会科学科	英語(3)、数学(2)、化学(1)、社会/国語(1)、社会学(2)、日本史(1)
	芸術・表現行動学科	英語(1)、数学(2)、体育(2)、音楽(3)、舞踊(2)
理学部	数学科	数学(7)、物理(1)
	物理学科	物理(3)、物理(宇宙)(1)
	化学科	英語(2)、数学(2)、応用化学(1)、化学(3)
	生物学科	数学(4)、生物(6)、土壌の微生物(2)
	情報科学科	国語・書道(1)、数学(3)、情報(2)
生活科学部	食物栄養学科	英語(2)、数学(2)、家庭科(1)
	人間・環境科学科	数学(1)、化学(1)、生物(1)、物理(1)、地理(1)
	人間生活学科	国語(3)、英語、生物(1)、社会(2)、ドイツ史(1)、世界史(1)、公民(1)
	心理学科	英語(1)、学校司書(1)、メディア論(1)、哲学(1)、倫理(1)、心理(1)

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について回答のあった 78 名の結果を、お茶の水女子大学、その他の国立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、6.4%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示された。これは昨年の 19.6%と比べて 13.2 ポイント低い結果であった。

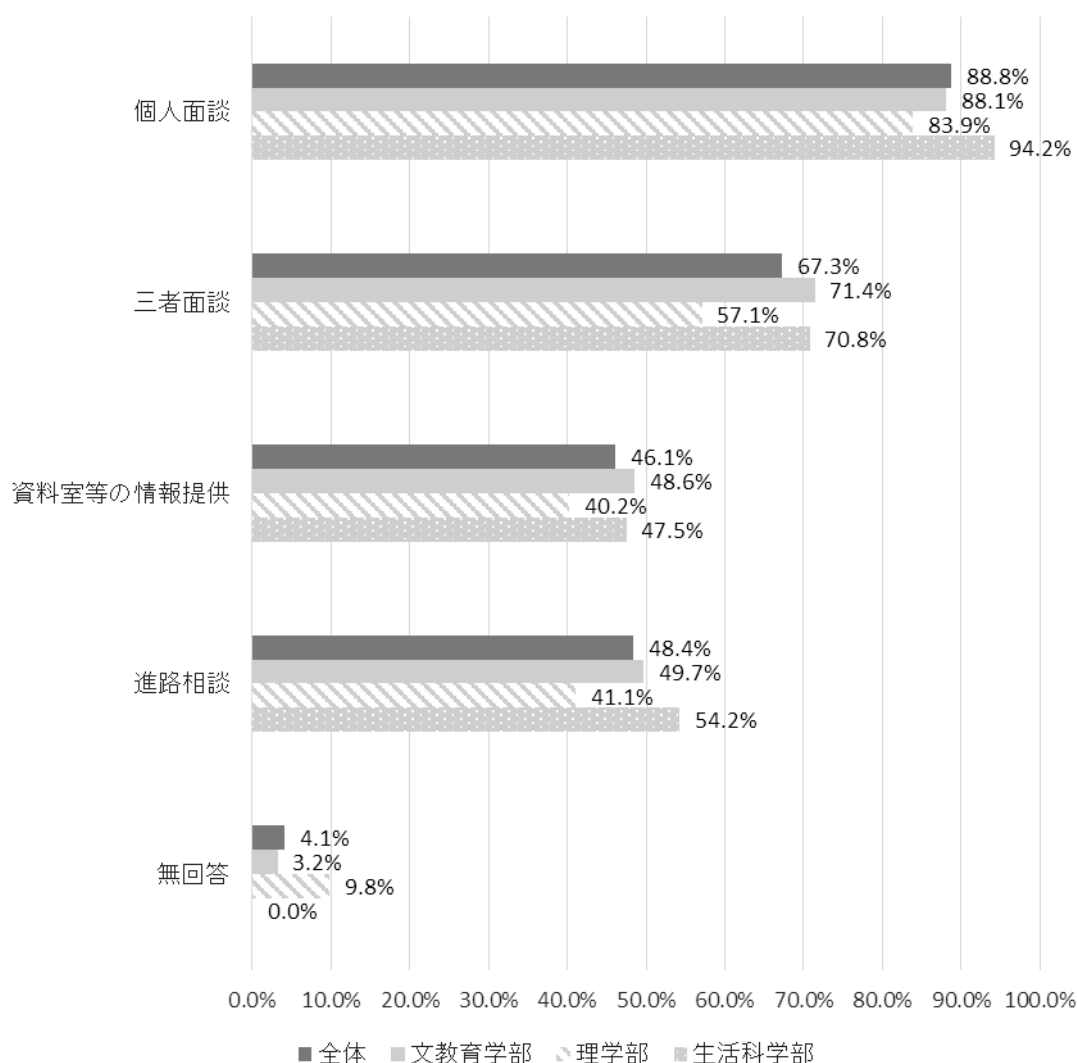


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

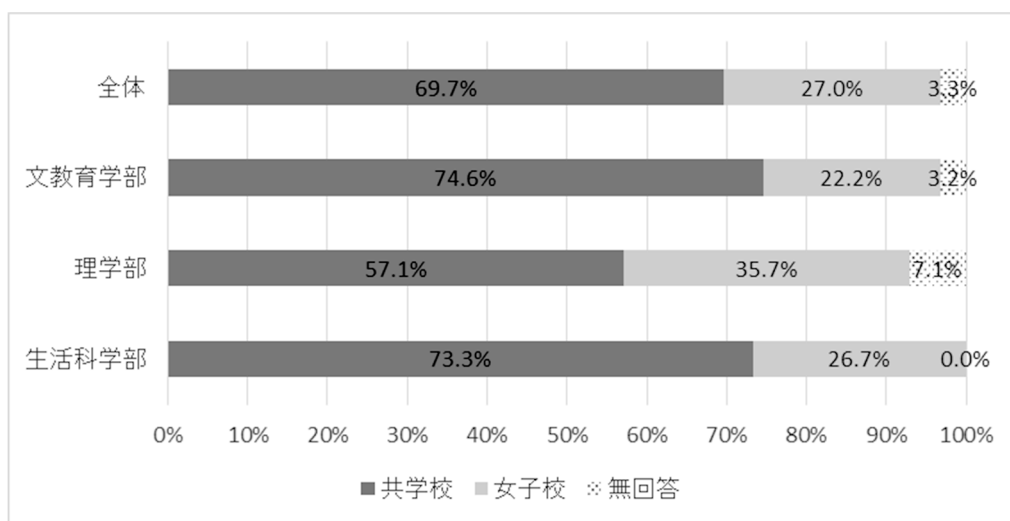
国立大学	お茶の水女子大学(5)、東北大学(2)、筑波大学(4)、宇都宮大学、埼玉大学(3)、東京大学(7)、東京工業大学(2)、東京学芸大学(3)、東京外国語大学、千葉大学、新潟大学、金沢大学(3)、福井大学(2)、名古屋大学(4)、奈良女子大学、京都大学、岡山大学(2)、広島大学(4)、九州大学(2)、熊本大学
私立大学	早稲田大学(7)、慶応義塾大学(2)、国際基督教大学、上智大学、東京理科大学(4)、明治大学、津田塾大学、成蹊大学、立正大学、明治学院大学、東邦大学、日本女子大学、日本体育大学、日本女子体育大学、武蔵野音楽大学(2)、国立音楽大学、アメリカの大学

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の4つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で88.8%であった。



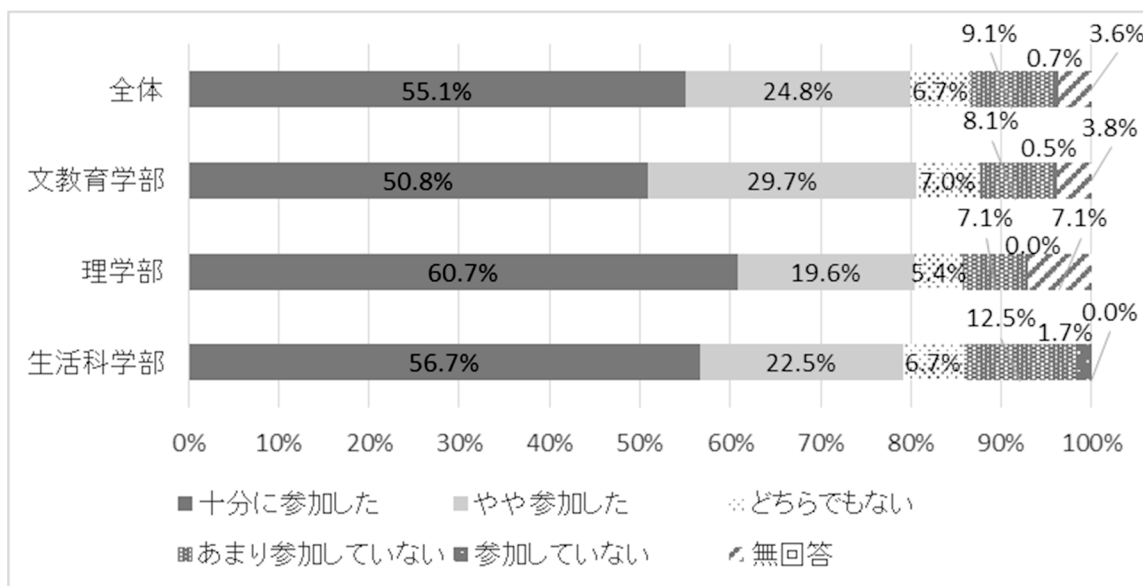
図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 69.7%、「女子校」と回答した割合は 27.0%であった。学部別にみると、理学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて 17 ポイント程度低い結果であった。



図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校）

図表 1-10 では、高等学校時代の理系科目の学修において、どの程度実験や実習に参加していたかを尋ねた結果である。全体で見ると、「参加した」（「十分に参加した」+「やや参加した」）と回答した割合は 79.9%であり、「参加していない」（「あまり参加していない」+「参加していない」）と回答した割合は、9.8%であった。3 学部で比較すると、「参加した」と「参加していない」と回答した割合はほぼ同様の結果であった。

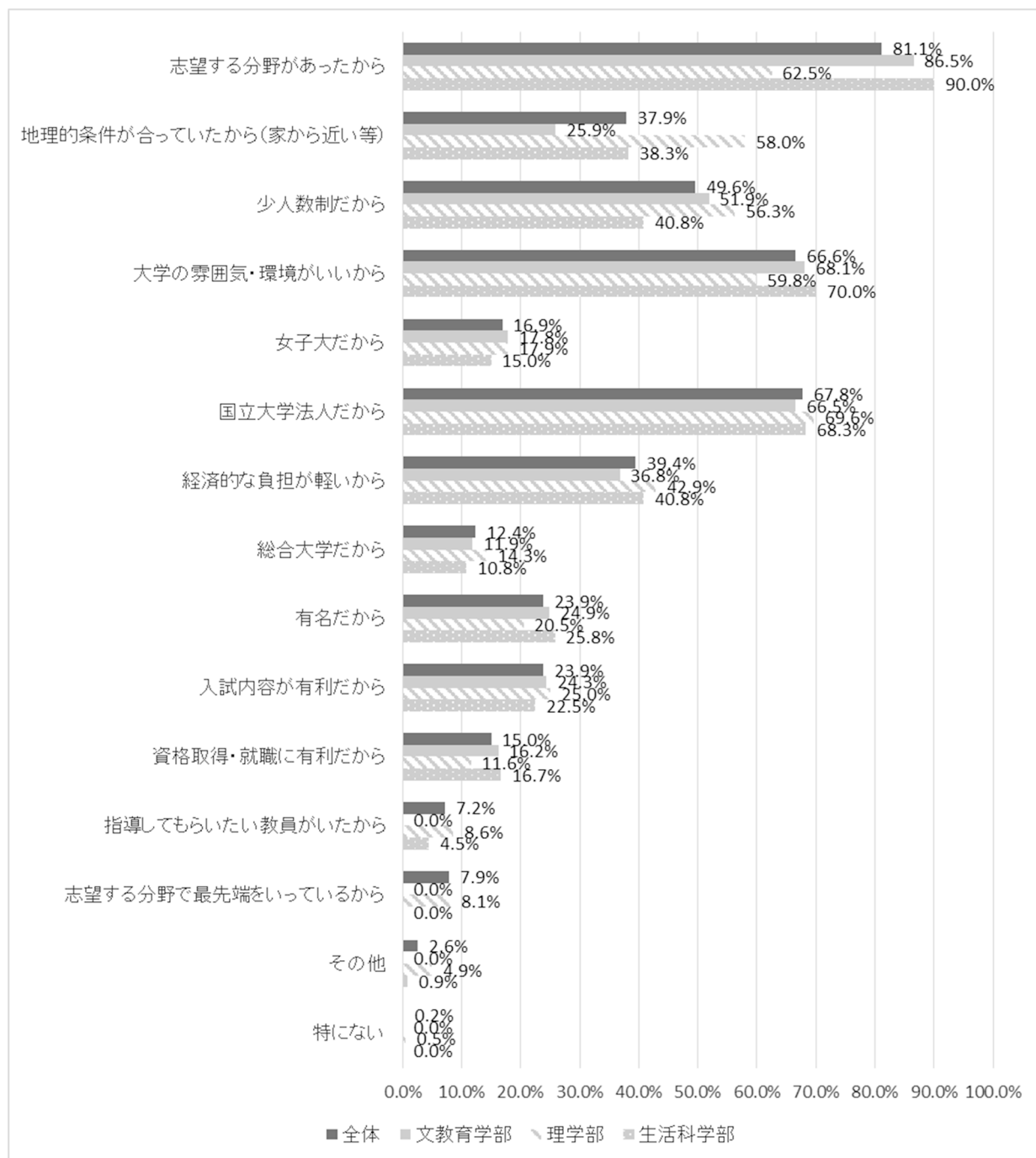


図表 1-10 理系科目の実験・実習の参加度合い

図表 1-11 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で 81.1%であり、これは昨年度の結果より 12.5 ポイント高い結果となっている。次に「国立大学法人だから」67.8%、「大学の雰囲気・環境がいいから」66.6%が続く。学部別にみると、文教育学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」であり、理学部では「国立大学法人だから」の 67.0%であった。

また、理学部では、「地理的条件が合っていたから（家から近い等）」を理由としてあげるものの割合が 58.0%であり、他の学部と比較して高い傾向がみられた。



図表 1-11 お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）

第5章 考察および今後の課題

(1) 平成31年度新入生の特徴と考察

第1章、第2章に示した平成31年度新入生調査より明らかになった特徴をまとめる。

1. 新入生の87.8%は「お茶大を第一志望」として入学しているが、学部間にはやや差異がある

平成31年度新入生において本学が第一志望である新入生は87.8%と、平成30年度より約3ポイント上昇し依然として高い水準にある。学部間では、文教育学部および生活科学部の学生の約9割が本学を第一志望とし、この水準は例年通りである。理学部の第一希望割合は81.3%で、平成30年度の約7割から上昇し、一昨年以前と同様の水準であった。

2. 学びの意欲が高い一方で、授業についていけるかどうかに対する不安もある

「大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動」において「大学の授業」と回答した学生は99.3%と例年同様非常に高い。同時に、「大学生活が始まって心配なこと」として最も高いのは「授業についていけるか」68.0%である。

本学の入学生の授業に対する関心は非常に高く、大学としては、このような学生の学習意欲を十分に受け止め、教育の質の向上と安心して学べる環境を整え、授業への不安や心配を取り除くような学生支援をすることが求められる。

また、「留学」に対する関心も36.3%と昨年度と同様に高まりつつあることを踏まえ、グローバルな視点での学習機会の提供も必要となるだろう。

3. 卒業後の進路希望は例年同様「民間企業への就職」「進学」が多く、学部による差異あり

大学卒業後の進路希望については、全体では「民間企業に就職する」52.7%、「大学院などに進学する（海外含む）」45.6%、「公務員」29.6%、「教師など専門職」25.1%であり、例年と同様である。学部別の特徴は、理学部で大学院への進学希望者が多く(66.1%)、文教育学部では「民間企業(60.5%)」「公務員(39.5%)」「教師など専門職(33.5%)」が多い。生活科学部は、「民間企業(53.3%)」、「進学(45.0%)」希望者が相対的に高く、各学部の進路希望の特徴に大きな変化はない。

4. 実家から通学する学生は57.5%、自宅外学生は42.5%、仕送りがない割合が再び上昇

入学後の住居の予定として複数回答可として尋ねた結果、全体で「実家から通学」は57.5%、「賃貸アパートやマンション」27.7%、国際学生宿舎は15.0%、お茶大SCCは11.0%となっている。また、昨年度自宅外通学者の「仕送りなし」者は3.6%と減少したが、今年度は8.6%と一昨年並みに戻り、仕送りが額5万円未満の学生も1割弱存在する。その一方で、「10万円以上の仕送りがある」者は36.6%と昨年並みであることから、学生間の仕送り額の違いに注視する必要がある。

5. 大学に期待する学生支援活動は学生・保護者ともに「就職支援」と「進路相談」

大学の学生支援活動への期待（複数回答）は、「就職支援」に期待する人が例年同様78.3%と最も多く、次いで「進路相談」66.6%、「学習支援」60.9%であった。保護者調査も学生と同様に「就職支援」86.8%、「進路相談」72.0%、「学習支援」58.3%と高かった。学生・保護者ともに、卒業後の学生のキャリア構築において大学への期待が高いことを示していた。

(2) 奨学金と学生寮に関する考察

第3章で述べた学生支援における奨学金・学生寮の結果についてまとめ、考察する。

①奨学金

奨学金等制度について新入生の結果をまとめると、「奨学金受給経験のある者」、「入学後の予定住居が実家以外の者」、「学生寮を認知している者」、「仕送りがない、もしくは仕送り額が少ない者」は奨学金等制度を認知している割合が高いことが示された。また、保護者調査の結果では、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が800万円未満の者」、「家計支持者の年収が800万円未満の者」、「奨学金受給経験のある者」、「学生寮を認知している者」、「学生寮を希望している者」について、奨学金等制度の利用を希望する割合が高いことが示された。

また、新入生の結果を学部別に見ると、奨学金制度の認知率、後述する学生寮の認知率いずれも理学部が最も低く偏りがみられた。これは、理学部の平均世帯年収が3学部のなかで最も高いことも要因の一つと考えられるが、どの学部においても、情報を適切に届ける必要性はあるだろう。

そして、保護者の奨学金制度の認知率は78.5%である一方で、奨学金等制度の利用について「希望しない」と回答した割合が53.2%であり過去8年間の調査結果の中で最も高い結果となった。一方、新入生の奨学金受給経験については、「ある」と回答した割合が13.1%であり、これは過去8年間の調査と比較すると、平成25年度に次いで高い割合となっている。保護者の奨学金制度の認知率や新入生の受給経験がある割合が高まっているのにも関わらず、大学において奨学金受給を希望しない割合が高まっていることは、今後の奨学金制度を学生、保護者に伝える上で考慮すべき事項であると考えられる。

②学生寮

学生寮について新入生の結果をまとめると、「入学後の予定住居が実家以外の者」は学生寮を認知している割合が高いことが示された。また保護者調査の結果では、「家計支持者が母親である者」、「父親の就労形態がフルタイム勤務や自営以外の者」、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が600万円未満の者」、「奨学金受給経験のある者」、「学生寮を認知している者」について、学生寮を希望する割合が高いことが示された。また、家計支持者の年収が低くなるほど、学生寮に入寮する希望の割合が高まる傾向が強く示された。経済支援の一環として学生寮が捉えられていることが推察される。

学生寮の認知について過去8年の調査結果と比較すると、今年度新入生の認知率62.0%、保護者の認知率53.4%ともに、最も低い認知率を示している。認知率の推移を寮別に見ると、新入生の認知率は平成27年度と今年度では、国際学生宿舎は3.8ポイント減少し、大学院生向けの小石川寮は7.5ポイント減少したのに対して、お茶大SCCに関しては12.2ポイント減少であった。保護者の認知率も、平成27年度と今年度の変化をみると、国際学生宿舎は5.0ポイント減少し、小石川寮は11.8ポイント減少したのに対して、お茶大SCCは22.4ポイントという大幅な減少がみられ、新入生、保護者ともに、お茶大SCCの認知率の減少が3寮の中で顕著であった。

お茶大SCCは、平成23年に開寮し、3寮の中では最も新しい寮である。他の寮は自治寮であるのに対し、お茶大SCCは教育寮であり様々な学生支援プログラムが実施されている特徴がある。また、学部1, 2年生が2年間の寮生活を通しての成長が期待された設計のため、途中入寮ができず入寮のタイミングが大学入学時のみというのも他2寮と制度として異なる点である。

お茶の水女子大学では、令和4年にキャンパス内に新学生宿舎を整備・運営する事業が着手しており、益々、各寮の違いを明確にした情報公開の必要性がある。入学前の学生にも、自分に合った学生生活を送れる場として学生寮を捉え、選択できるよう、各寮の特徴や具体的な情報を広く公開していく必要がある。

(3) 学生・キャリア支援における課題

平成31年度新入生調査および保護者調査を通じて得られた、本学における学生・キャリア支援の課題は次の3点である。

① 学生の多様な進路希望を踏まえたキャリア支援の検討と実践

平成31年度の新入生においても、これまでと同様に約9割が第一志望として本学に入学し、高い学習意欲をもっている。また、進路の希望は、民間企業、大学院への進学、公務員、教員など多様で、学部による特徴も見られる。よって、本学のキャリア支援についても、教職員は、このような学生のニーズを十分に認識した上で、進路相談や就職（キャリア）支援の利用を促すような活動が求められる。すでにキャリア支援として、入学直後からの低学年向けのキャリアガイダンスを開催したり、理系、公務員、教員に特化した支援行事を開催したりしている。また、自己分析や面接対応を目的としたワークショップも開催し、きめ細やかな支援活動を実践している。今後も学生との対話を通してニーズを見極め、支援内容をブラッシュアップしながら、キャリア支援の質的向上に努力する必要がある。

同時に、キャリア教育面においても、平成26年度に開始したキャリアデザインプログラムにおいて、自らのキャリアの道筋を考えながら、キャリア形成に必要な実践的知識、就業経験、リーダーシップなどについて学ぶ機会を提供している。各学部で学ぶ専門的知識とともに、職業上のキャリアと人生のプランニングに関する教育を実践することが継続的な課題である。

さらに、本学の多くの保護者の方々は、大学に対する進路相談や就職支援への期待を寄せ、また学生のキャリア形成への関与が高い。昨今、日本型雇用慣行が徐々に変化する兆しを見せ、キャリア形成や就職活動にも変化が生じてくる可能性がある。大学としては、学生や保護者の方々の不安を低減し、期待・要請にこたえるような教育および情報の提供が求められる。

② 学生の個々の状況に応じた生活支援

本学は、全国平均に比べて保護者の世帯年収は高く仕送り額も多い傾向があり、全体としては、学生が経済生活を心配することなく学業に専念できる環境にある。しかし、入学した後の家庭の暮らし向きで「ゆとりがない」と答える保護者は約6割で、特に、自宅外から通学する学生の保護者は暮らし向きのゆとりがないと回答する割合が高い。また、平成31年度の自宅外通学者は42.5%で、自宅外通学で仕送り額がないと答えるものも1割近く存在し、仕送り額の少ない学生では、入学後の「生活・経済」に関する不安・心配が高くなっている。

大学としては、このような学生の個別事情を認識し、日本学生支援機構や本学独自の奨学金をはじめとし、その他の経済的支援を学生および保護者に十分に広報することが重要である。また、学生からの相談を教職員がきめ細かく学生支援部門につなぎ、すべての学生が学業に専念できるような経済的支援を充実させることが重要である。

③ 大学院博士課程への進学を希望する学生へのキャリア支援

本学の特徴として、理学部を中心に大学院進学を希望する新入生の割合は高く、さらに博士後期課程の進学を視野に入れる学生も一定割合存在する。このような学生に対しては、学部卒業者とは異なるキャリア教育や支援が必要である。すでに、大学院のキャリア副専攻によって、修士課程修了後に高い専門性を生かしたキャリア形成ができるような教育を行っているが、これに加えて、学部3年次を目途に、研究や学びと並行して大学院進学後のキャリアプランを考える機会を提供するようなキャリア支援を行う必要があると考える。

新入生生活調査

<入学予定者用>

(一般入試合格者および私費外国人留学生)

お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、お茶の水女子大学に合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、みなさんのご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

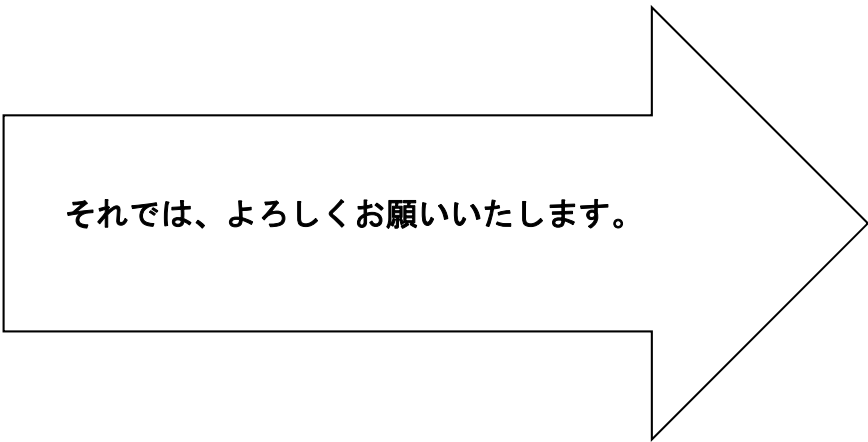
お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入して下さい。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入下さい。
- 質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- 「⑨⑩=01」とか⑩などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- 表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、あなたや保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類と同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**



それでは、よろしく願いいたします。

I. まず、あなた自身およびご家族のことについて、お聞きします。

(1) 入学予定の学部学科に○をつけてください。

⑩=1

・文教育学部

1. 人文科学科 2. 言語文化学科 3. 人間社会科学科 4. 芸術・表現行動学科

・理学部

5. 数学科 6. 物理学科 7. 化学科 8. 生物学科 9. 情報科学科

⑪

⑫

・生活科学部

10. 食物栄養学科 11. 人間・環境科学科 12. 人間生活学科 13. 心理学科

(2) 出身高校について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

A. 高校（設置者）は → 1. 公立 2. 私立 3. 国立 4. 海外 5. 高等学校卒業程度認定試験



⑬

B. 種類は → 1. 3年制 2. 中高一貫校 (3)へ

⑭

C. 学科は → 1. 普通科（理数科も含む） 2. 総合学科

⑮

3. 専門学科（商業・工業、家庭、農業科など） 4. その他

()

(3) 出身高校の所在地の都道府県をご記入ください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、受験時に住んでいた都道府県をご記入ください。

1. 都道府県（県名） 2. 海外

⑯

(4) あなたのご家族の構成について、同居を問わず、あてはまる方すべてに○をつけてください。

1. 父親 3. 兄 5. 弟 7. 祖父 9. 夫 11. 娘 ⑰

2. 母親 4. 姉 6. 妹 8. 祖母 10. 息子 12. その他 () ⑱

(5) あなたを含む兄弟姉妹の人数をご記入ください。同居を問わずお答えください。

人

⑳㉑

Ⅲ. 大学入学後の学生生活について、お聞きします。

(1) 大学入学後に居住予定の都道府県**1つ**に○をつけてください。

- | | |
|--------|--------------|
| 1. 東京都 | 4. 神奈川県 |
| 2. 埼玉県 | 5. その他の県 () |
| 3. 千葉県 | |
- ③⑦

* (2) 大学入学後に予定している住居**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 実家 | 4. 大学の寮 (お茶大 SCC) |
| 2. 実家以外の賃貸アパートやマンション | 5. 大学以外の寮 |
| 3. 大学の寮 (国際学生宿舎) | 6. その他 () |
- ③⑧

(3) 【(2) で「賃貸アパートやマンション」に○をつけた方にお伺いします】

1か月の家賃 (管理費込み) の予算をご記入ください。千円未満は四捨五入してください。

万 千円 ③⑨~④①

(4) 【(2) で「2~6 (実家以外)」に○をつけた方にお伺いします】

1か月あたりの仕送り予定額 (授業料を含まない) についてご記入ください。万円未満は四捨五入してください。

万円 0 仕送りはない ④②④③

【全員の方に】

⑩=2

(5) 大学に入学後、頑張ろうと思う活動として、あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 大学の授業 | 4. 授業以外での勉強 | 7. ボランティア活動 |
| 2. クラブ・サークル活動 | 5. 友達との交流 | 8. 留学 |
| 3. アルバイト活動 | 6. 趣味 | 9. その他 () |
| | | 10. 特にない |
- ⑪

(6) 【(5) で「アルバイト活動」に○をつけた方にお伺いします】

アルバイト活動をどの程度する予定ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 長期休暇期間 (夏、冬、春休み) のみ | 5. 学期中に不定期的に、長期休暇期間にも |
| 2. 学期中、不定期 | 6. その他 () |
| | |
| 3. 学期中、定期的に | 7. 未定 |
| 4. 学期中に定期的に、長期休暇期間にも | |
- ⑫

【全員の方に】

(7) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
 2. 一部をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
 3. ほぼ全額をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
- ⑬

* (8) これまでに受けたことのある奨学金・学費免除などの制度がございましたら、その**すべて**について、該当の番号に○をして、具体的な名称および給付型・貸与型についてご記入ください。

	具体的な名称	給付・貸与	
1. 日本学生支援機構の奨学金		1. 給与 2. 貸与	⑭ ⑮⑯
2. 地方公共団体の奨学金		1. 給与 2. 貸与	⑰⑱
3. 学校独自の奨学金		1. 給与 2. 貸与	⑲⑳
4. 民間奨学団体の奨学金		1. 給与 2. 貸与	㉑㉒
5. 新聞社の奨学金		1. 給与 2. 貸与	㉓㉔
6. その他の奨学金		1. 給与 2. 貸与	㉕㉖
7. 学費免除		1. 給与 2. 貸与	㉗㉘
8. 特待生		1. 給与 2. 貸与	㉙㉚

(9) 以下の奨学金などの制度について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|----------------|---|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 | |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 | |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 | ⑳ |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 | ㉑ |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 | |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない | |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | | |

(10) 本学の学生寮について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|---|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 知らない | ㉒ |
|-----------|------------|-----------------|---------|---|

(11) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|---|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 特にない | ㉓ |
|-----------|------------|-----------------|---------|---|

(12) 大学生活が始まって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|---|
| 1. 授業や単位 | 5. 健康面 | |
| 2. 就職や将来 | 6. 日常生活全般 | ㉔ |
| 3. 人間関係 | 7. その他（ | ） |
| 4. 生活・経済面 | 8. 特にない | |

(13) 今の気持ち（不安・心配事）について、以下の項目はどの程度あてはまると思いますか。
あてはまる番号にそれぞれ**1つ**○をつけてください。

	あてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
・友達ができるか	1	2	3	4
・大学になじめるか	1	2	3	4
・金銭面で負担がかからないか	1	2	3	4
・授業についていけるか	1	2	3	4
・進級や卒業ができるか	1	2	3	4
・将来の目標が見つかるか	1	2	3	4
・卒業後ちゃんと就職できるか	1	2	3	4

③7

③8

③9

④0

④1

④2

④3

(14) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|---------|------------|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () |
| | | 10. 特にない |

④4

IV. 将来の進路について、お聞きします。

* (1) 大学卒業後の進路について、どのような希望をもっていますか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 民間企業に就職する | 5. 大学院などに進学する (海外含む) |
| 2. 公務員になる | 6. その他 () |
| | ④5 |
| 3. 教師などの専門職につく | 7. 決めていない |
| 4. 自営など、1から3以外の形で就職する | |

(2) 大学卒業後のキャリアについて、どのように考えていますか。あてはまる番号にそれぞれ**1つ**○をつけてください。

	そう思う	ある程度思う	そう思わない
・すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる	1	2	3
・すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない	1	2	3
・すぐに大学院などに進学する	1	2	3
・就職してから大学院への進学を考える	1	2	3
・資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない	1	2	3
・卒業後すぐには就職しなくてもよい	1	2	3
・最初の就職先にできるだけ長く勤める	1	2	3
・何年かして転職や独立をする	1	2	3
・結婚・出産後も仕事を続ける	1	2	3

④6

④7

④8

④9

⑤0

⑤1

⑤2

⑤3

⑤4

(3) あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに関して、どれくらい関与しますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

父親は → 1. まったく関与しない 4. まあまあ関与する
 2. あまり関与しない 5. 非常に関与する
 3. どちらとも言えない 6. 父親はいない

⑤5

母親は → 1. まったく関与しない 4. まあまあ関与する
 2. あまり関与しない 5. 非常に関与する
 3. どちらとも言えない 6. 母親はいない

⑤6

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

⑤7

・皆さん個人に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

⑤8

・お茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。()

⑤9～⑥5

**ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、
 他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。**

新入生生活調査

＜入学予定者の保護者用＞

(一般入試合格者)

ご子女が、お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、ご子女のお茶の水女子大学合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、ご子女のご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に*がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入してください。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入ください。
- 質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方だけにだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- 「⑨⑩=01」とか⑩などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- 表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- アンケートは、大学で付けたID番号で管理をしております。**アンケート用紙には、ご子女や保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類と同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしくお願いいたします。

【全員の方に】

(7) ご子女が大学に入学した後のご家庭の暮らし向きについて、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ゆとりがない 2. あまりゆとりがない 3. 多少ゆとりがある 4. ゆとりがある ⑱

* (8) ご家庭の世帯年収（学校に在学する者を除く同一世帯全員の年収。税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満 ⑳
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

* (9) 家計を主に支えている方の年収（税込）について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 400万円未満 4. 800万円以上1000万円未満 7. 1400万円以上1600万円未満
2. 400万円以上600万円未満 5. 1000万円以上1200万円未満 8. 1600万円以上1800万円未満 ㉑
3. 600万円以上800万円未満 6. 1200万円以上1400万円未満 9. 1800万円以上

(10) 本学に入学予定のご子女への、1か月あたりの仕送り予定額（授業料を含まない）についてご記入ください。

万円未満は四捨五入してください。

万円

0 仕送りはしない

㉒㉓

(11) 授業料の負担予定について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む） ㉔
3. ほぼ全額をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

(12) 以下の奨学金などの制度について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|----------------|----|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 | |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 | |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 | ④② |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 | ④③ |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 | |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない | |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | | |

(13) 以下の奨学金などの制度について、希望されるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|---------------|----|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 | |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 | |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 | ④④ |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 | ④⑤ |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 | |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 希望するものはない | |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | | |

(14) 以下の本学の学生寮について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 知らない | ④⑥ |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|

(15) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 特にない | ④⑦ |
|-----------|------------|-----------------|---------|----|

(16) 受験から入学までに困ったこと・悩んだこと**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-----------------------|--|----|
| 1. 子どもの体調や精神面のこと | | |
| 2. 受験・入学のための費用準備 | | |
| 3. 受験・入学手続きのスケジュールの管理 | | |
| 4. 入学後の住まい探し | | ④⑧ |
| 5. その他（ | | ） |

(17) ご子女の大学生活が始まって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|----|
| 1. 授業や単位 | 5. 健康面 | |
| 2. 就職や将来 | 6. 日常生活全般 | ④⑨ |
| 3. 人間関係 | 7. その他（ | ） |
| 4. 生活・経済面 | 8. 特にない | |

(18) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|---------|------------|----|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 | |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 | ⑤⑩ |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () | |
| | | 10. 特になし | |

(19) ご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

父親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院 ⑤①

母親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院 ⑤②

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ ⑤③

・皆様のご子女に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ ⑤④

・ご子女がお茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。

() ⑤⑥～⑥②

・ご回答者とご子女との関係について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. その他 (続き柄は:) ⑥③

ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)1/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
I.(1)			387	178	104	104	1
		学部		46.0%	26.9%	26.9%	0.3%
I.(2)	出身高校設置者	総数	387	178	104	104	1
		公立	55.8%	56.2%	44.2%	67.3%	0.0%
		私立	38.0%	35.4%	51.9%	28.8%	0.0%
		国立	4.9%	6.2%	3.8%	3.8%	0.0%
		海外	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		高等学校卒業程度認定試験	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.0%	100.0%
I.(2)	出身高校・種類	該当者	382	174	104	104	0
		3年制	57.6%	56.9%	52.9%	63.5%	0.0%
		中高一貫	40.1%	39.7%	45.2%	35.6%	0.0%
		無回答	2.4%	3.4%	1.9%	1.0%	0.0%
I.(2)	出身高校・学科	該当者	382	174	104	104	0
		普通科(理数科も含む)	94.5%	93.1%	96.2%	95.2%	0.0%
		総合学科	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		専門学科(商業・工業・家庭・農業科など)	0.8%	0.6%	1.0%	1.0%	0.0%
		その他	2.4%	2.3%	1.0%	3.8%	0.0%
		無回答	1.8%	2.9%	1.9%	0.0%	0.0%
I.(3)	出身都道府県	総数	387	178	104	104	1
		国内	97.9%	97.8%	98.1%	99.0%	0.0%
		海外	1.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	1.0%	0.0%	1.9%	1.0%	100.0%
I.(4)	家族構成	総数	387	178	104	104	1
		父親	95.3%	95.5%	92.3%	99.0%	0.0%
		母親	99.2%	98.9%	100.0%	100.0%	0.0%
		兄	19.1%	18.5%	16.3%	23.1%	0.0%
		姉	23.3%	21.3%	26.0%	24.0%	0.0%
		弟	29.7%	28.7%	30.8%	30.8%	0.0%
		妹	28.2%	30.3%	25.0%	27.9%	0.0%
		祖父	36.4%	41.0%	31.7%	33.7%	0.0%
		祖母	47.0%	51.7%	42.3%	44.2%	0.0%
		夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		息子	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		娘	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他	1.3%	1.7%	0.0%	1.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
I.(5)	兄弟姉妹人数	該当者	321	145	84	92	0
		2人	72.6%	71.0%	69.0%	78.3%	0.0%
		3人	23.4%	24.1%	25.0%	20.7%	0.0%
		4人以上	4.0%	4.8%	6.0%	1.1%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)-a	小学校の設置者	総数	387	178	104	104	1
		国立	4.4%	5.6%	1.9%	4.8%	0.0%
		公立	89.4%	88.8%	89.4%	91.3%	0.0%
		私立	4.9%	3.9%	7.7%	3.8%	0.0%
		海外	1.3%	1.7%	1.0%	0.0%	100.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)-b	中学校の設置者	総数	387	178	104	104	1
		国立	8.3%	9.6%	5.8%	8.7%	0.0%
		公立	61.8%	64.0%	53.8%	66.3%	0.0%
		私立	28.4%	24.7%	39.4%	24.0%	0.0%
		海外	1.6%	1.7%	1.0%	1.0%	100.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-a	小学校受験の有無	総数	387	178	104	104	1
		受験をした	8.5%	7.3%	9.6%	9.6%	0.0%
		受験をしていない	91.0%	91.6%	90.4%	90.4%	100.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-b	中学校受験の有無	総数	387	178	104	104	1
		受験をした	45.2%	46.1%	49.0%	40.4%	0.0%
		受験をしていない	54.5%	53.4%	51.0%	59.6%	100.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-c	高校受験の有無	総数	387	178	104	104	1
		受験をした	64.6%	63.5%	64.4%	67.3%	0.0%
		受験をしていない	35.4%	36.5%	35.6%	32.7%	100.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)2/6

		総数	学部				
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
Ⅱ.(3)	受験決定時期	総数	387	178	104	104	1
		高校入学以前	3.6%	3.9%	2.9%	3.8%	0.0%
		高校1年	12.7%	15.2%	2.9%	18.3%	0.0%
		高校2年	25.1%	29.8%	15.4%	26.0%	100.0%
		高校3年4～8月	24.5%	24.2%	23.1%	26.9%	0.0%
		高校3年9・10月	5.9%	5.6%	7.7%	4.8%	0.0%
		高校3年11・12月	7.8%	5.6%	12.5%	6.7%	0.0%
		高校3年1・2月	10.6%	10.7%	15.4%	5.8%	0.0%
		高校卒業以降	9.6%	5.1%	20.2%	6.7%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	
Ⅱ.(4)	第一志望	総数	387	178	104	104	1
		はい	84.5%	89.9%	70.2%	90.4%	0.0%
		いいえ	15.5%	10.1%	29.8%	9.6%	100.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅱ.(5)	高校卒業から大学入学までの間に経験したこと	総数	387	178	104	104	1
		高卒後、他の高等教育機関に入学した	1.8%	1.1%	2.9%	1.9%	0.0%
		高卒後、フルタイムで働いた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		高卒後、浪人した	15.5%	9.0%	25.0%	17.3%	0.0%
		高卒後、海外留学をした	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		この中にはない	73.1%	78.7%	63.5%	73.1%	100.0%
		無回答	10.3%	11.8%	9.6%	8.7%	0.0%
Ⅲ.(1)	居住予定の都道府県	総数	387	178	104	104	1
		東京都	65.9%	69.1%	62.5%	63.5%	100.0%
		埼玉県	11.6%	12.9%	10.6%	10.6%	0.0%
		千葉県	5.9%	3.9%	8.7%	6.7%	0.0%
		神奈川県	13.2%	10.1%	16.3%	15.4%	0.0%
		その他の県	3.1%	3.9%	1.9%	2.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
Ⅲ.(2)	居住予定の住居	総数	387	178	104	104	1
		実家	60.2%	59.6%	65.4%	56.7%	0.0%
		実家以外の賃貸アパートやマンション	29.2%	28.1%	26.9%	32.7%	100.0%
		大学の寮(国際学生宿舎)	16.3%	16.3%	13.5%	19.2%	0.0%
		大学の寮(お茶大SCC)	11.1%	11.2%	8.7%	13.5%	0.0%
		大学以外の寮	3.9%	3.9%	4.8%	2.9%	0.0%
		その他	2.1%	2.8%	1.0%	1.9%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(3)	家賃	該当者	113	50	28	34	1
		5万円未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		5～7万円台	53.1%	50.0%	50.0%	58.8%	100.0%
		8～9万円台	31.9%	30.0%	42.9%	26.5%	0.0%
		10～12万円台	9.7%	14.0%	3.6%	8.8%	0.0%
		13～14万円台	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		15万円以上	1.8%	2.0%	0.0%	2.9%	0.0%
		無回答	3.5%	4.0%	3.6%	2.9%	0.0%
Ⅲ.(4)	仕送り額	該当者	165	80	38	46	1
		仕送りはない	3.6%	5.0%	5.3%	0.0%	0.0%
		5万円未満	7.9%	7.5%	5.3%	10.9%	0.0%
		5～7万円台	32.7%	26.3%	31.6%	43.5%	100.0%
		8～9万円台	6.1%	2.5%	7.9%	10.9%	0.0%
		10～12万円台	24.2%	26.3%	21.1%	23.9%	0.0%
		13～14万円台	3.0%	2.5%	7.9%	0.0%	0.0%
		15万円以上	10.9%	11.3%	15.8%	6.5%	0.0%
	無回答	11.5%	18.8%	5.3%	4.3%	0.0%	
Ⅲ.(5)	入学後の活動	総数	387	178	104	104	1
		大学の授業	99.2%	98.9%	99.0%	100.0%	100.0%
		クラブ・サークル活動	73.6%	72.5%	70.2%	78.8%	100.0%
		アルバイト活動	69.0%	70.2%	60.6%	75.0%	100.0%
		授業以外での勉強	59.9%	70.2%	48.1%	54.8%	0.0%
		友達との交流	69.0%	68.5%	62.5%	76.0%	100.0%
		趣味	53.5%	55.6%	47.1%	55.8%	100.0%
		ボランティア活動	27.6%	31.5%	16.3%	32.7%	0.0%
		留学	35.4%	39.3%	26.0%	38.5%	0.0%
		その他	0.8%	1.1%	1.0%	0.0%	0.0%
		特にない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)3/6

			学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(6)	アルバイト活動予定	該当者	267	125	63	78	1
		長期休暇期間(夏、冬、春休み)のみ	3.4%	4.0%	0.0%	5.1%	0.0%
		学期中、不定期	1.9%	3.2%	0.0%	1.3%	0.0%
		学期中、定期的に	14.2%	16.0%	15.9%	10.3%	0.0%
		学期中に定期的に、長期休暇期間にも	50.9%	48.0%	49.2%	56.4%	100.0%
		学期中に不定期に、長期休暇期間にも	10.5%	11.2%	11.1%	9.0%	0.0%
		その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		未定	19.1%	17.6%	23.8%	17.9%	0.0%
Ⅲ.(8)	授業料の負担予定	総数	387	178	104	104	1
		ほぼ全額を保護者が負担予定	87.3%	86.0%	88.5%	88.5%	100.0%
		一部をあなたが負担予定	10.6%	11.2%	10.6%	9.6%	0.0%
		ほぼ全額をあなたが負担予定	1.3%	2.2%	0.0%	1.0%	0.0%
		無回答	0.8%	0.6%	1.0%	1.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	受けたことのある奨学金	総数	387	178	104	104	1
		日本学生支援機構の奨学金	1.8%	2.8%	1.0%	1.0%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		学校独自の奨学金	2.1%	2.2%	1.9%	1.9%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	1.0%	1.7%	0.0%	1.0%	0.0%
		新聞社の奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他の奨学金	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%
		学費免除	1.6%	1.7%	1.9%	1.0%	0.0%
		特待生	5.4%	6.2%	6.7%	2.9%	0.0%
		無回答	88.4%	86.5%	87.5%	92.3%	100.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	7	5	1	1	0
		記入あり	57.1%	60.0%	100.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-2 地方公共団体の奨学金	記入なし	42.9%	40.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		該当者	1	1	0	0	0
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-3 学校独自の奨学金	記入あり	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-4 民間奨学団体の奨学金	該当者	8	4	2	2	0
		記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-5 新聞社の奨学金	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	4	3	0	1	0
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-6 その他の奨学金	記入あり	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-7 学費免除	該当者	0	0	0	0	0
		記入あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-8 特待生	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	2	1	1	0	0
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-9 学費免除	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-10 奨学金/給与・貸与-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	6	3	2	1	0
		記入あり	66.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-11 奨学金/給与・貸与-2 地方公共団体の奨学金	該当者	21	11	7	3	0
		記入あり	90.5%	90.9%	85.7%	100.0%	0.0%
		記入なし	9.5%	9.1%	14.3%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-12 奨学金/給与・貸与-3 学校独自の奨学金	該当者	7	5	1	1	0
		給与	28.6%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	71.4%	60.0%	100.0%	100.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-13 奨学金/給与・貸与-4 民間奨学団体の奨学金	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	1	1	0	0	0
		給与	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-14 奨学金/給与・貸与-5 新聞社の奨学金	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	8	4	2	2	0
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-15 奨学金/給与・貸与-6 その他の奨学金	給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-16 奨学金/給与・貸与-7 その他の奨学金	該当者	4	3	0	1	0
		給与	75.0%	66.7%	0.0%	100.0%	0.0%
		貸与	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-17 奨学金/給与・貸与-8 その他の奨学金	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	0	0	0	0	0
		給与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-18 奨学金/給与・貸与-9 その他の奨学金	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	2	1	1	0	0
Ⅲ.(9)	奨学金の具体的名称-19 奨学金/給与・貸与-10 その他の奨学金	給与	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)4/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-7 学費免除	該当者	6	3	2	1	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(9)	奨学金／給与・貸与-8 特待生	該当者	21	11	7	3	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(10)	奨学金の認知	総数	387	178	104	104	1
		日本学生支援機構(第一種奨学金)	33.9%	37.1%	29.8%	32.7%	0.0%
		日本学生支援機構(第二種奨学金)	31.5%	33.7%	26.9%	32.7%	0.0%
		日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	6.7%	8.4%	5.8%	4.8%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	13.4%	16.3%	9.6%	12.5%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	13.4%	14.6%	10.6%	14.4%	0.0%
		みがかずば奨学金	46.3%	55.6%	30.8%	46.2%	0.0%
		桜蔭会奨学金(3年生向け)	9.8%	10.1%	9.6%	9.6%	0.0%
		育児支援奨学金	2.8%	2.8%	2.9%	2.9%	0.0%
		入学料免除制度	16.5%	18.0%	16.3%	14.4%	0.0%
		入学料徴収猶予制度	10.9%	12.4%	8.7%	10.6%	0.0%
		授業料免除制度	20.7%	23.0%	19.2%	18.3%	0.0%
		授業料徴収猶予制度	10.3%	11.8%	7.7%	10.6%	0.0%
		知っているものはない	31.8%	23.6%	43.3%	33.7%	100.0%
	無回答	2.3%	2.2%	1.0%	3.8%	0.0%	
Ⅲ.(11)	知っている学生寮	総数	387	178	104	104	1
		国際学生寮	45.0%	48.3%	33.7%	51.0%	0.0%
		お茶大SCC	60.5%	66.3%	41.3%	70.2%	0.0%
		小石川寮(大学院生向け)	24.8%	32.0%	15.4%	22.1%	0.0%
		知らない	36.7%	30.9%	54.8%	27.9%	100.0%
		無回答	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(11)	希望する学生寮	総数	387	178	104	104	1
		国際学生寮	18.6%	19.1%	15.4%	21.2%	0.0%
		お茶大SCC	12.9%	12.9%	9.6%	16.3%	0.0%
		小石川寮(大学院生向け)	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		知らない	76.5%	76.4%	81.7%	71.2%	100.0%
		無回答	1.6%	1.7%	1.9%	1.0%	0.0%
Ⅲ.(12)	心配なこと	総数	387	178	104	104	1
		授業や単位	66.4%	64.6%	65.4%	70.2%	100.0%
		就職や将来	55.8%	60.1%	48.1%	55.8%	100.0%
		人間関係	49.9%	47.2%	48.1%	55.8%	100.0%
		生活・経済面	34.1%	34.8%	34.6%	31.7%	100.0%
		健康面	14.5%	13.5%	17.3%	12.5%	100.0%
		日常生活全般	22.2%	22.5%	17.3%	26.0%	100.0%
		その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		特になし	11.6%	12.4%	14.4%	7.7%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-1 充実したキャンパスライフを送れるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	27.9%	28.1%	23.1%	32.7%	0.0%
		ある程度あてはまる	41.6%	39.3%	47.1%	40.4%	0.0%
		あまりあてはまらない	20.9%	23.6%	21.2%	15.4%	100.0%
		あてはまらない	9.6%	9.0%	8.7%	11.5%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	69.5%	67.4%	70.2%	73.1%	0.0%
あてはまらない(計)	30.5%	32.6%	29.8%	26.9%	100.0%		
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-2 友達ができるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	24.5%	25.3%	20.2%	27.9%	0.0%
		ある程度あてはまる	38.8%	37.1%	45.2%	34.6%	100.0%
		あまりあてはまらない	26.9%	27.0%	26.0%	27.9%	0.0%
		あてはまらない	9.8%	10.7%	8.7%	9.6%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	63.3%	62.4%	65.4%	62.5%	100.0%
あてはまらない(計)	36.7%	37.6%	34.6%	37.5%	0.0%		
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-4 金銭面で負担がかからないか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	20.2%	24.2%	13.5%	20.2%	0.0%
		ある程度あてはまる	37.5%	37.6%	42.3%	31.7%	100.0%
		あまりあてはまらない	29.7%	25.3%	28.8%	38.5%	0.0%
		あてはまらない	12.4%	12.4%	15.4%	9.6%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	57.6%	61.8%	55.8%	51.9%	100.0%
あてはまらない(計)	42.1%	37.6%	44.2%	48.1%	0.0%		

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)5/6

		総数	学部				
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-5 授業についていけるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	32.0%	35.4%	28.8%	29.8%	0.0%
		ある程度あてはまる	43.7%	41.6%	45.2%	45.2%	100.0%
		あまりあてはまらない	20.4%	19.7%	20.2%	22.1%	0.0%
		あてはまらない	3.9%	3.4%	5.8%	2.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	75.7%	77.0%	74.0%	75.0%	100.0%
	あてはまらない(計)	24.3%	23.0%	26.0%	25.0%	0.0%	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-6 進級や卒業ができるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	19.1%	22.5%	16.3%	16.3%	0.0%
		ある程度あてはまる	30.2%	25.8%	33.7%	33.7%	100.0%
		あまりあてはまらない	39.8%	39.3%	39.4%	41.3%	0.0%
		あてはまらない	10.9%	12.4%	10.6%	8.7%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	49.4%	48.3%	50.0%	50.0%	100.0%
	あてはまらない(計)	50.6%	51.7%	50.0%	50.0%	0.0%	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-7 将来の目標が見つかるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	22.7%	24.7%	19.2%	23.1%	0.0%
		ある程度あてはまる	29.7%	29.2%	32.7%	26.9%	100.0%
		あまりあてはまらない	32.0%	30.3%	35.6%	31.7%	0.0%
		あてはまらない	15.5%	15.7%	12.5%	18.3%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	52.5%	53.9%	51.9%	50.0%	100.0%
	あてはまらない(計)	47.5%	46.1%	48.1%	50.0%	0.0%	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-8 卒業後ちゃんと就職できるか	総数	387	178	104	104	1
		あてはまる	30.5%	37.1%	27.9%	21.2%	100.0%
		ある程度あてはまる	37.5%	36.0%	34.6%	43.3%	0.0%
		あまりあてはまらない	22.7%	16.9%	28.8%	26.9%	0.0%
		あてはまらない	9.3%	10.1%	8.7%	8.7%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	68.0%	73.0%	62.5%	64.4%	100.0%
	あてはまらない(計)	32.0%	27.0%	37.5%	35.6%	0.0%	
Ⅲ.(14)	期待する学生支援活動	総数	387	178	104	104	1
		経済的支援	23.3%	28.1%	12.5%	25.0%	100.0%
		生活相談	18.6%	18.5%	16.3%	20.2%	100.0%
		健康相談	11.6%	10.7%	10.6%	13.5%	100.0%
		心理相談	16.5%	18.0%	13.5%	16.3%	100.0%
		学習支援	63.3%	68.5%	56.7%	60.6%	100.0%
		進路相談	64.3%	65.7%	60.6%	65.4%	100.0%
		就職支援	77.3%	79.2%	65.4%	85.6%	100.0%
		課外活動支援	34.9%	38.2%	22.1%	41.3%	100.0%
		その他	0.5%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
		特にない	3.6%	2.2%	6.7%	2.9%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅳ.(1)	大学卒業後の進路	総数	387	178	104	104	1
		民間企業に就職する	53.5%	56.7%	30.8%	70.2%	100.0%
		公務員になる	31.0%	39.3%	13.5%	33.7%	100.0%
		教師などの専門職につく	20.9%	29.2%	20.2%	7.7%	0.0%
		自営など、1から3以外の形で就職する	3.4%	3.4%	1.9%	4.8%	0.0%
		大学院などに進学する(海外含む)	43.9%	30.3%	66.3%	44.2%	100.0%
		その他	2.1%	2.8%	1.0%	1.9%	0.0%
		決めていない	16.5%	18.5%	16.3%	13.5%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-1 すぐに就職して最初から正社員・ 正規の職員になる	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	41.3%	51.1%	20.2%	45.2%	100.0%
		ある程度思う	40.3%	39.9%	36.5%	45.2%	0.0%
		そう思わない	17.6%	8.4%	42.3%	8.7%	0.0%
	無回答	0.8%	0.6%	1.0%	1.0%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-2 すぐに就職するが、正社員・正規 の職員にこだわらない	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	2.6%	3.4%	0.0%	3.8%	0.0%
		ある程度思う	20.9%	28.1%	10.6%	18.3%	100.0%
		そう思わない	74.9%	66.3%	88.5%	76.9%	0.0%
	無回答	1.6%	2.2%	1.0%	1.0%	0.0%	
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-3 すぐに大学院などに進学する	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	24.0%	9.6%	55.8%	16.3%	100.0%
		ある程度思う	39.3%	39.3%	30.8%	48.1%	0.0%
		そう思わない	35.7%	49.4%	12.5%	35.6%	0.0%
	無回答	1.0%	1.7%	1.0%	0.0%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)6/6

		総数	学部				
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-4 就職してから大学院への進学を考 える	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	1.3%	1.1%	1.0%	1.9%	0.0%
		ある程度思う	17.3%	19.7%	17.3%	13.5%	0.0%
		そう思わない	80.1%	77.5%	80.8%	83.7%	100.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	0.0%	
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-5 資格試験・公務員試験などに合格 するまで就職しない	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	2.1%	1.7%	2.9%	1.9%	0.0%
		ある程度思う	19.1%	17.4%	19.2%	21.2%	100.0%
		そう思わない	77.3%	79.2%	76.9%	75.0%	0.0%
		無回答	1.6%	1.7%	1.0%	0.0%	
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-6 卒業後すぐには就職 しなくてもよい	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	7.0%	4.5%	14.4%	3.8%	0.0%
		ある程度思う	26.9%	25.8%	32.7%	23.1%	0.0%
		そう思わない	64.9%	68.0%	51.9%	72.1%	100.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	0.0%	
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-7 最初の就職先にできるだけ 長く勤める	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	31.5%	30.9%	33.7%	29.8%	100.0%
		ある程度思う	47.8%	46.6%	44.2%	53.8%	0.0%
		そう思わない	19.4%	20.8%	21.2%	15.4%	0.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	0.0%	
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-8 何年かして転職や独立をする	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	3.9%	5.6%	1.0%	3.8%	0.0%
		ある程度思う	37.0%	38.8%	28.8%	41.3%	100.0%
		そう思わない	57.9%	53.9%	69.2%	53.8%	0.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	0.0%	
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-9 結婚・出産後も仕事を続ける	総数	387	178	104	104	1
		そう思う	58.9%	60.1%	63.5%	51.9%	100.0%
		ある程度思う	35.7%	34.3%	26.9%	47.1%	0.0%
		そう思わない	4.1%	3.9%	8.7%	0.0%	0.0%
		無回答	1.3%	1.7%	1.0%	0.0%	
IV.(3)	就職や将来への親の関与-a 父親	総数	387	178	104	104	1
		まったく関与しない	5.7%	6.2%	6.7%	3.8%	0.0%
		あまり関与しない	27.4%	31.5%	26.9%	21.2%	0.0%
		どちらとも言えない	13.2%	11.8%	13.5%	15.4%	0.0%
		まあまあ関与する	43.7%	41.0%	39.4%	51.9%	100.0%
		非常に関与する	7.0%	7.3%	6.7%	6.7%	0.0%
		父親はいない	2.6%	1.7%	5.8%	1.0%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	
IV.(3)	就職や将来への親の関与-b 母親	総数	387	178	104	104	1
		まったく関与しない	2.3%	2.8%	1.9%	1.9%	0.0%
		あまり関与しない	21.4%	24.2%	18.3%	19.2%	100.0%
		どちらとも言えない	12.7%	10.1%	15.4%	14.4%	0.0%
		まあまあ関与する	49.1%	50.0%	46.2%	51.0%	0.0%
		非常に関与する	13.7%	11.8%	17.3%	13.5%	0.0%
		母親はいない	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	
		無回答	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	
[データ活用の許可]		総数	387	178	104	104	1
		はい	99.7%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%
		いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	
[個人情報登録の許可]		総数	387	178	104	104	1
		はい	97.2%	96.6%	97.1%	98.1%	100.0%
		いいえ	1.8%	2.2%	1.9%	1.0%	0.0%
		無回答	1.0%	1.1%	1.0%	1.0%	
[受験番号]		総数	387	178	104	104	1
		記入あり	99.7%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%
		記入なし	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	
[お茶大入試方法]		総数	387	178	104	104	1
		一般	75.7%	66.3%	84.6%	83.7%	0.0%
		推薦(帰国含む)・文教育学部	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		推薦(帰国含む)・理学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		推薦(帰国含む)・生活科学部	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		AO	5.4%	6.2%	4.8%	4.8%	0.0%
		高校	2.1%	2.8%	1.0%	1.9%	0.0%
		不明	15.8%	23.0%	9.6%	9.6%	

付表 5

新入生調査 基礎集計表 (保護者)1/3

		総数	学部			無回答
			文教育学部	理学部	生活科学部	
(1) 家計を支えている人	総数	383	176	101	104	1
	父親	93.7%	92.6%	93.1%	96.2%	100.0%
	母親	9.1%	10.2%	8.9%	7.7%	0.0%
	入学予定者本人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 家計を支えている人の職業	総数	383	176	101	104	1
	勤労者	89.6%	89.2%	90.1%	89.4%	100.0%
	個人営業	4.2%	3.4%	4.0%	5.8%	0.0%
	法人経営者、自由業者	3.9%	4.0%	3.0%	4.8%	0.0%
	農林水産業者	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	働いていない	1.3%	1.1%	3.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
(3) 父親の職業	総数	383	176	101	104	1
	フルタイム勤務	87.7%	88.1%	85.1%	89.4%	100.0%
	パートタイム勤務	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	自営	5.7%	4.5%	5.0%	8.7%	0.0%
	無職	2.3%	2.8%	3.0%	1.0%	0.0%
	いない	2.6%	2.3%	5.0%	1.0%	0.0%
	無回答	1.3%	1.7%	2.0%	0.0%	0.0%
(4) 父親の職種	該当者	336	155	86	93	1
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	16.4%	18.1%	16.3%	14.0%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	22.9%	18.7%	29.1%	23.7%	100.0%
	管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)	38.1%	34.2%	39.5%	43.0%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	11.9%	12.3%	10.5%	12.9%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	6.5%	12.3%	2.3%	1.1%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	0.3%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	1.5%	1.9%	0.0%	2.2%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.6%	0.0%	1.2%	1.1%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)	1.2%	1.9%	1.2%	0.0%	0.0%
	その他	0.6%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(5) 母親の職業	総数	383	176	101	104	1
	フルタイム勤務	24.0%	22.7%	28.7%	21.2%	0.0%
	パートタイム勤務	44.6%	47.2%	39.6%	46.2%	0.0%
	自営	5.0%	1.7%	8.9%	6.7%	0.0%
	無職	23.5%	25.0%	20.8%	23.1%	100.0%
	いない	1.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	1.8%	1.1%	2.0%	2.9%	0.0%	
(6) 母親の職種	該当者	92	40	29	22	0
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	51.1%	47.5%	48.3%	63.6%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)	6.5%	7.5%	3.4%	9.1%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	26.1%	30.0%	31.0%	9.1%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	3.3%	2.5%	3.4%	4.5%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	2.2%	2.5%	3.4%	0.0%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	4.3%	2.5%	3.4%	9.1%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	6.5%	7.5%	6.9%	4.5%	0.0%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(7) 入学後の暮らし向き	総数	383	176	101	104	1
	ゆとりがない	12.8%	17.0%	9.9%	7.7%	0.0%
	あまりゆとりがない	41.0%	42.6%	44.6%	34.6%	100.0%
	多少ゆとりがある	37.3%	31.8%	37.6%	47.1%	0.0%
	ゆとりがある	6.5%	5.7%	6.9%	7.7%	0.0%
無回答	2.3%	2.8%	1.0%	2.9%	0.0%	
(8) 世帯年収	総数	383	176	101	104	1
	400万円未満	5.5%	8.5%	3.0%	2.9%	0.0%
	400万円以上600万円未満	7.8%	8.5%	6.9%	6.7%	100.0%
	600万円以上800万円未満	13.6%	15.9%	11.9%	11.5%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	22.5%	21.0%	25.7%	22.1%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	21.4%	20.5%	21.8%	22.1%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	12.0%	11.4%	10.9%	14.4%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	7.8%	5.7%	8.9%	10.6%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	3.1%	2.8%	3.0%	3.8%	0.0%
	1800万円以上	3.9%	2.8%	5.9%	3.8%	0.0%
無回答	2.3%	2.8%	2.0%	1.9%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (保護者)2/3

		総数	学部			無回答	
			文教育学部	理学部	生活科学部		
(9) 家計を支えている人の年収	総数	383	176	101	104	1	
	400万円未満	8.4%	13.1%	3.0%	5.8%	0.0%	
	400万円以上600万円未満	11.7%	10.8%	13.9%	10.6%	100.0%	
	600万円以上800万円未満	20.4%	21.6%	16.8%	21.2%	0.0%	
	800万円以上1000万円未満	24.3%	23.3%	30.7%	20.2%	0.0%	
	1000万円以上1200万円未満	17.5%	17.0%	15.8%	20.2%	0.0%	
	1200万円以上1400万円未満	7.8%	6.8%	7.9%	9.6%	0.0%	
	1400万円以上1600万円未満	3.9%	2.8%	5.9%	3.8%	0.0%	
	1600万円以上1800万円未満	1.0%	0.6%	1.0%	1.9%	0.0%	
	1800万円以上	2.9%	2.3%	3.0%	3.8%	0.0%	
	無回答	2.1%	1.7%	2.0%	2.9%	0.0%	
(10) 仕送り額(万円)	総数	383	176	101	104	1	
	仕送りはしない	52.5%	48.9%	59.4%	52.9%	0.0%	
	5万円未満	5.0%	5.1%	4.0%	5.8%	0.0%	
	5～7万円台	13.6%	13.6%	12.9%	13.5%	100.0%	
	8～9万円台	3.1%	1.1%	3.0%	6.7%	0.0%	
	10～12万円台	11.2%	13.6%	7.9%	10.6%	0.0%	
	13～14万円台	2.6%	1.7%	3.0%	2.9%	0.0%	
	15万円台以上	6.3%	7.4%	5.9%	4.8%	0.0%	
		無回答	5.7%	8.5%	4.0%	2.9%	0.0%
	(11) 授業料の負担予定	総数	383	176	101	104	1
ほぼ全額を保護者が負担予定		88.5%	84.7%	92.1%	91.3%	100.0%	
一部をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)		8.6%	10.8%	6.9%	6.7%	0.0%	
ほぼ全額をご子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)		1.8%	2.8%	1.0%	1.0%	0.0%	
無回答		1.0%	1.7%	0.0%	1.0%	0.0%	
(12) 奨学金の認知	総数	383	176	101	104	1	
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	68.4%	67.0%	69.3%	70.2%	0.0%	
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	61.4%	60.2%	59.4%	65.4%	0.0%	
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	12.8%	13.1%	14.9%	10.6%	0.0%	
	地方公共団体の奨学金	24.8%	28.4%	16.8%	26.0%	0.0%	
	民間奨学団体の奨学金	21.9%	22.2%	23.8%	19.2%	0.0%	
	みがかずば奨学金	39.2%	42.6%	35.6%	36.5%	0.0%	
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	13.6%	14.2%	13.9%	11.5%	0.0%	
	育児支援奨学金	6.8%	5.1%	7.9%	8.7%	0.0%	
	入学料免除制度	32.9%	35.8%	28.7%	32.7%	0.0%	
	入学料徴収猶予制度	22.7%	27.8%	14.9%	22.1%	0.0%	
	授業料免除制度	32.4%	34.7%	29.7%	31.7%	0.0%	
	授業料徴収猶予制度	22.2%	26.7%	19.8%	17.3%	0.0%	
	知っているものはない	14.9%	13.1%	16.8%	15.4%	100.0%	
	無回答	2.3%	3.4%	1.0%	1.9%	0.0%	
(13) 奨学金の希望	総数	383	176	101	104	1	
	日本学生支援機構(第一種奨学金)	14.6%	16.5%	13.9%	12.5%	0.0%	
	日本学生支援機構(第二種奨学金)	8.6%	7.4%	8.9%	9.6%	0.0%	
	日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%	
	地方公共団体の奨学金	6.3%	6.8%	4.0%	6.7%	0.0%	
	民間奨学団体の奨学金	13.1%	11.4%	12.9%	15.4%	0.0%	
	みがかずば奨学金	15.1%	15.3%	12.9%	16.3%	0.0%	
	桜蔭会奨学金(3年生向け)	15.9%	14.8%	14.9%	18.3%	0.0%	
	育児支援奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	入学料免除制度	3.1%	5.7%	2.0%	0.0%	0.0%	
	入学料徴収猶予制度	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	
	授業料免除制度	6.5%	9.7%	5.0%	2.9%	0.0%	
	授業料徴収猶予制度	1.3%	2.3%	0.0%	1.0%	0.0%	
	希望するものはない	50.9%	51.1%	53.5%	48.1%	100.0%	
	無回答	8.1%	6.8%	8.9%	9.6%	0.0%	
(14) 知っている学生寮	総数	383	176	101	104	1	
	国際学生宿舎	45.4%	46.0%	41.6%	47.1%	100.0%	
	お茶大SCC	52.7%	52.8%	48.5%	55.8%	100.0%	
	小石川寮(大学院生向け)	26.1%	26.7%	22.8%	27.9%	0.0%	
	知らない	43.3%	42.0%	50.5%	39.4%	0.0%	
	無回答	2.1%	2.8%	0.0%	2.9%	0.0%	
(15) 入寮を希望する学生寮	総数	383	176	101	104	1	
	国際学生宿舎	19.1%	18.8%	15.8%	23.1%	0.0%	
	お茶大SCC	13.8%	13.1%	12.9%	16.3%	0.0%	
	小石川寮(大学院生向け)	2.1%	1.7%	1.0%	3.8%	0.0%	
	特になし	74.7%	73.9%	81.2%	69.2%	100.0%	
	無回答	3.1%	4.0%	1.0%	3.8%	0.0%	

新入生調査 基礎集計表 (保護者)3/3

		学部				
		総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(16) 受験から入学までに困ったこと	総数	383	176	101	104	1
	子どもの体調や精神面のこと	59.8%	56.8%	62.4%	61.5%	100.0%
	受験・入学のための費用準備	33.7%	40.3%	33.7%	23.1%	0.0%
	受験・入学手続きのスケジュールの管理	49.9%	52.8%	50.5%	45.2%	0.0%
	入学後の住まい探し	29.2%	28.4%	26.7%	32.7%	100.0%
	その他	3.7%	2.3%	4.0%	4.8%	0.0%
	無回答	4.7%	5.1%	3.0%	5.8%	0.0%
(17) 心配なこと	総数	383	176	101	104	1
	授業や単位	34.2%	33.0%	38.6%	31.7%	0.0%
	就職や将来	48.8%	51.1%	48.5%	46.2%	0.0%
	人間関係	50.7%	48.3%	60.4%	45.2%	0.0%
	生活・経済面	31.9%	35.8%	29.7%	26.9%	0.0%
	健康面	47.8%	48.3%	48.5%	46.2%	0.0%
	日常生活全般	34.5%	35.2%	33.7%	33.7%	100.0%
	その他	2.9%	1.7%	4.0%	3.8%	0.0%
	特になし	12.0%	11.4%	12.9%	12.5%	0.0%
		無回答	1.6%	2.8%	0.0%	1.0%
(18) 期待する学生支援活動	総数	383	176	101	104	1
	経済的支援	25.6%	27.3%	24.8%	23.1%	0.0%
	生活相談	23.0%	22.2%	19.8%	26.9%	0.0%
	健康相談	26.4%	22.7%	28.7%	29.8%	0.0%
	心理相談	31.3%	28.4%	31.7%	35.6%	0.0%
	学習支援	63.4%	64.2%	66.3%	58.7%	100.0%
	進路相談	76.5%	75.0%	82.2%	74.0%	100.0%
	就職支援	86.2%	91.5%	73.3%	90.4%	100.0%
	課外活動支援	26.1%	28.4%	25.7%	23.1%	0.0%
	その他	1.3%	0.6%	2.0%	1.9%	0.0%
	特になし	1.0%	0.6%	2.0%	1.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(19) 両親の最終学歴・父親	総数	383	176	101	104	1
	中学・高校	9.4%	11.4%	8.9%	6.7%	0.0%
	高専	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%
	専門学校・短大	4.4%	4.0%	5.9%	3.8%	0.0%
	大学	65.5%	68.2%	58.4%	67.3%	100.0%
	大学院	18.5%	14.2%	22.8%	22.1%	0.0%
	無回答	1.6%	1.7%	3.0%	0.0%	0.0%
(19) 両親の最終学歴・母親	総数	383	176	101	104	1
	中学・高校	15.1%	18.2%	10.9%	14.4%	0.0%
	高専	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	専門学校・短大	36.6%	41.5%	35.6%	28.8%	0.0%
	大学	43.1%	33.0%	49.5%	53.8%	100.0%
	大学院	4.4%	5.7%	4.0%	2.9%	0.0%
	無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
[データ活用の許可]	総数	383	176	101	104	1
	はい	99.5%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%
	いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
[個人情報登録の許可]	総数	383	176	101	104	1
	はい	93.0%	94.3%	89.1%	94.2%	100.0%
	いいえ	6.8%	5.1%	10.9%	5.8%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
[受験番号]	総数	383	176	101	104	1
	記入あり	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[お茶大入試方法]	総数	383	176	101	104	1
	一般	75.5%	65.9%	84.2%	83.7%	0.0%
	推薦(帰国含む)・文教育学部	0.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・理学部	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	推薦(帰国含む)・生活科学部	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	AO	5.5%	6.3%	5.0%	4.8%	0.0%
	高校	2.1%	2.8%	1.0%	1.9%	0.0%
	不明	15.9%	23.3%	9.9%	9.6%	0.0%
[回答者の続柄]	総数	383	176	101	104	1
	父親	24.3%	25.0%	21.8%	26.0%	0.0%
	母親	75.2%	74.4%	77.2%	74.0%	100.0%
	その他	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%

追加質問票自由記述 「専門(学科)を選んだ理由」 1/8

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
	学びたいことが学べる学科だから。
	好きだから
	高校で世界史を選択し、歴史を学ぶ意味とその面白さを知って、歴史という学問を大学で深めたいと思ったから。
	興味があったから。
	日本史を専攻したかったから。
	歴史を学びたかったから
	西洋史もしくは美術史を専攻したいと考えたため。
	歴史を学びたかった上に、学芸員の資格もとりたいからです。
	社会科教員の免許が取得できるから
	哲学や歴史に興味があるため
	美術史コースがあったから。幅広く学べるから。
	自分が学びたいことを学ぶのに最も適切だと思ったから。
	人文系学問を学びたかったため。また、地理の勉強ができるため。
	自分の興味関心に一致していたから。
	哲学に興味があり、研究してみたいと思ったから。
	自分が一番やりたいことができるから。
	地理環境学プログラムに興味があったから。
	歴史が好きなのと、グローバル文化プログラムを履修したいから。
	自然地理学や科学哲学に興味があるから。
	美術史に興味があったため。
	自分に合うと思った
	世界史、美術史に興味があったから。
	自分が学びたいと思うことが、一番学べそうだったから。
	学びたいコースがあったから。
	地理を学びたいから。
	グローバル化が進行していく中で、私たち人間がどのように生きていくべきかを学びたいから。
人文科学科	感覚の中でも視覚的イメージの扱い方に興味があり、人文科学科の目的の一つである「視覚情報を的確に受け取る力」を身につけたいと思ったから。
	考古学に興味があり、色々なコースを選べるため。
	史学に興味があったため。
	歴史に興味があるから。
	地理環境学プログラムに進みたいから
	哲学・倫理分野に関心があるから。
	歴史の裏には知られざる興味深い物語があり、日本史をもっと深く研究したいと思ったから。
	社会科系を学びたかった。
	好きな事を生かせる分野だから。
	高校の倫理の授業が楽しかったことから、もっと深く哲学・倫理学を学びたいと思った
	以前から日本史や平安時代を学びたいと考えており、オープンキャンパスで授業を体験した際、古瀬先生の授業を受け、自分が学びたいことを追及できると思ったから。
	さまざまな地域の歴史を学びたかったから
	学びたいコースがあるから。
	興味・関心があったから
	”比較歴史学”を学ぶことで歴史に対して深く学んでいくことが出来、かつ、”複数プログラム履修制度”や”リベラルアーツ”で幅広い教養を身に付けて多角的な視点で物事を見ることが出来るようになるか
	日本史を学びたかったから
	自分の学びたいことが学べるから。
	地理学コースには、独自の図書室などがあり、自ら学ぶ環境がととのっていたし、フィールドワークを多く行っており、生涯学び続けるスキルが身につくと思ったため。
	地理環境学プログラムで、世界のあらゆる問題を地理学的な支店から捉え、SDGsについて深く学びたかったから。
	自分の志望するコースがあるから
	自分のやりたい研究や勉強をするにおいて、最も適した学科だと感じたから。
	哲学や歴史に興味があり、深めたいから。
	歴史が好きだったので、専門的に学びたかったです。
	高校1年生で参加したキャリアガイダンスで興味を持ったから
	歴史が好きだから。2年生のときの大学の授業を受けた経験から。
	自分の学びたいことに沿っていたから。

追加質問票自由記述「専門（学科）を選んだ理由」2/8

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
言語文化 学科	日本文学について学びたいから。
	勉強したい内容だったから
	読書が好きで日本文学の勉強をしたかったから。
	語学が好きだから
	文学に興味があったから
	学びたいことが学べるため。
	言語学、日本文学に興味があったから。
	言葉に携わる勉強がしたかったため
	将来の夢であるアナウンサーとなるためにも、文学作品などを通して自国の言語に関する知識を深めたいと考えたから。
	将来のために英語を深く学び力を伸ばしたかったから。英語を学びながら教員免許を取得できることも魅力でした。また、オープンキャンパスでの先輩方の対応が丁寧で素敵だったため。
	将来、英語と仏語を用いて仕事をしたいから。
	言語について学びたかったため。
	実地調査を重視した勉強ができるから。
	興味のある分野だったから
	自分に合っていると思ったから
	学びたい分野であるため
	人の役に立ちたい、ボランティアをしたいという目標の実現のため、言語や文化についての知識を身につけ、相手と同じ立場、目線にたつことができるようになる必要があると考えていたから。
	大学に興味があったから。
	言語の高度なスキルを磨くことはもちろん、広い視点で文学や文化を学ぶことができるから。
	言葉は言葉にしかない特別な力があり、それを知りたいと思うから
	日本文学に興味があったから。
	学びたい分野が学べる学科だったから。
	英語圏文化コースで、言語・文化を通して高校の時よりも深く英語を学びたいと思ったから。
	英語が好きな科目だったので、言語を学ぶ事に興味を持ったため。
	文学について学びたかったから
	日本のことばや古典文学に関心があったため。
	英語だけでなくフランス語も修得でき、留学制度が充実していたから。
	単純に言語や文学だけを学ぶのではなく、その背景にある文化などまで深く学べるかと思ったから。
	言語を専門的に学びたかったから
	日本語学、日本文学に興味があったから。
	私は日本語が好きで、語学に強い興味がありました。大学は関東県内でないと行けないということで大学を探していたら、貴校の言語文化学科の説明に辿り着き行くしかないと思いました。
	国語が得意だったから。
	主プログラムをグローバル文化学、副プログラムを英語圏言語強化、日本語教育にし、広い視野を身につけて、自分の学んだことを正しく伝える力をつけたいから。
	自分の志望分野と合っていたから。
	日本文学を学びたかったから。
	自分の将来の目標を達成するのに最も近いと思ったから。
	日本文学について学びたいため。
	学びたいことに一番合っている学科だったから。
	興味のある分野だから
	文学を学びたかったから。
	英語を話せるようになりたかったから
	文学作品を読むのが好きだから
	日本語と日本文学を両方学びたかったから
	自分の興味のある分野だった。一番判定が良かった。
	中国文学や日本文学を学びたいと思ったから。
	フランスに興味があるから。
	面白そうだから。将来役立ちそうだから。
「あさきゆめみし」が面白くて日本の古典文学を学びたいと思ったから	
自分が興味をもつ分野に最も合う学科だと思われたから。	
日本語や近代文学の探求がしたかったから	
古代から現代までの幅広い日本文学を学ぶことができ、さらに日本語についても専門的に学ぶことができる、という環境に強ひかれたから。	
和歌を主として日本文学を学びたいと考えたから	
日本文学に強い関心があり、源氏物語等に精通した教授のもとで学びたいと考えたから。	
将来のために日本語力をあげたいと考えたから。	
問題があるからこそ、学ぶべきだと思った。	

追加質問票自由記述 「専門(学科)を選んだ理由」 3/8

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
言語文化 学科	英語圏の文学作品の研究に興味があったから。
	少人数制で大学の雰囲気良く、英語教育について学ぶことができるから。
	自分の語学力をより一層のばしていきたいし、その力を将来に役立てたいと考えたから。
	翻訳について研究したいことがあるから。
	言語に興味があり、学びたかったから。
	今まで「バレエ」という文化のかたちでフランスに接してきたことで、より深くフランス語圏について言語や芸術、文化などあらゆる面から学びたいと思ったから。フランス語を使ってコミュニケーションをとりたかったから。
	中国に滞在した経験から、中国についてさらに勉強をしたかったから。
	英語を大学でも学び、国際社会で活躍できる人になりたいから。留学をはじめとする語学力を高め様々な国の人と交流できる機会や支援体制が整っていると思ったから。
	自分が探求したい言語や文化について幅広く学べるから
	日本語・日本文学に関心があったため。
人間社会学 科	付属高校生向けの公開授業や教養基礎国語の授業の内容がとても面白く、日本語や日本文学についてもっと深く学んでみたいと考えたから。
	教員免許を取得できるから。
	オープンキャンパスの模擬授業と個別相談で先輩の話をきいて、自分が学びたいことと合っていると思ったから。
	将来、子どもに関わる仕事に就くことを希望しており、その実現に必要なことを学べると考えたから。
	広い視点で社会の問題を考察できる社会学という学問に魅力を感じたから。
	オープンキャンパスで授業を体験したときに、教育を社会的な条件から見るとということにおもしろさを感じたため。
	社会問題について学び、いろいろな角度からそれらを解決する力を身につけたいからです。
	勉強内容が自分のやりたい勉強にあてはまったから。
	自分の学びたいことが学べそうだったから。
	社会学に興味あったから。(人間生活学科も考えたが、基礎講義や第3のプログラムで法学や経済学を学べそうだったから。)
	社会学や国際関係について興味があり、また幅広く学べることに魅力を感じたから。
	人間がどのようにして今の現代社会に適応していくのかに興味があったから。
	少人数制であり、教育を中心に幅広く勉強できると思ったから。
	自分の興味があることが学べそうだったから。
	社会学に興味があり、教育関連の就職にも興味があったから。
	自身の学びたい教育学について深く学べると考えたから。
	社会学を学びたかったから。
	将来は日本の教育制度に関わる仕事がしたいと思ったから。
	教育学や心理学について学びたいと思っていたため。
	・大学で比較文化学について深く学びたいから。・文教育学部のグローバル文化学環に興味があったから。
	大学院に進学したい。社会学をやりたい。社会調査士の資格をとりたい。
	やりたいことを学べると思ったから。
	研究したい内容を学べるため。
	日本国内外問わず、子どもの貧困と教育格差について学びたいと考えており、その研究をしている教授がいらっしゃったから。
	興味のある教育社会学を学ぶことができるから。
	夢の実現のため
	国際的な日本の支援のあり方を考える、教育開発論の分野に関する授業が豊富であるため。
	興味のある教育学と英語を本格的に学べる学科であったため。
	教育について深く学びたいと思ったから。
	子どもが好きだから。
子ども学に興味があり、貴学でなら、資格取得をこえて子ども学を広く深く学べるから。	
私が感動をうけた本の著者が、本稿の名誉教授でいらして、その学問について学びたいと思った為、人間社会科学科を志望した。	
子どもにも興味があり、子どもについての勉強をするために子ども学プログラムに進学したいと思ったから。	
人間形成における、教育のあたえる影響について興味をもったから。	
教員・カウンセラー・教育メソッドの開発者といった広い意味での教育者を目指している為、幅広く深く教育について学ぶことができる、教職課程を履修できることに魅力を感じているから。	
高校に入学して様々な経験を積む中で教育学に興味を持ったから。	
高校の探求という授業で教育に興味をもち、また、人間社会科学科の教育科学コースでは、教育を多方面から学べると思ったから。	
将来の夢である「ジャーナリストになる」というものに一番役に立つと思ったから。	
お茶の水女子大学のグローバル文化学環に興味があり、グローバル文化学環に進める学科の中で自分に合っているのは人間社会化学科だと思ったから。	

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
芸術・表現 行動学科	幼いころからクラシックバレエを習い、舞台が大好きな私にとって、国公立大学で踊りを勉強できる唯一の大学に出会えたから。
	舞踊学を探究したいと思ったから。
	表現行動についての理解や考えをより深めたいと考えたから。
	自分の好きなことが学べるから。
	舞踊について学びたかったから。
	大学に入っても舞踊について学びたかったから。
	表現活動について理論と実践両方の面から学びたかったから。
	幼い頃から踊りに親しんでおり、学問の面から踊りを学びたいと思ったから。
	国公立で舞踊を学べる学科だったから
	幼稚園の頃からバレエを習っていたので、国立大学で舞踊について学べることに魅力を感じたから。
	学科で学べる内容に興味があったことと、国公立大学への進学を希望していたため。
	音楽を専門的に学びつつ、教職課程もとれるから。
	その学科を学びたいと思ったから。
	音楽が得意だったから。
	音楽はもちろん、語学面においても高めることができるから。
	3才からピアノを習ってきましたので、その経験を生かしたかった為
	音楽を専門的に学びたいと思っているため
	総合大学の中で音楽を究められる場所を探しており、自分の希望に非常に合っていたから。
	踊ることについて実技だけでなく理論的にも学ぶことができるから。
	踊ることが大好きで大学でも舞踊を学びたいと思っていたから。理論にも興味があった。
舞踊教育学があったから	
勉強とピアノの両方をしっかりやりたいと思ったから。	
学びたかったことが学べると思ったため。	
自分にとって関心のあるものがあったから。	
1、2年時には専門を決めず演奏額・音楽学を学ぶことができるから。また、総合大学の学生として学ぶので音楽を様々な分野や観点から学ぶことができるから。	
数学科	数学に強い関心があったため。
	数学の教員になりたいと思ったから。
	センター試験の配点が低かったから。
	入試のセンターの配点の割合が理学部の中で一番低かったから。
	理学部の中で数学科が1番自分の将来の仕事に生かせそうだったからです。
	興味がある
	数学が好きだから
	数学に興味があったから。
	数学の教師になるため。
	後期日程の中で、二次配点が高く、数学の問題の傾向が自分に合っていると思ったから。
	高校一年生だった時、とある数学の女性教師に出会い指導をうけたことをきっかけで数学が好きになりました。そのような素敵な女性になりたいと思ったからです。
	数学の教師になりたいから。
	数学が好きで大学でもさらに学びたいと考えたから。将来数学を生かした就業に就きたいと考えたから。
以前から私は数学に強い興味を持っています。問題をとく時にも、自身の知識を総動員し、答えを出せるように力を入れて勉強してきました。絶え間なく思考し、正解を得るまで数学を探究する過程が面白いと思ひ、数学科を選びました。	
数学を広い分野で深く学びたかったから。	
もっと数学を学びたかったので数学科を選びました。	
物理学科	宇宙に魅力を感じ、それをさらに知るためには物理学を学びたいと考えたから。
	センター試験をふまえて、入試内容が有利だったから。
	物理が好きだから
	高校での物理の授業が好きで、さらに発展的な学習をしたいと思ったから。
	物理が好きで、物理の教員になりたいから。
	在学中に興味があることを見つけられそうだから。
	オープンキャンパスで興味を持ったから。
	物理が好きで、もっと深く学びたいと思ったから。
	物理学を学びたかったから。
	高校2年生の頃から物理が好きで、より深く学びたいと思っていた。
	中学生の時、量子力学について書いてある本を読んだことがきっかけです。その時から量子力学に興味を持ち、お茶の水女子大学の物理学科を志すようになりました。
	二次試験がなかったから
	物理が好きだから
物理が好きだから。	
物理がとても好きで、研究したいです。	

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
化学科	将来就きたい職業に一番近い学科であるため。
	化学が好きで、化学を応用しながら、化粧品開発したいから。
	少人数制で先生との距離が近いから。幅広く化学を学べるから。
	高校時代、化学の問題を解くのが楽しかったから。化粧品に興味があったから。
	興味があったから。
	高校の授業を通して化学が楽しいと感じたから。
	化学が好きだから。
	小学生から理科が好きで、高校に入って専門別に学んだときに、化学が一番興味があり、もっと学びたいと思ったから。
	化学が好きだったから。
	自分の将来つきたい職業への就職に近いから
	国立の女子大で化学を深く学びたかったからです。またオープンキャンパスに参加した際、研究設備が充実していることを知ったからです。
	化学が好きで、幅広い種類の研究室があったから。
	創業に関係する研究室があるから。
	高校での化学の授業を受け、化学に興味を持ち、もっと詳しく学びたいと感じたから。
	パンフレットやオープンキャンパスでの雰囲気や研究内容にとっても魅力を感じたから。
	自分が最も興味のある分野だから。
	化学に興味があったから。
少人数でまた実験を重視している化学科だったから。	
生物学科	生物が好きだから。
	実習が多く、生物の神秘について自分で研究ができると思ったから。
	高校の科目で一番生物が好きで、もっと勉強したいと思ったから。
	生物に興味をわき、もっと深く学びたいと思ったから。
	高校で生物を選択しており、より詳しく学びたいと思ったため。
	都会の女子大という雰囲気に憧れており、生物が好きで将来研究職に就きたいと考えていたから。
	生物が好きで大学でより深く学びたいと思ったから。
	生物が好きで、興味があったから。
	生物が好きだったから。
	オープンキャンパスの展示の内容が面白く、先輩方がとても楽しそうだったから。
	生物が好きだから
	生物の授業で生物を好きになり、遺伝やゲノムについて興味を持ったから
	生物が好きで、大学でも学びたいと思ったから。
	先生のおすすめでした。
	生物が好きだから
	高校の授業で生物の授業が一番楽しかったから。
	アドミッションポリシーを読んで魅力を感じ、自分に合っていると思ったから。本気で生物学を学べると思ったから。
生物について興味があり、やりたい研究があったため。	
高校のSSH活動を通して生物学に興味をもったから。	
幼い頃から興味のある分野であり、さらに知識を深めるとともに、高度な研究を行いたいと考えたため。	
子どもの頃から生き物が好きだったから	
生物が好きだから	
情報科学科	専門的な知識が身に付くと思ったから。
	プログラミングに興味があったから
	自分にとって学びたいことだったから。また興味があったため。
	学びたいことが学べ、学校に魅力を感じたため。
	情報関連について学びたかったから。
	将来就きたい職種が情報系だから。
	情報系の勉強に興味があったから
	情報系に興味があったから。
	父が情報関連の仕事をしていたから。
	IT系に興味があったから
	プログラミングに興味があるから
	理系学科が1つしかなかったから。
	情報の分野に興味があったから
	・興味のある分野の研究室があったため ・高校の情報の授業が興味深かったため ・就職に強いと聞いたため
	情報系に興味があったので。
	将来IT関係の仕事がしたいから。
	理系の為化学と情報で迷い将来の仕事を考えて情報を選択しました。
幅広い分野に興味があり1つに絞ることが難しかったため、どの分野にも必要不可欠である情報系がよいと考えたから。	
これからさらに世に必要とされる分野だと思ったから。	
プログラミングに興味があるから。	

	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
情報科学科	面白そうだったから
	受験科目・配点
	情報科学に興味があったから。
	興味を感じたから。
	非常に広い分野に関わることができるため。
	一浪した身であること、後期の出願であることから絶対に合格する所を選ばなければいけなかったから。
	国内での人材が不足している分野であり、需要が高いであろうと思われ、自分自身もAIを使用した医療機器などに興味があったから。
	自分の学びたいことがあったから。
	情報やコンピュータを利用した研究をしたいから。
	高校で学ぶなかで最も興味を持ち、より深く学びたいと思ったから。
	元々コンピューターに興味があり、人工知能について学びたいと思ったから。
	将来システムエンジニアになるという目標を達成するため。
	女性が主体的に活動しやすい環境があり、積極的に勉学に励むことができると考えたため。
	女子大で、のびのびと興味の有る学問について学びたいと思ったから。
食物栄養学科	将来の夢を管理栄養士と決めたので栄養について学べる学科に入りたかったから
	食品が本来持つ機能成分について研究したいと思ったから
	夢が見つかりそうだから。
	食物について学びたかったから。
	管理栄養士になりたいため。
	管理栄養士に興味があり、その試験受験資格を得られる学校の中でも特に食に関する分野の学習が充実している印象を受けたから。
	管理栄養士になるための勉強がしたかったから。
	もともと栄養の効果的な摂り方や食べ合わせに興味があり、またそのしぐみが化学や生物の学習と密接に関わっていることを知り、純粋に楽しそうだと感じたから。またその知識を日常生活に活かしていきたいと思った。
	管理栄養士になりたいと思っていたので選びました。
	興味があったから。
	管理栄養士の勉強ができるから
	将来管理栄養士になりたいと思っているから。
	全国トップのことを学べると思ったから
	管理栄養士の国家試験の受験資格が得られるから
	食物系の分野を学びたいから。
	食を食べることが好きで、栄養について学びたいと思ったからです。
	食に興味あるから。
	食に興味があったから。
	食に関する学問をこれほど幅広く、深く学ぶことができるのはこの学科しかないと思ったからです。
	食について興味があったから。
	食事と人と関わりや、調理法に興味があったから。
	楽しく感じる学問だから。
	栄養学を学ぶことのできる大学の中で最高峰であるから。
	食や栄養に興味があったから。
	好きだから
	興味のある分野だから。
	取れる資格
栄養士の資格がとれる点に魅力を感じたから。	
祖母の病気をきっかけに管理栄養士という仕事に興味を持ったから。	
楽しそうだったから。	
女性の栄養スペシャリストになりたいから。	
自分の興味に合っていたから。	
健常者も病気をかかえた人も安心して継続して食べられる食品について研究したいからです。	
将来管理栄養士になり非常食開発をしたいと考えているため。	

人間・環境 学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
	幅広く学ぶことができそうだったから。
	自分に適していると思ったため。
	私の興味のある分野が学べる学科であるから。
	文理融合的な、それに近い研究ができそうだから。
	教養科目を幅広く学べること。・ジェンダー教育を自分の将来のキャリアに役立てられること。
	学習する内容の幅広さにひかれたから
	オープンキャンパスに参加して魅力を感じたから。
	自分の学びたい学問(生活工学)が学べるから。
	元々住居系や建築系のことを学べるところを探していて、生活科学部の人間・環境科学科を見つけました。その後、興味のある分野が広がっていき、それらを幅広く学べるこの学科しかない！と思い選びました。
	住環境や衣環境に興味をもったから。
	理科が好きのため
	興味のあることが学べるから。
	興味を持った学科だったから。
	・環境について学べる授業があった ・生物選択者だが、建築士の資格を取ることができた。
	自分の興味のある分野の周辺分野も含めて幅広く学べると思ったから。
	一級建築士を目指せるから。
様々な進路が選択できるから	
幅広い分野が学べるから。	
建築を学びたいと考えているため。	
自分に向いていると感じたから。	
高校三年間で、研究を行ってきたが、研究と社会貢献との橋渡しをしたいと思うようになり、その学科が最も適当だと思ったから。	
人間生活学 科	ジェンダー学、社会学を深く学びたいと考えていたため。
	大学パンフレットを見て、自分が興味をもつ社会問題について学べそうだと感じたから。
	衣に関して勉強したかったからです。
	生徒の声を読んで自分の学びたいことと合致していると感じたから。
	学びたい内容のカリキュラムが充実していたから。
	興味のある政治学や経済学、社会学を存分に勉強できると思ったから。
	児童学に興味があったうえで、パンフレットやホームページを見て自分の興味ある学問を学ぶことができると思ったから。
	理系にも興味があったので、理系学部で他学科の理系の人とも関わられることを魅力的に思って人間生活学科にしました。
	ジェンダー論や法学、社会学などを幅広く学びたいと思ったから。
	他にあまりない学部名に興味をもったから。
	自分が将来関わりたいと考えている仕事に就くための勉強ができると思ったからです。
	貧困問題などの社会問題に興味があり、それを深く知り解決策を考えたりできる学科だと思ったから。
	アパレルや演劇の衣装に興味があるから。
	子どもの発達に強い関心がある。また、子どもをとりまく環境を整えることが重要だと考えており、そのために必要なことなどを多くの観点から学びたいと考えたため。
	高校の勉強を通して貧困問題や労働問題に興味を持ち、不良な環境で生活する人々を助けるために勉強したいと思い、人間の生活に関わる様々な分野を広く学ぶことができるこの学科に行き着きました。
	比較文化論に興味があったから。
	社会学を始め、色々な事が学べるため
	社会学を学びたかったから。
	興味のある社会学と法学を学べる学科だったから。
	社会科学(特に経済・商学系)に興味があったため。
	ジェンダーについて学びたかったから。
	自分が興味、関心のあることを幅広く学ぶことができるから。
	社会科学を幅広く学べるから。
	社会学だけでなく、法学や経済も学ぶことができるから。
	興味深かったから。
	社会の仕組み、関係を学びたいと思ったから
	学科理念に感銘を受けたため。
私は将来、日本の伝統文化の復興に貢献したいので、そのために自国の文化に対する理解を多角的な視点から学びたいと思ったから。	
社会科学全般を横断的に学べるから。	
・学際的な学びができる ・少人数制で教授との距離が近い	
女性のエンパワーメントに興味を持っており、特に子育て支援や働く女性に関して、深く学んでいきたいと思ったからです。	
学びたい学問分野の全てを学べるため	
興味のある分野を学ぶことができ、オープンキャンパスの雰囲気良かったからです。	

	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
心理学科	興味があったから
	公認心理士の資格取得のため
	法律に興味があったから。
	心理カウンセラーという職業に興味を持ち始めて心理学科で学びたいと思うようになりました。
	就きたい職業に就くために、学ぶ必要があることを学べるから。興味があるから。
	カウンセリング関係の仕事をしたいから。
	以前から心理学に興味を持っていたため。
	「科学者—実践者」の養成という目的に魅かれたため。
	ジェンダー心理学に興味があるから
	心理学に興味があったから
	心理学に興味があったから。
	国家資格を取りたい
	心理学が学べるため。
	人間の心理という一見科学とは結びつかないような領域をあえて科学的に解明しようとする試みに強い興味を持っていたため。
	どんなにAIの技術が進んでも人の心理のかわりにはできないと考えたから。
	心理学がやりたかったから。
	様々な先生の授業が回しうけできる点で、自分の学びたいものを吟味できるため。
	心理学に興味があるから。
	自分が将来やりたいことに役に立つ学問を学べると思ったから。1人の人間としても成長できるようなことを学べるのではないかと思ったから。
	学べる分野の幅の広さと豊富な教授陣
公認心理士の資格を所得したいと考えているため。	
将来学校カウンセラーになりたいと思っており、またお茶の水女子大学の少人数制、心理学を広く深く学べることに魅力を感じていたため。	
悩んだり、助けを求めている人に気付き、助けられるような人間になりたいと考えたから。	
テレビで見た虐待事件をきっかけに、人間の心理に興味をもち、心理学を深く学びたいと思ったから。	
将来やりたいこと、学びたいことだった為 学びたいという熱意が持てる分野だった為	
心理学科が他大学と比べて理系側に位置づけられているから。	

平成 31 年度 新入生の生活に関する調査報告書

発行日：令和 2 年 3 月

発行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
東京都文京区大塚 2-1-1

TEL 03-5978-2646

FAX 03-5978-5894

E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp
